

- 二、船舶カ航行ノ用ヲ爲サ、ルニ至リタルトキ
- 三、日本船舶タルノ資格ヲ失ヒタルトキ
- 四、外國船舶ノ借用ヲ解キタルトキ
- 五、航行期間内ニ検査ヲ受ケ新證書ヲ交付セラレタルトキ

(五)航海獎勵認許証書 (Certificate of Competency under the Navigation Encouragement Act.)

航海獎勵金ヲ受ケント欲スル船舶カ成規ノ検査ニ合格シタルトキハ、遞信大臣ヨリ航海獎勵法ノ規定ニ適合スル旨ト有効期間トヲ記スル「認許証書」ヲ出願人ニ交付スヘシ、此ノ証書ノ有効期間ハ一年以内ニシテ、船舶ノ現状ニ依リ長短ヲ定メラルヘク、若シ証書ヲ滅失毀損スルカ又ハ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ、前示検査証書ノ如ク再授又ハ書換ヲ出願スヘク、又左ノ如キ場合ニハ直ニ証書ヲ返納セサルヘカラス、

- 一、証書ノ有効期間満了シタルトキ
- 二、船舶ヲ賣渡、貸渡、交換又ハ贈與シタルトキ

- 三、營業ヲ廢止又ハ停止シタルトキ
- 四、船舶ヲ滅失又ハ解撤シタルトキ
- 五、航海獎勵金ノ下付ヲ停止セラレタルトキ
- 六、船主カ死亡又ハ破産シタルトキ

(六)検査旅費及手数料

總テ船舶ノ検査ヲ申請スル者ハ、其ノ検査ノ爲メ検査官ノ出張ヲ要スルトキハ、成規ノ旅費日當ヲ納メ、又船舶検査證書若クハ假証書(再授、書換ヲモ含ム)、回航認可證書、又ハ別種旅客室検査證書ヲ交付セラレタルトキハ、手数料一圓ヲ納ムヘキモノナリ、

第二 英國「ロイド」検査

我國重ナル船主ハ、所有船舶中相當ノ資格ヲ具備スルモノヲ撰テ、英國「ロイド」協會 (British Lloyd's) 検査員ノ検査ヲ受ケシメ、其ノ定メタル等級ヲ以テ同協會出版ノ船名錄ニ編入セシムルノ例ニシテ、同協會(在倫敦)カ世界ノ海運社會ニ於テ位置名望ノ高キニ依リ、其ノ船名錄ニ編入シ且ツ其ノ証明スル検査証書ヲ受有スルハ、亦

以テ廣ク旅客、荷主、保險業者等ニ對シ本船ノ信用ヲ維持スル一助ト爲ルヘシ、即チ茲ニ「ロイド」検査ノ事ニ付テ「一」説明スル所アラントス（断ル協會ハ左記「備考」ノ如ク其他諸種アレトモ本邦ノ船舶ハ大概英ノ

「ロイド」下關係アルヲ以テ特ニ掲ケ

（備考）

- 今日世界ニ於テ船舶ノ検査、等級別等ヲ業トスル組合ハ前示英國「ロイド」ノ外左ノ七個所アリ
 - 「ビネーロー、ウエリタス」(Bureau Veritas) 在佛國巴里
 - 獨逸「ロイド」(Deutscher Lloyd) 在獨逸伯林
 - 「ウエラインキング、ウアム、アセキエラデヨナン」(Vereniging Van Assaara-dennan) 在荷蘭アムステルダム
 - 「ノルスケ、ウエリタス」(Norke Veritas) 在諸威クリスチアナ
 - 「ウエリタス、オーストロ、ウングアリ」(Veritas Austro Ungarico) 在奧國トリエスト
 - 「レジストロ、イタリアノ」(Registro Italiano) 在伊和セリア
 - 「アメリカン、レコルド」(American Record) 在米國紐育
- 而シテ廣ク内外船舶ノ検査ヲ引請ケルモノハ英國「ロイド」及佛國「ビネーロー」、ウエリタスノミニシテ其他ハ自國船舶ノ検査等ニ限ルカ如シ

(一) 検査ノ種類

鋼製及鐵製ノ船舶ハ一旦検査ヲ受ケタル後、V-I級100乃至150ノ範圍ニ於テ相當ノ等級ヲ附セラレ、其後検査ヲ受クルニ方リ船舩機關共ニ故障ナキ以上ハ、幾回トナク證

書ヲ更新セラルヘキナリ、検査ハ船舩検査ト機關検査トニ別チ各左ノ如ク區分セリ、

(イ) 船舩検査

一、年次検査

是レ船舩ノ現狀ヲ詳ニスル爲メ、年々行ハル、普通ノ検査ナリ、

二、特別検査

特別検査ニ第一號、第二號、第三號ノ別アリ、100 A1乃至95 A1及80 A1ニ列スル鐵製及鋼製ノ船舶ハ、四年毎ニ順次右番號ヲ逐フテ検査ヲ受クヘシ、即チ年齡滿四年ニ於テ第一號、八年ニ於テ第二號、十二年ニ於テ第三號ノ特別検査ヲ受ケ、第三號検査ヲ終リタル後ハ更ニ四年ヲ經ル毎ニ、右番號ヲ繰返シテ検査ヲ受クヘキモノトス

又85 A1、80 A1及75 A1ノ鐵船并ニ特別ノ目的ヲ以テV-I級ニ編入シタル鋼船

ニ於テハ三ケ年毎ニ右ト同ク第一、二及三號ノ特別検査ヲ受ケサルヲ得ス、

但シ前示第一號及第二號ハ、各其ノ期日ニ先ツコト十二ヶ月以内何時ニテモ、

又第三號ハ其ノ期日前何時ニテモ、船主ノ都合ニ依リ検査ヲ受クルコトヲ得、

(ロ) 機關検査

一、年次検査

各汽船ニ在リテハ可成毎年壹回宛、汽機汽鐘ノ検査ヲ受クルヲ要ス、

二、特別検査

前文イ項二、ニ記スル第一、二及三號ノ船舫特別検査ヲ受クルトキハ、同時ニ機關ノ特別検査ヲ受クルヲ要ス、但其ノ以前十二ヶ月以内ニ、汽機汽鐘ノ特別検査ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラス、

三、汽鐘特別検査

汽鐘ハ年齢滿六ヶ年ニ至レハ特別検査ヲ受ケ、其後毎年壹回同ク特別検査ヲ受ケ
ヘシ、

(二) 検査執行地

船舶ノ検査期限ニ近ツクトキハ、最寄ノ港ニ駐在スル「ロイド」協會検査員ヨリ、其

旨ヲ船主ニ通知シ來ルノ慣例ニシテ、検査ハ世界中各主要ノ港ニ於テ執行スルヲ得ヘシ、

(三) 検査證書

(イ) 船舫検査證書

此ノ證書ニハ、「汽船何丸」(船籍港、噸數、船長ノ氏名ヲ記入ス)ハ本協會検査員ニ依リ某地ニ於テ検査ヲ受ケ、何年何月何日善良有効ノ現狀ニ在リ、乾濕各種ノ貨物ヲ運送スルニ適スル旨ヲ報告セラレタルコト、并ニ同船ハ引續キ TOW A R (一例ヲ示ス)ノ資格ヲ以テ(但裏面ニ記スル定時ノ検査ヲ受ケヘキモノトス)、本協會船名録ニ編入セラレタルコトヲ證明ス云々ト記スルモノナリ、

(ロ) 機關検査證書

此ノ證書ニハ「汽船何丸」(船籍港、噸數、船長ノ氏名ヲ記入ス)ノ汽機及汽鐘ハ、本協會検査員ニ依リ何年何月何日某地ニ於テ検査ヲ受ケ、善良有効ノ現狀ニ在リ、且ツ一平方吋何封度ノ壓力ニ於テ安全使用スヘキ旨ヲ報告セラレタルコトヲ證明シ、且ツ検査終了シタ

ルニ依リ、船名録中ニ機關検査證書ヲ登録シタル旨」ヲ記スルモノナリ、

第二 検査ニ關スル船長ノ注意

船長ハ其ノ船舶ノ有スル検査證書ノ有効期間ヲ確知シ、期限ニ近ケハ早ク船主ニ申出テ、受檢ノ爲メ船線ニ差支ヲ生セシムルコト無カラシムルヲ要ス、而シテ検査ヲ受ケントスルトキハ、検査官ノ命令ニ從ヒ夫々必要ノ準備ヲ整ヘ、受檢中ニハ一等運轉士及機關長ヲ検査官ニ隨ハシメ、各其ノ主管ニ屬スル部分ノ検査上ニ便宜ヲ與ヘ、検査終了シタルトキハ直ニ其ノ成績ヲ船主ニ報告シ、尙ホ今後修繕補充スヘキ箇所又ハ特別検査ノ期日等ニ付テ、検査官ヨリ何等ノ命令アリタルトキハ其ノ詳細ヲ報告スヘシ、又法定検査ニ於テハ、之ヲ終ラレハ検査官ヨリ紙囊中ニ封入セル安全瓣ノ鍵(検査官ハ機關ノ現狀ニ應シ汽壓制限ヲ定メ其ノ定度ニ於テ安全瓣ヲ封スルモノナルヲ以テ、機關ノ破損等已ムヲ得サル場合ニ非サレハ、此鍵ヲ以テ封ヲ解クヘカラス)及検査手帖(是レ海事官ノ手扣ニテ、検査ニ關シ事項ヲ記入シ、次回ノ検査ニ參考ト爲ス)ヲ交附セラルヘキヲ以テ、船長ノ手許ニ之ヲ保管シ濫ニ開封セサルモノトス、

第二節 修繕

第一 修繕、模様替等

船艙機關其他屬具ニシテ毀損ノ箇所アルトキハ、之ヲ修繕シテ舊狀ニ復セサルヘカラス、又現狀ノ儘ニテ不都合ヲ感スル部分アラハ、更ニ模様替(改造)ヲ爲シ若クハ建増(増設)ヲ爲スノ必要アルヘシ、又陳腐磨滅ニ屬スルモノアラハ、之ヲ新規取換(レニユル)フルコト肝要ナルヘシ、蓋シ船舶ハ一面ニハ航海ノ安全ヲ期スル點ニ於テ、一面ニハ營業ノ利益ヲ圖ル點ニ於テ、常ニ完全ナル準備ヲ要スルモノナレハ、其ノ船主ヨリ船員タル者ハ、是等ノ二點ヲ念頭ニ保チ、船艙機關及其ノ屬具ノ保存改善ニ志スヘキコト當然ニシテ、不慮ノ災難ニ罹リ損所ヲ生シタル場合ヲ除キ、通例少ナクモ四五年毎ニ大修繕ヲ加フルノ必要アリトス、然レトモ、修繕、模様替等ノ工事ニハ多分ノ金額ト時日トヲ要スルモノナルヲ以テ、亦經濟上ノ考ヲモ念頭ヲ去ルヘカラス、例ヘハ急要ノ工事ニ非サル上ハ可成船舶用途ノ閑ナル時ヲ撰ヒ、又定期入渠若クハ定期検査ノ時マテ延引スルヲ可トス、其他普通些細ノ修繕等ハ、必ス船員ノ手ヲ以テ之ヲ行フノ方針ヲ取ラサル可ラサルナリ、

第二 船底ノ塗替(定期入渠)

船舶ノ海上ニ浮游スルトキハ、介蟲、苔草等船底ニ附着シテ速力ヲ減スルノミナラス永

ク等閑ニ附スルトキハ、塗料亦剝脱シテ船底次第ニ腐蝕スルノ虞アリ、故ニ鋼製及鐵製ノ船舶ニ於テハ、六ヶ月乃至十二ヶ月毎ニ入渠又ハ上架シ、此際船底ノ掃除及塗換ヲ爲スト共ニ必要ノ工事ヲ加フルヲ例トス、

第三 汽罐ノ掃除

汽罐ハ高度ノ熱湯ヲ容レ絶ニス使用セラル、モノナレハ、少ナクモ三ヶ月毎ニ之カ掃除ヲ爲シ、湯垢ヲ落シ鹽分ヲ拭ヒ去ルヘキハ勿論、罐ノ内外及附屬装置ニ、罅隙又ハ腐蝕ノ徴候ナキヤ否ヤヲ嚴重ニ検査スヘシ、

第四 壓艙水槽ノ掃除及防腐手當

二重底船ノ壓艙水槽ハ、往々腐蝕スルノ虞ナルモノナルヲ以テ、此種ノ船舶ハ各期限ヲ定メテ水槽ノ内外ヲ丁寧ニ掃除シ、且ツ「ウオツシ、シメント」ヲ塗付クル等腐蝕防禦ノ手當ヲ施スコト甚タ肝要ナリ、

第五 修繕等ニ關スル船長ノ注意

船舶ニ修繕、模様替、建増、又ハ取換ヲ要スル部分アルトキハ、船長ハ精細ニ之ヲ調

査シ、其ノ個所、程度、事由、緩急等ヲ具シテ船主ニ申出ツヘシ、又船底ノ塗換、汽罐若クハ壓艙水槽ノ掃除ヲ要スルトキハ、豫メ其旨ヲ申出テ船線上ニ不都合ナカラシムルコト須要ナリ、修繕以下ノ工事中ニハ、一等運轉士及機關長ヲシテ各其ノ主管ニ屬スル部分ヲ管轄セシメ、且ツ自ラ巡視シテ作業ノ巧拙、工事ノ進捗等ニ注意スヘシ、而シテ是等ノ工事ヲ始メ船底塗替、汽罐掃除等ノ終了シタルトキハ、詳細ノ報告ヲ差出スヘキハ勿論ナリ、

第七章 船舶ノ種類、積量及設備

第一 船舶ノ種類

船舶ハ英語ニテ「シップ」又ハ「ヴェッセル」(Ship or Vessel)ト稱シ、海洋、湖川又ハ港灣ヲ運航スル目的ヲ以テ製造シタル浮動物ノ總稱ニシテ、軍艦アリ商船アリ漁船アリ、其他探検船、快遊船等特種ノ用務ニ應スル雜種船アリ、又燈臺船、檢疫船ノ如ク或ル一定ノ場所ニ碇繋スルモノモアリ、要スルニ「シップ」ト云ヒ「ヴェッセル」ト云ヒ兩語共ニ意義ヲ同クシ如何ナル種類ノ船舶ニモ適用シ得ヘシト雖モ、通常「シップ」ハ海洋ノ航海ニ適スヘキ大形船ヲ指稱スルカ如シ、而シテ本章ハ商船 (Merchant Ship) ヲ主トシテ説明セント欲スルモノニシテ、商船ハ造船材料、推進力、型式、タイプ、リッツス、ブリ航路限定及用途ノ如何ニ依リ其ノ種類構造等ヲ異ニス、今左ニ逐次畧述スル所アルヘシ、

(一) 造船材料 (Shipbuilding Material) ニ關スル船舶ノ種類

(イ) 鐵船 (Iron Vessel)

讀ンテ其字ノ如ク、船体ノ全部即チ船骨、外板共ニ鐵ヲ以テ造リタルモノヲ謂ヒ、又我カ造船規程ニ於テハ外板ハ鐵ニシテ船骨ニ鋼ヲ用フルモノモ、併セテ鐵船ト爲セリ、

今ヨリ凡ソ半世紀前鐵船ノ始テ構造セラレシ以來、經驗ノ示ス所ニ依レハ、鐵船ニ於テ常ニ船体内外ノ掃除、塗方等ノ手入ヲ怠ラサルトキハ、獨リ永年ノ使用ニ堪フルノミナラス、又木船ノ如ク時々船底覆板ノ張替、外板ノ鑿打等ノ手數ト費用トヲ要セス、多クノ點ニ於テ木船ニ優ル所アルヲ以テ、爾來鐵船ヲ造ルモノ年ヲ追フテ増加シ、遂ニ木船ヲ壓倒スルニ至レリ、

(ロ) 鋼船 (Steel Vessel)

船骨、外板共ニ鋼ヲ以テ造リタルモノ、若クハ外板ハ鋼ニシテ船骨ニ鐵ヲ用ヒタルモノヲモ併稱ス、

鋼ノ造船材料トシテ始テ使用セラレタルハ僅々十四五年前ノ事ナレトモ、鋼ハ鐵ヨリ遙ニ大ナル抗張力ヲ有スルヲ以テ、同大ノ船舶ニ於テ鋼製ナラハ鐵製ノモノヨ

リモ通常外板ノ厚サ五分一ヲ減少シ得ラルヘク、從テ兩船ノ重量ニ著シキ差異ヲ生シ、鋼船ノ方ハ其ノ割合ニ多量ノ貨物ヲ積ミ得ルノ利益アリトス、近年造船材料トシテ益々鋼ヲ撰フモノ多ク、殆ト鐵船ヲ凌駕スルニ至リシモ亦偶然ニ非サルナリ、

(ハ) 木鐵交造船 (Composite Vessel)

船骨ニハ鐵若クハ鋼ヲ用ヒ外板ニ木ヲ用フルモノヲ謂フ、又鐵骨木皮船トモ稱スレ往時ハ製茶貿易船トシテ、此種ノ帆船大ニ貴重セラレタルモ、今ヤ汽船ノ爲メ其業ヲ奪ハレタルト、比較的ニ造船費ノ大ナルトニ由リ、貨物船トシテ斯ル船舶ヲ造ルモノ殆ト稀ナリ、

(ニ) 木船 (Wooden Vessel)

船骨、外板總テ木ヲ用フルモノヲ謂フ、近來造船術ノ發達シタルト共ニ、全身木材ヲ以テ汽船ヲ造ルモノ稀有ニシテ、多クハ帆船トシテ構造セラル、ノミ

(一) 推進力ニ關スル船舶ノ種類 (How Propelled)

(イ) 汽船 (Steam-ship or Steamer)

汽船即チ蒸汽船ハ、蒸汽力ヲ用ヒ機關ノ作用ニ由リテ運轉スル船舶ニシテ、左右兩舷ノ外側ニ車輪ヲ備フルヲ外車汽船 (Paddle Steamer) ト謂ヒ船尾ニ大ナル車輪ヲ備ヘ吃水淺クシテ重ニ河川ノ航行ニ用ヒラル、モノヲ船尾外車船 (Stern Wheel Vessel) ト謂フ、又船尾ニ螺旋一個ヲ備フルヲ單暗車汽船 (Single Screw Steamer)、二個ヲ備フルヲ雙暗車汽船 (Twin Screw Steamer) ト稱ス、而シテ近來益々技術ノ進歩スルニ伴ヒ、米國海軍ノ如キハ三暗車汽船 (Triple Screw Steamer) ヲ創造スルニ至レリ、

(ロ) 帆船 (Sailing Vessel)

帆船即チ帆前船ハ、風力ヲ用ヒ帆ニテ運轉スル船舶ヲ總稱ス、而シテ商船學校練習船月嶋丸ノ如ク、補助機關ヲ備フルモ主トシテ帆ノ作用ニ由リ運轉スルモノハ、均ク帆船ト看做スヘキナリ、

(三) 型式 (Type) ニ關スル船舶ノ種類

型式ニ由テ船舶ノ種類ヲ區別スルニハ、全通甲板ノ層數ニ由ルモノト甲、甲板構

造ノ強弱ニ由ルモノト(乙)ノ二様アリ、之ヲ分説スルコト左ノ如シ、

(甲) 全通甲板ノ層數ニ由ル區別

(イ) 一層甲板船 (One Deck Vessel) トハ、全通甲板一層ノミヲ有シ通常船体ノ深サ十二三呎位ノモノヲ謂フ、

(ロ) 二層甲板船 (Two Deck Vessel) トハ、全通甲板二層ヲ有シ若クハ一層ト下層船梁ヲ有スルモノヲ謂フ、

(ハ) 三層甲板船 (Three Deck Ship) トハ、全通甲板三層ヲ有シ若クハ二層ト船梁又ハ船梁トヲ有スルモノヲ稱ス、

(ニ) 四層甲板 (Four Deck Ship) トハ、全通甲板四層ヲ有スルモノヲ稱ス、

(乙) 甲板ノ強弱ニ由ル區別

(イ) 重甲板船 (Heavy Deck Ship)

我カ造船規程ニ於テ重甲板船ト稱スルハ、其ノ上甲板(最上ノ甲板)下ニ隨意ニ重量ノ貨物ヲ積載シ得ヘキ船舶ヲ謂フ、但シ三層重甲板船トハ、第二甲板(第二層

ノ甲板)梁ノ上面迄ノ深サ十七呎以上ニシテ、二層以上ノ甲板及船梁(若クハ之ニ代用スヘキ特設肋骨又ハ深式肋骨)ヲ有スルモノヲ謂フ、

(ロ) 輕甲板船 (Spar Deck Ship)

二層以上ノ甲板ヲ有シ、其ノ構造重甲板船ニ比スレハ稍輕裝ニシテ、其ノ第二甲板上ニハ重量ノ貨物ヲ積載スルニ適セサル船舶ヲ謂フ、但シ三層輕甲板船トハ、第二甲板梁ノ上面迄ノ深サ十七呎以上ニシテ、二層以上ノ甲板及船梁(若クハ之ニ代用スヘキ特設肋骨又ハ深式肋骨)ヲ有スルモノヲ謂フ、

(ハ) 覆甲板船 (Awning Deck Ship)

二層以上ノ甲板ヲ有シ、其ノ構造輕甲板船ニ比シ尙ホ一層輕裝ニシテ、其ノ第二甲板上ニハ極テ輕量ノ貨物ヲ積載シ、其ノ上甲板上ニハ操舵室、海圖室等ヲ除ク外ハ、船室ヲ設置スルニ適セサル船舶ヲ謂フ、而シテ斯ル輕裝ノ上甲板全通セス一部ニ止マルモノヲ半覆甲板船 (Partial Awning Deck Ship) ト稱ス、

(ニ) 庇護甲板船 (Shelter Deck Ship)

覆甲板船ノ一種ニシテ、其ノ構造尙ホ一層輕裝ナルモノヲ謂フ、

(ホ) 遮陽甲板船 (Shade-deck Ship)

日光又ハ雨露ヲ凌クカ爲メ、上甲板若クハ正甲板上ニ於テ、輕装ナル露顯甲板ヲ張リタルモノヲ謂フ、

(ヘ) 特設肋骨船 (Web-frame Ship)

鐵船若クハ鋼船ニシテ、其ノ下船船梁若クハ船梁ニ特設肋骨ヲ用ヒタル者ヲ謂フ、

(ト) 平等甲板船 (Flush-deck Ship)

上甲板ニ船首樓、船尾樓等ノ設ケナク、船首ヨリ船尾ニ至ルマテ何等ノ起伏凸凹ナク平坦ナルモノヲ謂フ、

(チ) 「ウエル、デッキ、シップ」 (Well-deck Ship)

長形ノ船尾樓ヲ以テ船橋樓ニ接續シ、船首樓ト船橋樓トノ中間ニ凹所 (Well) ヲ形造クルモノヲ謂フ、

(四) 網具裝置 (Riggs or Rigging) ニ關スル船舶ノ種類

(イ) 「シップ」 (Ship)

三橋ヲ有シ總テ横帆裝置ナル船舶ヲ謂フ、但シ四橋ヲ有スルモノモアリトス、

(ロ) 「バーク」 (Burgue)

三橋ヲ有シ正橋及前橋ハ横帆裝置、後橋ハ縦帆裝置ノモノヲ謂フ、但シ四橋又ハ五橋ヲ有スルモノアリ、

(ハ) 「バーケンタイン」 (Burgentine)

三橋ヲ有シ前橋ノミ横帆裝置ノモノヲ謂フ、

(ニ) 「ブリック」 (Brig)

正橋及前橋ノ二橋ヲ有シ、兩者共ニ横帆裝置ノモノヲ謂フ、

(ホ) 「ブリガンタイン」 (Brigantine)

正橋及前橋ノ二橋ヲ有シ、前橋ノミ横帆裝置ノモノヲ謂フ、

(ヘ) 「スクーナー」 (Schooner)

二橋ヲ有シ前橋横帆裝置ノモノヲ謂フ、但シ「ブリガンタイン」形ニ比シ稍輕装ナルモノトス、

其他此ノ種類ニ「フォアー、エンヂ、マント、スクーナー」 (Fore & Aft Schooner) 。

稱スル形アリ、即チ二檣船ニシテ一般ニ下檣ヲ長クシ「トップ、マスト」ヲ短クシテ縦帆装置ノモノナリ、

(ト) 「ラッガー」(Ligger)

小形三檣船ニシテ前檣、正檣、尾檣(Jigger mast)ヲ有シ、「ラグセール」ト稱スル一種ノ角帆ヲ装置ス、

(チ) 「カッター」(Cutter)

一檣船ニシテ「トップ、マスト」及「バウ、スプリット」ヲ有シ、横帆、「ガフ、トップスル」、「ステイスル」、「ヨツブ」等ノ諸帆ヲ有スルモノヲ謂フ、

(リ) 「スループ」(Sloop)

「カッター」ト同ク一檣船ニシテ、英國ニ於テハ伸縮自由ナル長キ「バウ、スプリット」ヲ備ヘ、「フォア、ステイスル」及一個以上ノ「ヨツブ」ヲ裝帆シ得ルモノヲ「カッター」ト稱シ、又短キ固定ノ「バウ、スプリット」ヲ備ヘ、「フォア、ステイスル」及「ヨツブ」兼用ノ一個ノ「ヘッド、セール」ヲ有スルモノヲ「スループ」ト稱スルモノ、

如シ、

(ヌ) 「ヨット」(Yacht)

網具装置ハ零ホ「カッター」ニ同シ、唯相違スル點ハ、正檣ノ外「ヨツガー、マスト」ト稱スル短少ナル尾檣ヲ有スルニ在リ、今日貴族、豪家ノ快遊船トシテ用ヒラル、ハ大概「ヨット」形ナリ、

(注意)

以上ノ區別ハ各種帆船機裝ノ大要ヲ掲ケタルモノニシテ、是等ハ汽船ニモ適用シ得ヘシト雖モ、汽船ニ在リテハ一般ニ檣其他ノ圓材、帆船ノ如ク強大ナラサルモノト知ルヘシ、

(五) 航路定限 (Plying Limits) ニ關スル 船舶ノ種類 (船舶検査法施行細則第十五條參看)

(イ) 遠洋航船 (Foreign-going or Long-sea-going Vessel)

内外各國何レノ海洋ニモ、航行スルコトヲ得ヘキ船舶ヲ謂フ、

(ロ) 近海航船 (Home-trade or Short-sea-going Vessel)

東經百十三度ヨリ同百五十七度、又北緯二十一度ヨリ同五十二度ニ至ル海上(即チ大約香港以東、臺灣以北ニシテサガレン嶋ヨリ西南ノ區域トス)ニ限リ航行シ得

ヘキ船舶ヲ謂フ、

(ハ) 沿海航船 (Coasting or Short-voyage Vessel)

本邦沿海ニ於テ某地點ヨリ某地點ニ至ル区域内ニ限り、航行シ得ヘキ船舶ヲ謂フ、

(ニ) 平水航船 (Smooth-water Plying Vessel)

湖川、港内、并ニ海灣中一地點ヨリ一地點ニ至ル線内ニ限り、航行シ得ヘキ船舶ヲ謂フ、

六用途 (How used or Nature of ships) ニ關スル船舶ノ種類

(イ) 郵便船 (Mail-ship)

内外國政府トノ契約又ハ命令ニ依リ、指定ノ諸港間ニ郵便物ヲ遞送スルノ任務ヲ有シ、相當ノ郵便室ヲ有スル船舶ヲ謂フ、

(ロ) 旅客船 (Passenger-ship)

旅客ノ運送ヲ主トシ、速力快捷ニシテ客室ノ設備完全ナルモノヲ謂フ、我カ船舶

検査規程ニ於テハ、十二人以上ノ旅客定員ヲ有スルモノナラハ、之ヲ旅客船ト看做シ、英國法ニ於テモ亦同様ナリ、今日我國ノ船舶中旅客船トシテ設備完全ナルモノハ、日本郵船會社ノ春日丸、博愛丸、西京丸及其ノ姉妹船、并ニ東洋汽船會社ノ日本丸外二隻ノ如キ是ナリ、

(ハ) 貨物船 (Cargo-ship)

貨物ノ運送ヲ主トシ、速力割合ニ遅緩ニシテ荷艙ノ容積廣ク相當ノ起重器ヲ有スルモノヲ謂フ、日本郵船會社ノ和泉丸、伏木丸ノ如キ是ナリ、

(ニ) 旅客貨物兼用船 (Passenger and Cargo ship)

是レ貨物船ニ改善ヲ加ヘタル折衷式ニシテ、相當ノ荷艙ト客室トヲ兼備シ、郵船會社ノ歐洲航路ニ使用スル十二隻ノ新造汽船ノ如キハ、何レモ此ノ種類ニ屬スルモノナリ、

(*) 移民船 (Emigrant-ship)

是レ其ノ名稱ノ如ク移民ノ搭載運搬ヲ主トスルモノニシテ、純然タル旅客船ト

異ナリ完全ナル旅室ノ設備ナキハ勿論ナレトモ、航海ノ安全ヲ保チ乗込人ノ健康ヲ持續スル丈ケノ用意ナカルヘカラス、英國ノ如キハ特ニ移民船ノ構造、検査、機装等ニ關スル規定ヲ設ケアリ、即チ航洋船ニシテ帆船ナラハ總噸數三十三噸ニ付、汽船ナラハ同二十噸ニ付、各成年旅客一人以上ノ割合ヲ以テ下等旅客五十人以上ヲ搭載スルトキ之ヲ移民船ト看做シ、又外國船カ外國ノ一港ヲ發航シ英領ノ一港ニ寄航シ、其地ニ於テ英國臣民又ハ居留民ノ別ナク下等旅客ヲ搭載シ五十人以上(英國外ノ港ヨリ搭載シ來リタル下等旅客ア)ニ達スルトキハ、均ク移民船ト看做サレ英國法ノ支配ヲ受ケサルヘカラサル規則ナリ、

第二 船舶ノ積量(船舶積量測定規則、同測度方法、同圖解參看)

船舶ノ積量ヲ示ス方法五種アリ、總噸數、登簿噸數、載貨噸數、排水噸數及石數ヲ以テスルコト是ナリ、

(一) 總噸數 (Registered Gross Tonnage)

是レ通常商船ノ積量ヲ示スニ用フル所ニシテ、船内各部ノ總容積ヲ包含シ、英國ハ

百立方呎、歐洲大陸諸國ハ二・八三立方米突、日本ハ百立方尺ヲ以テ一噸ト爲ス、而シテ之ヲ精確ニ測定スルニハ數學上一定ノ曲線式ヲ以テ計算スヘキコト當然ナレトモ、左ノ式ヲ用フレハ各船總噸數ノ概數ヲ知り得ヘキモノトス、

$$\begin{aligned} \text{汽船} & \dots\dots\dots \text{長} \times \text{幅} \times \text{深} \times \frac{65}{100} \\ \text{旅客汽船} & \dots\dots\dots \text{全} \times \frac{90}{100} \\ \text{貨船} & \dots\dots\dots \text{全} \times \frac{70}{100} \end{aligned}$$

(二) 登簿噸數 (Registered Net Tonnage)

是レ總噸數ヨリ乗組員常用室及機關室ヲ除去シタル容積ニシテ、總噸數ニ對シ純噸數又ハ實噸數ト稱スル方意義明瞭ナルヘシ、其ノ計算法ハ歐米諸國(露土二國ヲ除ク)ニ於テハ、何レモ一八五二年制定ノ「アドミラル、ムーアソン」式ヲ採用スルノ例ニシテ、我國ノ船舶積量規則モ亦之ニ倣ヒタルモノ、如シ、即チ該規則ニ依レハ乗組員常用室トシテ除クヘキ噸數ハ總噸數ノ百分ノ六ニシテ、又機關室トシテ除クヘキ噸數ノ割合ハ、外車汽船ナラハ其ノ機關室ノ噸數カ該船總噸數ノ百分ノ二十ヨリ三十マテナルトキハ

總噸數ノ百分ノ三十七、暗車汽船ナラハ同百分ノ十三ヨリ二十マテナルトキハ同百分ノ三十二トス、尤モ機關室ノ廣狹ニ依リ是等ノ割合ニ適セサルモノハ、該室ノ噸數ニ外車船ナラハ其ノ二分ノ一ヲ加ヘ、暗車船ナラハ四分ノ三ヲ加ヘ、總噸數ヨリ之ヲ除去スヘキモノトス、其他總噸數ニ百分ノ六十乃至六十五（船舶ノ型式ニ依ル）ヲ乘スレハ、登簿噸數ノ概數ヲ求ムヘキ簡便法アリ、

登簿噸數ハ船稅、港稅等ヲ課スル標準ト爲ルモノニシテ、又蘇西運河或ハダニユーグ河ヲ航過スル船舶ハ、夫々特定ノ計算法ニ依リ換算セラル、ノ例ナリ、

(三) 載貨噸數 (Cargo or Carrying Capacity)

是レ實際貨物ヲ船積スヘキ積量ヲ示スモノニシテ、通常容積ヲ以テ運賃ヲ定ムル輕量ノ貨物 (Measurement Cargo) ト、目方ヲ以テ運賃ヲ定ムル重量品 (Dead-Weight) トノ別アリ、前者ノ一噸 (容積噸) ハ英國ニ於テハ四十四立方呎、歐洲大陸諸國ニ於テハ一四四立方米突、日本ニテハ四十四立方呎ヲ以テシ、又後者ノ一噸 (重量噸) ハ英國ニテハ二千二百四十封度、大陸諸國ニテハ一千吉瓦^{キログラム}、日本ニテハ二千封度即チ二百四十貫目ヲ

以テ計算スルヲ例トス、

(四) 排水噸數又ハ排水量 (Displacement)

是レ普通軍艦ノ積量ヲ示スニ用フル所ナルトモ商船ニ於テモ亦往々之ヲ算出スルコトアリ、即チ船体カ水中ニ浮フトキハ、理學上該船体ノ重量ニ等シキ水量ヲ排去スルモノナルカ故ニ排水量又ハ排水噸數ト稱スルナリ、而シテ海水ノ一立方呎ハ重サ六十四封度ニシテ三十五立方呎ハ二千二百四十封度即チ一噸ニ相當スルヲ以テ、排水ノ容積ニ依リ容易ニ艦船ノ噸數ヲ算出スルヲ得ヘシ、

(五) 石數

日本形船ハ從來何石積ト云フカ如ク石數ヲ以テ其ノ積量ヲ現ハスノ慣習ニシテ一石ヲ十立方尺トス、而シテ石數ヲ容積噸數ニ換算スルニハ十ヲ以テ除スヘシ、何トナレハ容積噸ノ一噸ハ百立方尺ナレハナリ、

第三 船舶ノ設備

(一) 法定ノ設備

船舶ハ汽船タルト帆船タルトヲ問ハス航路ノ遠近又ハ旅客、郵便物若クハ移民ノ運送等其ノ用途ノ如何ニ由リ、法令(船舶検査規程、造船規程、并ニ政府ノ命令等)ノ定ムル所ニ從ヒ船内諸般ノ設備ヲ整ヘ居ラサルヘカラス、即チ先ツ船舶ノ大小ニ由テ區別スル端艇表、并ニ航路定限ニ由テ區別スル甲板機關兩部ノ屬具表ヲ示セハ左ノ如シ、

○端艇表

上甲板下噸數	艇數	總端艇容積 (立方尺)		上甲板下噸數	艇數	總端艇容積 (立方尺)		上甲板下噸數	艇數	總端艇容積 (立方尺)	
		救命艇容積 (立方尺)	總端艇容積 (立方尺)			救命艇容積 (立方尺)	總端艇容積 (立方尺)			救命艇容積 (立方尺)	總端艇容積 (立方尺)
六〇〇〇以上	一二	四〇〇〇	一五〇〇〇	二七五〇以上	六	二一〇〇	九一〇〇	四〇〇〇以上	二	四〇〇〇	一五〇〇〇
五七五〇以上	一〇	三七〇〇	一五〇〇〇	二五〇〇以上	六	二〇五〇	九〇〇〇	三〇〇〇以上	二	三五〇〇	一三〇〇〇
五五〇〇以上	一〇	三六〇〇	一五〇〇〇	二二五〇以上	六	二〇〇〇	八五〇〇	二六〇〇以上	二	三〇〇〇	一二〇〇〇
五二五〇以上	一〇	三五〇〇	一五〇〇〇	二〇〇〇以上	六	一九〇〇	八〇〇〇	二三〇〇以上	二	二五〇〇	一〇〇〇〇
五〇〇〇以上	一〇	三四〇〇	一五〇〇〇	一七五〇以上	六	一八〇〇	七八〇〇	二〇〇〇以上	二	二〇〇〇	九〇〇〇

○船體部屬具表

船體部屬具	四	二	三	二	二	二	二		
四七五〇以上	一〇	一五〇〇	一五〇〇以上	六	一七〇〇	七五〇	一八〇以上	二	一九〇
四五〇〇以上	八	一五〇〇	一二五〇以上	六	一五〇〇	七二〇	一五〇以上	二	一七〇
四二五〇以上	八	一五〇〇	一〇〇〇以上	四	一二〇〇	七〇〇	一二〇以上	二	一五〇
四〇〇〇以上	八	一五〇〇	九〇〇以上	四	一〇〇〇	六五〇	一〇〇以上	一	一〇〇
三七五〇以上	八	一五〇〇	八〇〇以上	四	九〇〇	六〇〇	八〇以上	一	九〇
三五〇〇以上	八	一五〇〇	七〇〇以上	四	八〇〇	五五〇	六〇以上	一	八〇
三二五〇以上	八	一五〇〇	六〇〇以上	三	七〇〇	五〇〇	六〇未滿	一	七〇
三〇〇〇以上	八	一五〇〇	五〇〇以上	三	六〇〇	四〇〇			

船種	遠洋航船		近海航船		沿海航船		平水航船		摘要
	汽船	帆船	汽船	帆船	汽船	帆船	汽船	帆船	
救命浮環	四	二	三	二	二	二	二	二	

深海測鉛	一																
測深機械	一																登候噸數五百噸以上ノ旅客船ニ限ル
晴雨計	一																
寒暖計	一																
雙眼鏡	一																
航海日誌	一																
航海曆	一																
航路標識便覽	一																
消防用手桶	一 二	八	六	四	四	二											
斧	二	二	一	一													

海水ヲ測ルニ適當ノモノナルヲ要ス

(備考)

本表ノ外錨、錨鎖、挽索、大索ニ付テハ汽船帆船ノ別ニ由リ備付クヘキ數量ヲ定ム

(詳細ハ検査規程第一及二號表參看)

○機關部屬具表

船種類	遠洋航船	近海航船	沿海航船	平水航船	摘	要			
器具名稱	吸鏝彈環	吸鏝發條	吸鏝螺釘及母螺	滑 瓣 錒	接續錒上下ノ螺釘	接續錒上下ノ黃銅	主軸受螺釘及母螺	接軸鏝螺釘及母螺	曲 拐 軸
數量	一組	一組	一組	一組	一組	一組	一組	一組	一筒
備註			總數ノ四分一	總數ノ四分一	總數ノ四分一	各 二筒	各 二筒	各 一組	用シ得ルトキハ此限ニアラス
備註						汽機一臺ノ各吸鏝ニ付	三聯成汽機ナルトキハ此限ニアラス		

冷 汽 管	總數ノ廿分一	總數ノ廿分二									
冷 汽 管 填 箱	總數ノ十分一	總數ノ十分一									木製ナルトキハ填箱器ヲ添フ
排氣唧筒弁	一筒	一筒									
排氣唧筒弁	一組	一組									單瓣裝置ナルトキ
排氣唧筒弁	半組	半組									多瓣裝置ナルトキ
循環唧筒弁	一筒	一筒									
循環唧筒弁	一組	一組									單瓣裝置ナルトキ
循環唧筒弁	半組	半組									多瓣裝置ナルトキ
給水唧筒弁及座	三組	三組									護謨製ナルトキ
給水唧筒弁及座	一組	一組									金屬製ナルトキ
制限弁及座	一組	一組									
淡水唧筒弁及座	三組	三組									護謨製ナルトキ

安全瓣發條	各罐ニ付 一筒	各罐ニ付 一筒									一組 金屬製ナルトキ
火 床 架	總數ノ四分一	總數ノ五分一	總數ノ十分一								四筒
驗水器硝子	各器ニ付 四筒	各器ニ付 四筒	六筒								三筒 近海航船以上ニ於テハ六筒ヲ最 少トス
焰 管	總數ノ廿分一	總數ノ廿分一									
管 擴 器	一筒	一筒	一筒								
管 塞 器	十二筒	八筒	四筒								二筒 内半數ハ汽罐前面ニ於テ直ニ使 用シ得ヘキモノ
輔	一筒	一筒									
滑車及綱	二組	一組									
螺旋切道具	一組	一組									
錐 孔 器	二筒	一筒	一筒								
鐵 砧	一筒	一筒									

据付萬力	二箇	一箇	一箇	
鐵板	若干	若干		
鐵棒	若干	若干		
螺釘及母螺	若干	若干	若干	
機關室用小道具	一揃	一揃	一揃	
驗鹽器	二箇	二箇	一箇	一箇
寒暖計	二箇	二箇	一箇	一箇
機關日誌	一冊	一冊	一冊	一冊

平水航船ハ略日誌ヲ用フルモ妨ナシ

次ニ船舶ノ用途ニ從ヒ、法律上當ニ整フヘキ設備ノ一班ヲ列記セハ左ノ如シ、

(イ) 旅客船ニ於テ

- 一、旅客室ニハ採光及通風ノ爲メ、相當ノ天窗、舷窓、空氣筒ヲ設クヘシ、
- 二、舷牆及柵欄ハ船舶ノ大小ニ應シ、近海航船以上ニハ二尺五寸以上、沿海航船以

下ニハ適當ノ高サトシ堅牢ニ取付クヘシ、

- 三、便所ハ旅客定員及乗組員ヲ合セ人員大約五十人ニ付一個ノ割合ヲ以テ設クヘシ、但シ人員三百人以上ナルトキハ検査官吏ニ於テ其ノ割合ヲ斟酌スルコトヲ得、又一等室用若クハ乗組員用ノ便所ヲ區別スルトキハ、一等客定員若クハ乗組員ヲ除キ殘餘ノ人員ニ對シ、前示ノ割合ヲ以テ之ヲ設クヘシ、
- 四、端艇ハ旅客汽船ニハ前示端艇表ノ如ク、其ノ噸數ニ應シテ所要ノ隻數ヲ備フル外、其ノ揚卸ニ適當ナル端艇鈎具ヲ備ヘ、且ツ各端艇ニハ必要ナル附屬品ノ外豫備トシテ權及權架二個以上、放水口ノ栓、塗杓、鈎竿各一個以上ヲ備ヘ、又救命艇ニハ羅針盤、斧及水箱各一個以上ヲ備フヘシ、
- 五、消防用具ハ登簿噸數五十噸以上ノ旅客汽船ニハ、蒸汽唧筒ノ送水管ヲ上甲板ニ導キ船内各部ニ達スヘキ消防用布管ヲ備ヘ、尙ホ登簿噸數二百噸以上ノ旅客汽船ニハ、消防用移動唧筒一組以上ヲ備フヘシ、
- 六、救命浮環ニハ船名ヲ記載シ、上甲板ニ於テ衆人ノ認メ易ク且ツ投入ニ便宜ノ場

所ニ配置スヘシ、

七、救命浮帶及救命焰ハ操舵室及何時ニテモ取出シ易キ場所ニ之ヲ備ヘ置クヘシ、而シテ旅客汽船ニ於テハ前示屬具表ニ掲クル定數ノ外、遠洋航船ナラハ一等及二等客ノ定員、近海航船ナラハ一等客ノ定員ニ等シキ個數ノ救命浮帶若クハ救命浮環ヲ増備シ、之ヲ該客室毎ニ配置スヘシ、

八、飲用水ハ左ノ割合ヲ以テ之ヲ貯藏スヘキ水槽ヲ備フヘシ、但シ蒸溜器ノ備アルトキ、又ハ沿海航船ニシテ検査官吏ニ於テ左記ノ水量ヲ貯藏スルノ必要ナシト認ムルトキハ、該水箱ノ容積ヲ減スルコトヲ得、

沿海航船以上ノ船舶ニ於テハ旅客定員及乗組員ヲ合セ一人一日少ナクモ二升ノ割合ヲ以テ

(イ) 沿海航船ハ汽船ナラハ三日分、帆船ナラハ十日ヨリ少ナカラス

(ロ) 近海航船ハ汽船ナラハ十日分、帆船ナラハ三十日ヨリ少ナカラス

(ハ) 遠洋航船ハ汽船ナラハ三十日分、帆船ナラハ三ヶ月分ヨリ少ナカラス

九、旅客室ハ覆甲板ヲ除キ其他ノ甲板上ニ在テ、旅客ノ起臥動作ニ安全ナル場所ニ之ヲ設クヘシ、

十、旅客室ノ高サハ左ノ寸尺アルヲ要ス、而シテ旅客室ノ高サ六尺以上アルニ非カレハ、客席ヲ二層トスルコトヲ得ス、

(イ) 上甲板上ニ在ル室ハ

遠洋航船ニ於テハ六尺以上

近海航船ニ於テハ四尺五寸以上

沿海航船ニ於テハ三尺五寸以上

他ノ甲板上ニ在ル室ハ

遠洋航船ニ於テハ六尺以上

近海航船ニ於テハ五尺以上

沿海及平水航船ニ於テハ四尺五寸以上

但シ船尾ノ如キ斜曲ノ場所ニ設ケタル腰掛様ノ平棚ニシテ其ノ上面ヨリ甲

板裏マテノ高サ三尺五寸以上アレハ客席トスルコトヲ得

十一、雜居客室ノ長サハ十二尺以上ニシテ其ノ出入口カ一邊ニノミ在ルトキハ、其ノ出入口ヨリ該室ヲ貫キ幅一尺八寸以上ノ通路ヲ設クヘシ、之ヲ設ケサルトキハ全面積六分ノ一ヲ通路ニ充ツヘシ、

又雜居客室二室以上隣接シ其ノ出入口カ一室ノ一邊ニノミ在ルトキハ、其ノ出入口ヨリ他室ニ達スルマテ幅一尺八寸以上ノ通路ヲ設ケ、又他室内ノ通路ハ前項ニ準スヘシ、

十二、總テ客席ニハ筵、疊、其他旅客ノ坐臥ニ適スヘキ敷物ヲ備フヘシ、

十三、旅客昇降口及階子、沿海航船以上ニ於テ甲板間ニ旅客室ノ設アルトキハ、天氣ノ如何ニ拘ラス何時ニテモ甲板上ニ出入シ得ヘキ昇降口ヲ設ケ之ニ階子ヲ備フヘキモノニシテ、該階子ノ寸法ハ旅客定員五十人未滿ナルモノハ幅一尺八寸以上ノモノ一箇以上、五十人以上百人未滿ナルモノハ幅三尺以上ノモノ一箇以上、若クハ幅一尺八寸以上ノモノ二個以上ヲ備フヘシ、

(ロ) 別種旅客船(移民船)ニ於テ

一、別種旅客室ハ近海航路ヲ航行スル時ニ限り、荷艙内ニモ之ヲ設クルコトヲ得ヘシ、但シ其ノ艙口ノ數若クハ大サ不充分ニシテ別ニ空氣筒等ノ設ナク、検査官吏ニ於テ空氣ノ流通不充分ト認ムルトキハ、衛生上適當ノ場所ヲ限り客席ト爲サシムヘシ、又荒天ノトキハ艙口ヲ密閉スルノ必要アル荷艙内ニハ之ヲ設クルコトヲ得ス、

艙梁ヲ備フル船舶ニシテ、其ノ艙梁上ニ甲板ヲ假設シ荷艙ト其ノ區域ヲ分チ、検査官吏ニ於テ旅客ノ搭載ニ適當ト認ムルトキハ、遠洋航路ヲ航行スルトキト雖モ該甲板上ヲ別種旅客室トスルコトヲ得、

二、艙内ニ別種客室ヲ設クルトキハ其ノ高サ五尺以上トシ、艙梁若クハ假設シタル床梁又ハ貨物若クハ荷足ノ上ニ板及筵等ヲ敷クヘシ、但シ衛生ニ害アリト認ムル貨物ノ上ハ客席トスルコトヲ得ス、

三、高サ三尺以上ノ閉塞舷牆ヲ有シ且ツ完全ノ天幕ヲ備フル船舶ニシテ、其ノ航行

豫定時間二十四時間以内ナルトキハ、上甲板ニ於テ適當ノ場所ヲ限リ別種旅客ヲ搭載スルコトヲ得、

四、其他別種旅客船ニ要スル諸般ノ設備ニ付テハ、第二十一章第十二「移民等運送ニ關スル注意」ノ項ヲ參看スヘシ、

(ハ) 郵便船ニ於テ

一、各郵便船ハ遞信大臣ノ指定ニ從ヒ、盜難、濕氣、火災、其他一切損害ノ虞ナキ完全ナル場所ヲ擇ヒ、相當ノ容積ヲ有シ且ツ損害ノ豫防上適當ノ裝置ヲ爲シタル郵便室ヲ設クヘシ、

二、旅客ノ最モ認メ易ク且ツ安全ナル場所ヲ擇ヒ、成規ノ郵便函ヲ堅固ニ收付ケ置クヘシ、

三、成規ノ郵便旗及郵便航送記ヲ船内ニ備ヘ置クヘシ、

(二) 任意ノ設備

以上ハ法定ノ船内設備一班ヲ敘述シタルモノナレトモ、其他船主ノ任意ニ依リ各

部ニ斬新精巧ノ利器ヲ備ヘ、船内ノ結構裝飾ニ美ヲ極メテ、偏ニ旅客ノ娛樂ト利便トヲ圖ルノ例ニシテ、旅客船ニ於テ設備ノ完全ナルハ畢竟好評ヲ博シ花客ヲ増スノ源ナレハ、何レノ船主モ此點ニ思慮ヲ凝ラサルハ無シ、蓋シ今日ノ旅客船ハ宛然海上ノ大「ホテル」ニシテ、船艙ノ雄且ツ美ナルハ言フ迄モ無シ、第一、食器、寢具等ノ實用品ヨリ室内ノ用材、飾付ニ至ルマテ善美ヲ盡クシ、電氣燈ハ船内隈ナク輝キ渡リテ一個ノ不夜城ヲ渺茫限ナキ大洋ニ描出シ、凍冷機及氷室ヲ設ケテ常ニ東西山海ノ珍味ヲ貯ヘ、通風器、暖室器、扇風器等ノ新裝置ハ、以テ北洋ノ寒風又ハ熱帶ノ隆暑ニ遭フモ人ヲシテ殆ト冷熱ノ變ヲ感セシメス、其他圖書室アリ喫烟室アリ、應接所アリ浴場アリ、又樂器、骨牌等ノ遊戯具悉ク備ラサルハ無ク、旅客ヲシテ身ノ羈旅ニ在ルヲ忘レシムヘシ、加フルニ船醫ヲ乗組マシメ各種ノ藥劑ヲ備フルヲ以テ、旅客若シ病ニ罹ラハ無料ニテ懇切ナル治療ヲ受ケ得ヘシ、要スルニ旅客船ニ於テ船主ノ任意施スヘキ設備ハ殆ト際限ナキモノニシテ、相競テ最新ノ意匠ヲ利用シ汎ク世界ニ廣告シテ顧客ヲ求ムルニ汲々タリ、其他貨物船若クハ貨客兼用船ニ在リテハ右ノ如ク完全ナル設

備ヲ有スルモノニ非サレトモ、此種ノ船舶ニ於テハ重量貨物ノ揚卸ニ供スル爲メ、特ニ蒸氣仕掛ノ強力ナル起重器ヲ据付クルヲ常トス、

第三篇 海員

第八章 海員ノ養成及保護

第一節 海員ノ養成

第一 海員養成ノ要旨

船舶ハ海員ト相待テ始テ其用ヲ爲スヘシ、如何ニ新式優美ノ船舶製造セラル、モ、之ヲ指揮操轉スヘキ堪能ノ海員ニシテ養成セラル、ニ非スンハ、焉ソ能ク航海ノ安全、營業ノ利潤ヲ望ムヘケンヤ、日清戰役後日本ノ海運業ハ頓ニ膨脹シ、明治三十二年末ノ調査ニ依レハ登簿汽船七百五十三隻、登簿帆船二千七百八十四隻(日本形ヲ除ク)、而シテ之ヲ操縦スヘキ甲乙丙種船長、運轉士ノ免狀受有者一萬一千八百六十三人并ニ機關長、機關士ノ免狀受有者二千三百七十六人、即チ都合三千五百二十七隻、一萬四千二百三十九人ニシテ西洋形船一隻ニ付法定ノ職員トシテ乗組ミ得ヘキ高等海員凡ソ四人ニ當ル割合ナリ、然レトモ其實ヲ云ヘハ法定ノ職員トシテ五百噸未満ノ帆船ニ乗組ヲ限ラレ、而モ從來和船ノ

船頭等ニシテ無試験ニテ免狀ヲ得タル丙種船長、運轉士等ハ八千五百人ニ及ヒ、又百噸未滿ノ沿海航以下ノ漁船ニ乗組ヲ限ラル、乙種二等運轉士及三等機關士ハ二千七百餘人ニ上リ、是等ヲ差引キ殘ル有力ノ海員ト稱スヘキモノハ僅ニ三千人ニ過キサルナリ、

加フルニ我國ニ於テ海技免狀ヲ受有スル者ハ前述ノ如ク無慮一萬四千餘人アリト雖モ、是レ本ト帳簿面ノ計算ニ過キスシテ、實際ハ免狀受有者ニシテ他ニ轉業スルカ若クハ休業シ居ルモノ夥シ(外國人ナラハ歸國スル者モアリ)海員ノ供給ハ常ニ需用ヲ充タスニ足ラス、世ノ船主ハ辛フシテ須要ノ職員ヲ充實スルノ現狀ナリト云フ、三十一年末ノ統計ニ依レハ免狀受有者一萬三千四百二十五人ノ内實際西洋形船ニ乗組ミタル者僅ニ三千二百七十七人即チ四分之一強ニ過キサリキ、斯ク免狀受有者ト乗船者トノ懸隔相甚シキハ如何ナル原因ニ由來スル乎、蓋シ病氣又ハ事故ノ爲メ一時休業スル者ハ固ヨリ別トスルモ、或ハ海員ノ給料割合ニ低クシテ他ノ事業ニ比シ其ノ勤勞ニ酬ユルニ足ラサル爲メ乎、或ハ海上勤務ノ苦難多クシテ快樂少ナク自然之ヲ厭惡スルニ由ル乎、何レニセヨ十分研究ヲ要スル問題ナルヘシ、又我國ニ於テハ外國海員ノ需用尙ホ頗ル多ク、甲種船長及運轉士ノ如キ機關長及一

等機關士ノ如キ高級ノ免狀ヲ有スル海員ニシテ、實際本邦船舶ニ乗組ミ樞要ノ位置ヲ占ムル者ニ就テ觀ルニ、一千六百七十八人ノ内二百九十八人ハ外國人ニシテ即チ一割八分ヲ占ムル割合ナリ(三十二年末ノ調)、我カ航海業カ歐米列國ニ尙ホ一着ヲ輸スル今日ニ於テハ、優良ノ外國海員ヲ傭聘シ一ハ其ノ技術ニ頼リ一ハ後進者ニ學習ノ機會ヲ與フルハ固ヨリ自然ノ勢ナルニセヨ、益海員養成ノ途ヲ盛ニシ日國ノ船舶ヲ自國人ノ手ニテ操縱スルノ時代ニ進マシムルノ覺悟ナカルヘカラス、蓋シ以上ノ二點ハ船主タル者ハ勿論尙モ經世ニ志アル者ノ須ク注意スヘキ所ナリト信ス、

元來船舶ハ金力ヲ以テ一時ニ購ヒ得ヘキモ、之ヲ指揮操轉スル海員ニ至テハ一朝一夕ニ養成シ得ヘキニ非ス、而シテ之ヲ養成スル秘訣トシテ、校舍ノ座學ヨリモ海上ノ實習ニ一層重ヲ措カサルヘカラス、方今我國ニ於テ高等海員ヲ養成スル唯一ノ場所タル東京商船學校ハ、近來益々規模ヲ擴張シ目下四百餘人ノ學生ヲ養成シツ、アルモ、本年度ヨリハ常ニ五百人ヲ在學セシメ年々百人内外ノ卒業生ヲ出スノ計畫ナリト云フ、其他大阪函館ノ兩分校モ次第ニ設備ヲ整頓シ、加フルニ頃日文部省ノ定メタル商船學校規程ニ基

キ、從來ノ校則ヲ改良シ若クハ新ニ設立シタル公私ノ商船學校モ亦尠ナシトセス、之ヲ要スルニ本邦海員養成ノ途ハ今ヤ着々擴張ノ途中ニ在リ、前途頗ル多望ナリト雖モ、技能手腕ノ兼備スル良海員ヲ養成スルハ幾多ノ歲月ヲ要スヘキモノナルヲ以テ、政府、市民、船主ノ三者協同扶翼シテ斯途ノ英才ヲ續々輩出セシメ、以テ帝國海員ヲシテ内外ノ信用ヲ博セシムルコトヲ期セサルヘカラス、

其他水火夫、司厨、給仕等ノ下級海員モ、亦養成ノ途ヲ等閑ニ附スヘカラス、名將モ強卒ヲ率ヰサレハ軍氣振ハサルト均ク、船長以下ノ職員如何ニ老練堪能ナルモ部下ノ水火夫等素養ニ乏シキトキハ烏合ノ衆ノミ、満足ノ航海ヲ望ムヘカラサルナリ、三十一年末ノ調査ニ依レハ、大小ノ西洋形船一千九百八十四隻ニ實際乗組ミタル水火夫一萬四千五十七人(内水火夫八、四三三人、舵取九九六人、火夫二、七九二人、油差一、二七二人、石炭夫五六四人)ニシテ一隻七人許ノ割合ニ當レリ、最モ前示ノ船舶中ニハ實際使用セラレサルモノ尠ナシトセス、又二三十噸内外ノ小蒸氣船ニ於テハ五六人ノ水火夫ニテ事足ルヘシト雖モ、三四千噸乃至六七千噸ノ汽船ニ在リテハ三四十人乃至七八十人ノ水火夫ヲ乗組マシムルノ常ナルヲ以テ、平素十分ニ下級海員ヲ養成シ、

需用供給ノ平均ヲ失ハサラシムルコト亦肝要ナリト知ルヘシ、

因ニ記ス、甲種船長ノ段階タル甲種二等運轉士ノ試験ヲ受クルニハ、規則上横帆裝置ノ帆船ニ一年乗組ミタル履歴ヲ有セサルヘカラス、然ルニ此種ノ帆船ハ三十一年末ノ調査ニ依レハ、登瀛帆船一千三百十隻ノ内商船學校附屬船月鳴丸及琴緒丸ヲ除ケハ、尠見ルヘキモノ僅ニ「パーク」形四隻(天橋丸、多久丸、義家丸、默見丸)アルノミ、其他「バーカントイン」、「ブリツク」形等四十餘隻アリト雖モ、何レモ總噸數二百噸内外ノ小形船ナルノミナラス、之ハ船長タル者ハ經驗一方ニテ人ト成レル内種船長ナルヲ以テ固ヨリ正則的ノ訓練ヲ受クルヤ難シ、是レ海員志望者ノ常ニ困難ヲ訴フル所ニシテ、亦海員養成上一ノ欠點ト謂フヘシ、故ニ外國(殊ニ英獨)ノ例ニ倣ヒ、我國ノ海軍團休又ハ重ナル船主ニ於テハ、横帆裝置ノ練習船ヲ備ヘ、官公立學校ノ外ニ良海員養成ノ途ヲ開クノ必要アリトス、

茲ニ最近ノ報道ニ依リ、北獨「ロイド」會社カ帆前練習船設置ノ計畫ヲ略記センニ、練習船ニハ横帆裝置ノ大帆船ヲ用ヒ、乗組役員ハ船長一人、運轉士四人、助手數人、船醫一人、教員二人ヨリ成リ、生徒ハ陸軍一年志願兵タルノ資格ヲ具フル者ヨリ募集シ、毎年二十人乃至三十人ヲ採用シテ定員ヲ六十人乃至九十人トス、學課ハ技術的練習ノ外、一日三時間宛外國語、航海術并ニ海上生活ニ必要ナル普通學ヲ授ケ、修業期間ハ三年ニシテ、初年ニハ若水夫ノ職務ニ服セシメ、二年目ニハ二等水夫、三年目ニハ一等水夫ニ昇進セシメ、卒業ノ上ハ同會社汽船ノ下級士官又ハ准士官トシテ採用スヘシ、而シテ右練習船生徒タル者ハ、寄宿、賄及教育費トシテ、毎年六百馬(即チ大約三百圓)ヲ會社ニ納付スヘキモノトス、

第二 官立商船學校

(一) 組織

官立商船學校ハ本校ヲ東京ニ置キ大坂及函館ニ分校ヲ置ク、本校ハ學科ヲ航海、機關ノ二科ニ分チ、分校ハ該兩科ヲ簡易科、別科ノ二種ニ別ツ、而シテ本校學生ハ在學中并ニ卒業後トモ海軍士官ノ豫備員トシテ兵籍ニ編入セラレ、海軍ノ規則ニ依リ服役ノ義務アルモノトス、

(二)東京本校

(イ) 目的

本校ハ航海機關ニ關スル學術技藝ヲ教授シ、高等ノ船舶職員タルヘキ者ヲ養成スル所ニシテ、其ノ卒業者ハ遞信省ヨリ無試験ニテ甲種二等連轉士又ハ一等機關士ノ免狀ヲ授與セラル、慣例ナリ(但シ体格檢査ヲ要ス)、

(ロ) 學科

學科ハ航海科、機關科トモ本科ト補科トノ二種ニ別ツ、其ノ科目左ノ如シ、

○航海科

本科 航海術、運用術、測量術、海上氣象學、法律、造船學、技業、砲術
補科 商業地理、理財、數學、外國語、和漢文、兵式體操、機關術大意、船内衛生法、救急醫術

○機關科

本科 機關術、機關算法、機械學、製圖、技業
補科 理化學、理財、數學、外國語、和漢文、兵式體操、船内衛生法、救急醫術

(ハ) 修業年限

學生ノ修業法ハ、座學(即チ席上ニ於ケル學科修業)ト實習(即チ乘船ノ上實地練習)トノ二途ニ分チ、各ノ左記ノ年限内ニ修了スヘシ、

航海科ハ滿五年五ヶ月ニシテ、最初二年間ハ校舍ニ於テ前示ノ學科ヲ履修シ、次ニ三年間航海船ニ乗組ミ實地練習ヲ爲シ、別ニ海軍砲術練習所(横須賀ニ在リ)ニ於テ五ヶ月間砲術ヲ練習セシム、

機關科ハ滿五年ニシテ、最初一年六ヶ月間ハ校舍ニ於テ前示ノ學科ヲ履修シ、次ニ二年六ヶ月間機關工場ニ在テ實地練習ヲ爲シ、更ニ一年間汽船ニ乗組ミ機關運轉ヲ實習セシム、

(ニ) 學生ノ採用法

年齢十五年以上二十一年以下ノ少年ニシテ、身軀強壯、品行方正、在學中家事ニ

係累ナク、尋常中學卒業以上ノ學力ヲ備フル者ニ就キ、成規ノ試験ヲ行ヒタル上探用スヘシ、但シ官公立又ハ指定ノ私立尋常中學卒業生ニシテ該校長ヨリ品行方正、學力優等ノ証明アル者ハ、相當ノ人員ヲ限り無試験入學ヲ許可ス、入學期ハ毎年二月七月ノ二回ニシテ成規ノ課程ヲ履ミ卒業試験ニ合格シタル者ニハ、卒業證書ヲ授與シ、又在學中試験ノ成績秀逸ニシテ品行方正ナル者ニハ、撰拔ノ上外國留學ヲ命スルコトアリ、

(ホ) 練習船

汽船明治丸ハ本校附近ニ繋留シ在リ、在校生徒ノ技業練習用ニ供セラレ、又帆船月島丸(補助汽關附)及琴緒丸アリ、本校生徒ヲ之ニ乗組マセ内外ノ海洋ヲ跋涉シテ實地ノ練習ヲ爲サシム、

其他遞信大臣ハ航海獎勵金又ハ特別助成金ヲ支給スル船舶ニ付キ、每船二人乃至五人以内ノ航海修業生(航海科又ハ機關科)ヲ乗組マシメ、船主ヲシテ其ノ費用ニテ實地練習ヲ爲サシメ、且ツ修業生ニ對シ其ノ執ル所ノ職務ニ應シ、相當ノ手當金及食料ヲ給與

セシム、

(ハ) 本校卒業生就職別

明治八年(同十五年ヲ以テ三變ノ手ヨリ移リ官立ト爲ル)本校創立以來ノ卒業生ハ總テ三百六十三人ニシテ、内死亡者四十一人ヲ除キ左ノ如ク現在就職ス(三十三年三月末調査)、

船長	四〇
運轉士	八七
機關長	一五
機關士	八五
海軍將校	一一
官吏 <small>(海事官、港務官、技師、教官等)</small>	五六
教員及會社員	二〇
休職者	八

(三) 大阪及函館分校

(イ) 目的

簡易科ハ商船ノ運轉士又ハ機關士グラント欲スル者ニ、速成ヲ主トシ簡易ノ學術ヲ授クルモノニシテ、其ノ卒業生ハ本校卒業生ト異ナリ、無試験免狀ノ特典ニ浴セ

ス、成規ノ海員試験ニ合格シタル上相當ノ海技免狀ヲ受クルヲ慣例トス、

別科ハ從來海員タル者ニシテ船長、運轉士又ハ機關士ノ試験ヲ受ケント欲スル者ニ、適切ナル學術ヲ授クルモノニシテ別ニ修業年限ヲ定メス、在學中志願ノ海員試験ニ合格シ海技免狀ヲ受ケタル時ヲ以テ卒業トス、

(ロ) 學科

○簡易科

航海學部 數學、運用術、航海術、機關學大意

機關學部 數學、物理、機關學、製圖、機關製作

○別科

航海學部 讀書、作文、數學、運用術、航海術

機關學部 讀書、作文、數學、機關學

(ハ) 修業年限

簡易科航海學部ハ滿四年ニシテ、最初ノ一年間ハ席上學科ヲ授ケ、次ニ三年間ハ船舶ニ乗組ミ航海實習ヲ爲サシム、

同機關學部ハ滿五年ニシテ、最初ノ一年間ハ席上學科ヲ授ケ、次ニ三年間ハ機關

工場ニ於テ製作ニ從事シ、更ニ一年間汽船ニ乗組ミ機關運轉ヲ實習セシム、

別科ニハ一定ノ修業年限ナシ、學科修了ノ後成規ノ海員試験ニ及第スルトキヲ以テ卒業ト看做ス、

(ニ) 生徒採用方

簡易科ニ於テハ年齢十四年以上二十一年以下ノ少年ニシテ、身軀強壯、品行方正、在學中家事ニ係累ナク且ツ高等小學卒業以上ノ學力ヲ有スル者ニ就キ試験ノ上採用ス

別科ニ於テハ從來ノ海員ニシテ海技免狀ヲ有スルカ又ハ相當ノ經歷アル者ニシテ、身軀強壯、品行方正、且ツ分校ニ於テ定メタル普通學試験ニ合格シタル者ヨリ採用ス、

(ホ) 水産講習所卒業生授業

函館分校ニ於テハ農商務省附屬ノ水産講習所卒業生ニ、遠洋漁業船ノ船長又ハ運轉士タルニ相應ナル學科ヲ教授シ且ツ船舶ニ乗組ミ航海ヲ實習セシム、

第三 公私立商船學校

目下公私立商船學校ノ存在スルモノ左ノ如シ、是等ハ官立商船學校ノ如ク遞信省ノ管理ニ屬セス、文部省ノ管理ニ屬スルモノニシテ、各學校ノ學科、修業年限等ハ茲ニ省略スルモ、大概左記「參照」ノ下ニ掲クル文部省令商船學校規程中ノ甲乙種商船學校ニ該當シ、簡易ノ座學ト實習トヲ授クルモノト知ルヘシ、

鳥羽商船學校（在志摩國鳥羽）

粟島航海學校（在讃岐國粟島）

大島甲種商船學校（在長門國大島）

藝陽商船學校（在安藝國大崎村）

（參照）

商船學校規程抄出（文部省令第十一號明治三十二年四月一日ヨリ施行）

第一條 商船學校ハ甲乙ノ二種トス

土地ノ情況ニ依リ甲種商船學校ノ程度ヨリ更ニ高等ナル商船學校ヲ設置スルコトヲ得

第二條 甲種商船學校ノ修業年限ハ三ヶ年以内トス但シ實習ヲ課スルトキハ相當ノ期間之ヲ延長スルコトヲ得

第三條 甲種商船學校ノ授業時數ハ實習ヲ除キ每週二十七時以内トス但シ實習時數ハ學科ノ種類ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第四條 甲種商船學校ノ學科目ハ修身、讀書、作文、數學、物理、地理、外國語、圖畫、体操并ニ實業ニ關スル各學科ノ科目及實習トス但シ本項科目ノ外化學、法規及其他ノ科目ヲ便宜加設スルコトヲ得

實業ニ關スル各學科ノ科目ハ左ニ掲クル事項ヨリ撰擇シ又ハ便宜分合シテ之ヲ定ムヘシ
一航海科 運用術、航海術、機關術大意、海上氣象學大意、造船學大意等
一機關科 機關術、機械製圖、力學、應用力學、電氣學大意等

第五條 甲種商船學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齡十四年以上學力修業年限四ヶ年ノ高等小學校卒業又ハ之ト同等以上トス但シ外國語ヲ試驗科目ニ加フルコトヲ得

第六條 乙種商船學校ノ修業年限ハ二ヶ年以内トス

第七條 乙種商船學校ノ授業時數ハ實習ヲ除キ每週二十七時以内トス但シ實習時數ハ學科ノ種類ニ依リ適宜之ヲ定ムヘシ

第八條 乙種商船學校ノ學科目ハ修身、讀書、習字、作文、數學、体操并ニ實業ニ關スル各學科ノ科目及實習トス但シ本項科目ノ外他ノ科目ヲ便宜加設スルコトヲ得

實業ニ關スル各學科ノ科目ハ左ニ掲クル事項ヨリ撰擇シ又ハ便宜分合シテ之ヲ定ムヘシ
一航海科 運用術大意、航海術大意、海上氣象學大意等
一機關科 機關術大意、機械製圖、物理、化學等

第九條 乙種商船學校ニ入學スル者ノ資格ハ年齡十一年以上學力修業年限四ヶ年ノ尋常小學校卒業以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十條 甲種商船學校ニハ豫科ヲ附設スルコトヲ得

第十一條 豫科ノ修業年限ハ二ヶ年以内トス

第十二條 豫科ノ授業時數ハ每週三十時以内トス

第八章 海員ノ養成及保護

第十三條 豫科ノ學科目ハ修身、讀書、習字、作文、算術、地理、歷史、理學、外國語、圖畫、鉢操トス
 第十四條 豫科ニ入學スル者ノ資格ハ年齡十二年以上學力高等小學校第二學年修了以上ニ於テ之ヲ定ムヘシ
 第十五條 商船學校ニ於テ從來ノ海員ニシテ技術免狀ヲ有スル者相當ノ海上若クハ工場履歷ヲ有スル者其他
 海事ニ關スル學科目ヲ專修セントスル者ノ爲ニ專修科ヲ置クコトヲ得
 第十六條 甲種商船學校ノ學科及乙種商船學校ノ學科ヲ一校内ニ併置スルコトヲ得

第四 海員養成所

日本海員救濟會ハ横濱、品川、大阪、神戸、函館、長崎、馬關ノ七個所ニ海員養成所ヲ置テ
 水火夫ヲ養成シ、又右ノ内品川、神戸、長崎ノ三個所ニ於テハ高等海員ヲモ養成ス、其ノ
 養成法ハ、高等海員ニ付テハ養成所内ニ於テ從來海員タリシ者ニ無謝儀ニテ必要ノ學科
 ヲ教授シ、以テ成規ノ海員試験ニ合格シ海技免狀ヲ受有セシムルコトヲ期シ、下級海員
 ニ付テハ世ノ水火夫タランコトヲ志望スル青年ヲ募集シ、体格及履歷ヲ調査シタル上之
 ヲ採用シ、本會ノ貸費若クハ有志船主ノ補助ニ依テ船舶ニ乗組ミ實地見習ヲ爲サシメ、
 約三ヶ月ヲ經過スレハ各本職ニ就カシムルノ例ナリト云フ、今救濟會創立以來養成シ
 タル海員ノ人員ヲ示セハ左ノ如シ、

高等海員及水火夫養成員數

年 度	高等海員試驗合格	水火夫養成員トシテ採用(内成業者)
自二十四年度 至二十七年度	八四六	二、六九六(内一、三一七)
二十八年度	六五	一、四八四(内 六〇九)
二十九年度	一五六	一、三五六(内 六一八)
三十年度	五六〇	一、九八六(内 九八八)
三十一年度	三〇三	一、四五五(内 七七九)
合 計	一、九三〇	八、九七七(内 四、三二)

第二節 海員ノ保護

第一 海員保護ノ要旨

海員ノ職責重大ニシテ其ノ生活ノ辛酸ナルヲ念フ者ハ、誰レカ彼等ニ向テ一片ノ同情
 ヲ表セサランヤ、彼等ハ貴重ノ人命ト鉅萬ノ財産トヲ船主ヨリ委托セラレ、安全ノ航海、
 無難ノ運送ヲ以テ本務ト爲スヘキハ言フマテモ無シ、由來通商航海ノ業ヲ以テ富國ノ淵

源、立國ノ基礎ト爲スヘキ我國ニ在リテハ、海員ノ能否勤怠ハ延テ國運ノ盛衰隆替ニ關係スヘシ、其ノ職責ノ重且大ナルコト豈ニ多言ヲ要センヤ、而シテ彼等ハ渺茫タル海ヲ地トシ一葉ノ船ヲ家トシ、家族團欒ノ快樂ノ如キハ之ヲ得ルコト容易ナラス、常ニ風雨ニ浴シ波瀾ト闘ヒ時トシテハ颶風ニ襲ハレ狂瀾ニ翻弄セラレ、生死ノ境ニ出入スルコト周歲幾回ナルヲ知ラス、其ノ生活ノ辛且酸ナルコト豈ニ亦喋々ノ辨ヲ須井ンヤ、

彼等ノ職責爾ク重大ニ、彼等ノ生活爾ク辛酸ナルヲ知ル以上ハ、同胞國民ハ飽迄彼等ヲ保護優遇スルノ方便ヲ講シ、彼等ノ爲ニ適任ノ職務相當ノ報酬ヲ得ルノ途ヲ開クヘキハ勿論、彼等陸ニ上レハ手易ク宿泊セシムル寄宿所ヲ設ケ、彼等負傷スルカ若クハ疾病ニ罹レハ無料治療セシムル病院ヲ建テ、彼等老衰スレハ養老金ヲ支給スルノ法ヲ設ケ、彼等若シ死亡スレハ其ノ遺族ヲ扶助シ其ノ孤兒ヲ養育セシムルノ方法ヲ立テサルヘカラス、是等ハ元ト志士仁人ノ力ニノミ依頼セス、亦國家的事業トシテ政府ノ當ニ助成スヘキモノト謂フモ亦決シテ不可ナキナリ、

歐米各國ニハ夙ニ海員保護ノ方法發達シ、各種ノ慈善的團躰ヲ設ケテ、彼等ノ誘掖救

濟ヲ努ムルノ盛況ハ、吾人ノ想像ヲモ及ハサル所ナリ、中ニモ英國ノ如キハ本國ニ三十餘、海外殖民地ニ二十三ノ海員接濟會アリ、又米國ニ於テハ水難救濟ノ事業ヲ國家事業ト爲シ、大藏省ニ一局ヲ置キ專ラ水難救濟ノ事務ヲ掌理セシムルヲ以テ、其ノ組織ノ完備スルコト列國中優ニ一頭地ヲ抽ケリト云フ、

我國ニハ一ノ海員接濟會アリ一ノ水難救濟會アリ、俱ニ國內有志家ノ協贊ニ成リ且ツ近來政府ヨリ年々壹萬乃至二萬圓ノ補助金ヲ受クルコト、爲リ稍振起ノ運ニ向ヘリ、其他救護ニ關スル法律アリテ沿岸ノ公吏ニ命シ救護ノ事務ヲ取扱ハシム、然レトモ之ヲ歐米列國ニ比スレハ其ノ事業設備極テ幼稚ニシテ遠ク遜色アリ、三十二年春ノ調査ニ據ルニ接濟會ノ會員大約二千三百人、歲入八萬三千二百圓、儲金年額七千圓ニ至リ、又救濟會ノ會員一萬八百餘人、歲入三萬一千餘圓、儲金八千八百圓ニ至ルモ、之ヲ彼ノ戰時事變ニ際シ負傷者ノ救護ヲ目的トスル赤十字社ノ現狀ニ比較スレハ果シテ如何、彼ハ會員五十七萬人、歲入二百五十萬圓、儲金百數十萬圓ニ上ル、所謂九牛ノ一毛ヲニ及ハサルモノナリ、惟フニ赤十字社業ト云ヒ海員接濟又ハ水難救護ノ事業ト云ヒ、均ク

曠世ノ美譽タルニ相違ナキモ、我カ海國目前ノ急務ヨリ考フレハ、後者ノ事業ハ一層痛切緊要ナル關係ヲ有スルモノト謂ハサルヲ得ス、然ルニ事業進歩ノ相懸隔スルコト此ノ如シ、是レ亦以テ日本國民ノ海事思想ニ乏ク、富國ノ淵源ト海員トノ密接ナル關係ニ思ヒ到ラサルノ証左ト爲スニ足ラン歟、

願クハ舉國一致ヲ以テ海國ノ觀念ヲ普及スルニ努メ、盛ニ公共慈善ノ心ヲ發揮シ、海員保護ノ事業ヲシテ夫ノ赤十字社ト盛ヲ競ヒ、世界列國ト肩ヲ比フルニ至ラシメンコト敢テ同胞ニ勸告スル者ナリ、

第二 日本海員救濟會

(一) 目的

本會ハ前述海員養成ノ外ニ、海員ヲ保護媒介シテ其ノ職業ヲ得セシメ、海員ノ爲ニ寄宿所ヲ設ケテ便宜之ニ宿泊セシメ、疾病負傷其他憫ムヘキ境遇ニ在ル海員ヲ施療救養シ、又水火夫ノ風儀ヲ矯正スルニ努ムル等、廣ク海員ノ誘掖救濟ヲ以テ目的ト爲シ兼テ船主ノ便益ニ資スルモノニシテ、政府カ曩ニ(二十八年七月)本會ノ請願ヲ容レ、

去ル二十九年度ヨリ向フ五年間毎年一萬圓宛ノ補助金ヲ下附スルコトヲ約セラレタルハ、深ク時宜ニ適スルモノト謂フヘシ、當時請願ノ要旨ニ曰ク「近時國運ノ進歩ト共ニ海事々業モ頓ニ振興ノ勢ヲ呈シ、從テ本會施行ノ目的モ俄ニ擴張スヘキ必要ヲ來タシタリ、然ルニ獨リ有志集合ノ力ヲ以テ、其ノ必要ニ應シ緊切ノ事業ニ着手スルコト能ハサルヲ以テ、政府ヨリ相當ノ保護ヲ仰カント欲ス云々」ト、亦以テ本會ノ趣旨方針ノ在ル所ヲ知ルヘシ、

(二) 組織及役員(本支部 事務所)

本會ハ明治十二年中東京府下有志者ノ計畫ニ依リ、翌十三年八月ヲ以テ創立シ、始テ海員寄宿所ヲ東京府下品川ニ設ケ、尋テ主要ノ海港ニ事務所ヲ置キ、各事務所ニ於テハ海員ノ養成、媒介、寄宿、施療等ノ事ヲ掌ル、又二十八年中本部ヲ東京ニ置キ三十二年ニ至リ沿海府縣及海軍鎮守府所在地ニ支部ヲ設ケ、以テ本會ノ目的タル海員ノ養成保護ノ實ヲ擧ケン爲メ廣ク會員ヲ國內ニ募リ、會員ノ獻金(三十一年度七千圓)有志者ノ寄附金(同七千六百餘圓)、政府ノ補助金及雜收入ヲ以テ本會ノ經費ヲ支辨ス

ル、所謂慈善的ノ団体ナリ、三十二年三月末ノ報告ニ依レハ、掖濟會事務所ノ設立地及會員ノ現在數左ノ如シ、

○事務所設立地

横濱、品川、大阪、神戸、函館、長崎、馬關

○會員

名譽會員

一一人

特別會員

二七八

通常會員

一、九七七

合計

二、二六六

次ニ本支部役員ノ事ヲ一言センニ、總裁ニハ有栖川宮殿下ヲ戴キ、赤松男爵（豫備海軍中將）ヲ會長ニ前島密氏ヲ副會長ニ撰任シ、其他本部ノ役員タル理事、常議員、幹事長、幹事ハ何レモ海事社會ニ知名ノ人士ヨリ成リ、又下級海員ノ監視矯風ノ爲メ一人ノ船長（現在ハ福井光利氏）ヲ名譽監督ニ囑託ス、而シテ府縣及海軍鎮守府ニ設

クル各支部ニハ支部長、副支部長、特別委員及幹事（以上何レモ名譽職トス）ヲ置キ、支部長ヲハ府縣知事ニ副部長ヲハ府縣書記官ニ、特別委員ヲハ其地ノ名望家ニ囑託シ、又各支部ノ下ニ郡、市、區部ヲ設ケ之ニ委員長及委員ノ名譽職ヲ置キ、何レモ其地ノ名望家ニ囑託スルモノトス、茲ニ支部及郡、市、區部ニ於テ管掌スル事務ヲ擧クレハ、

- 一、時々講話會ヲ開キ部内人民ノ海事思想ヲ啓發セシムルニ努ムルコト
- 二、本會ノ趣旨目的ヲ遂行スル爲メ有志者ヲ勸誘シ本會ノ擴張ヲ圖ルコト
- 三、國家有事ノ日海員ノ募集ヲ補助スルコト
- 四、入會者ノ申込アルトキハ訂盟狀、會員章等ヲ本人ニ交付シ會員名簿ニ登記スルコト
- 五、醜金又ハ寄附金圓物件等ヲ收領スルコト

大概右ノ如クニシテ目下支部ノ設アル地ハ、左ノ二十一縣二鎮守府ナリ（三十二年三月末調）

- 兵庫 長崎 三重 愛知 静岡 鳥取 島根 岡山 廣島 山口 和歌山 徳島
- 香川 愛媛 高知 福岡 大分 佐賀 熊本 宮崎 鹿児島
- 吳 佐世保

(三) 事業一班 (但シ海員養成ノ事ハ前ニ出ツ)

(イ) 海員ノ媒介及懲戒

本會カ水火夫、司厨、給仕等ヲ媒介スルニハ、大約六ヶ月ノ雇入期間ヲ以テ、一人ニ付金五拾錢ノ會資捐金ヲ受領シ其ノ保證人ニ立チ、若シ當人ニシテ船主ニ損害ヲ與ヘタルトキハ、本會之ヲ辨償スヘキコトヲ擔保スルモノナリ、而シテ本會ハ媒介ヲ爲シタル海員ニ對シ、懲戒處分ヲ爲スノ權能ヲ定メ、之ヲ以テ媒介禁止、媒介停止、外國航海ニ限ル媒介禁止ノ三種ト爲シ、不行跡其他犯則行爲ノ輕重ニ應シテ相當ノ制裁ヲ加ヘ、本會ノ媒介ヲ得テ職務ニ就クノ途ヲ中絶セシムヘシ、

(ロ) 海員寄宿所

本會ハ前示事務所ヲ設クル海港七箇所ニ寄宿所ヲ置キ、極テ低廉ナル寄宿料ヲ以テ隨意宿泊セシム、是レ薄資薄給ノ海員ノ爲メ、費用ヲ節セシムルノミナラス、船内ニ起臥スルヲ以テ常習トスル彼等ハ、陸上ニ家宅ヲ求ムルコト困難ナレハ、雇止上陸、休養等ノ場合ニハ、極テ便宜ヲ感スヘキハ當然ナリ、各地ノ寄宿所ハ從來專ラ下級海員ノ爲ニ設置セラレタルモノナレトモ、横濱ノ如キハ三十一年中高等海員ノ爲メ、特ニ寄宿舎一棟ヲ増築シタリト云フ、

(ハ) 海員ノ施療

本會ハ海員ニシテ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタル者ヲ、無料治療スルノ特典ヲ設ケ、職務ノ爲メ負傷シタル者ニ向テハ、船主ノ施療期間盡キタル後(法律上船主ハ海重大ナル過失ニ原因セスシテ負傷シタル者ニハ三ヶ月以内施療ノ義務アリ)施療ヲ始メ全癒スルマテ之ヲ繼續スヘシ(尤モ施療一年ノ依リ終身全癒ノ見込ナキトキハ相當ノ手當ヲ爲シタル上施療ヲ止ム)又過失ノ爲メ負傷シタル者若クハ疾病患者ニ向テハ、六十日ヲ限リ施療スヘク、病狀ニ依リ醫師ノ証明アルトキハ尙ホ三十日以内延期スルコトアリ、其他本會媒介ノ海員ニシテ海難又ハ職務ノ爲メ死亡シタル者ノ遺族ニ吊祭料ヲ贈リ、職務負傷ニテ不具ト爲リタル者ニ扶助料ヲ給スル等ノ義舉ヲ爲セリ、

(ニ) 海員風儀ノ矯正

海員ノ氣風ヲ順良ニシ且ツ職務ニ誠實ナラシムルハ、亦本會ノ務ムル所ニシテ、之カ獎勵法トシテ標章授與規程ナルモノヲ設ケ、勤勉章、特行章ト稱スル二種ノ標章ヲ製シ、海員中拔群ノ實蹟アル者ニ之ヲ授ケテ特ニ其ノ功勞ヲ表彰ス、即チ是等ノ標章ヲ授與スヘキ場合ハ左ノ如シ、

一、勤勉章ハ登壇屯數五百屯以上公稱馬力一百以上ノ航海船ニ乗組ムコト十年以上ニ及ビ、其内七年以上ハ水夫長、舵取、大工、火夫長又ハ油差ノ職ヲ執リ、品行善良職務老練ニシテ職務勤勉ノ實蹟アル者ニ授與ス
但シ前示ノ屯數馬力以下ノ船舶ニ乗組ムト雖モ、前示ノ資格ヲ具備シタル者ニハ特ニ授與スルコトアルヘシ

二、特行章ハ海難其他ノ場合ニ、至難ヲ冒シ特別ノ行爲アリタル者ニ授與ス、
前項ニ記セル懲戒處分ハ、又海員ノ將來ヲ警ムルノ趣意ニ外ナラスシテ、其他本會ハ折ニ觸レ時ニ應シ或ハ口舌ヲ以テ或ハ文書ヲ以テ循々訓誨スル所アリ以テ海員ノ暴行ヲ未發ニ防カンコトヲ勉メ居ルト云フ、

(ホ) 海員ノ貯金

本會ハ又簡單ナル手續ヲ以テ、海員ノ貯金ヲ預リ相當ノ利子ヲ附シ、必要ニ際セハ其ノ請求ニ應シテ之ヲ拂戻スノ方法ヲ設ケアリ、是レ些少ノ金額ヲ一々銀行等ニ預入ル、手數ヲ省カシムルト共ニ、亦海員ヲシテ濫費ヲ節セシムル利益アルヘシ、
(ヘ) 海員ノ媒介、寄宿、施療人員

終リニ臨ミ本會創立以來、海員ヲ媒介、施療シ又寄宿セシメタル人員ヲ示シテ、事業成績ヲ知ルノ一助ニ供スヘシ、

年 度	媒介海員	寄宿海員	施療患者
自二十四年度 至二十七年度	一一五、八一二	一五、一一一	
二十八年年度	三三、八八二	八、八四〇	
二十九年年度	二七、一八一	四、〇八四	一、六四四
三十年年度	二四、六六九	三、三二八	一、六八一
三十一年年度	二六、一六二	三、三三〇	一、六〇〇
合 計	三二六、七〇六	三四、六九三	

尙ホ最近三年間ニ就キ、媒介海員ノ種類ヲ區別スレハ左ノ如シ、

年 度	甲板部	機關部	事務部
二十九年年度	一一、二五六	九、八一八	六、一〇七
三十年年度	一〇、一七〇	九、〇二五	五、四七四

三十一年度

一〇、〇三三

九、八二五

六、三二四

上來叙述シタル所ニ由リ之ヲ觀ルニ、海員救濟會ノ事業カ如何ニ國家ニ切要ニシテ海運業ニ至大ナル關係ヲ有スルカヲ知ルヘシ、今假ニ同會ノ業務ヲシテ一日休止セシムルコトアランニハ、忽チ帝國海員ノ保護養成ニ大頓挫ヲ來シ延テ運輸交通ノ便ヲ阻碍スルコト測ルヘカラサルモノアラン、實ニ同會ノ如キハ海國必須ノ機關トシテ有始有終ノ美アラシムヘキモノナリ、

第三 大日本帝國水難救濟會

(一) 目的

本會ノ目的ハ我國沿海ニ於テ海難ニ遭遇シタル人員、船舶及貨物ヲ救助スルニ在リ、海員救濟會ト均ク眞ニ慈善的ノ團躰ニシテ、三十年三月救助金下附ノ儀ヲ政府ニ請願シ、三十年度ヨリ向フ三年間毎年二万圓宛ヲ支給セラル、コト、爲レリ、蓋シ四面環海ノ我國ニ於テ海難ノ多キハ數ノ免レサル所、政府這般ノ處置アルハ至當ノ事ト謂フ

ヘシ、當時請願ノ要旨ハ「海事ノ發達ニ伴ヒ海難救護ノ施設ヲ謀ルハ最モ急務ナルヲ以テ、本會ハ既設救難所ノ規模ヲ完備スルト共ニ新ニ樞要ノ地ニ救難所ヲ増設シ、逐次會務ノ振作ヲ謀リ當初ノ目的ヲ貫徹セント欲ス、然レトモ之ニ充ツヘキ資金支出ノ途ナク緊切ノ事業ニ着手スルコト能ハサルヲ以テ、其ノ自立シ得ルニ至ルマテ相當ノ補助金ヲ下附セラレンコトヲ請フ」ト云フニ在リキ、以テ本會ノ趣旨方針ヲ知ルニ足ルヘシ、

(二) 組織及役員

本會ハ二十一年八月讃岐金比羅宮々司琴陵氏等ノ計畫ニ係リ、翌年十一月始テ救難所ヲ同國多度津及與嶋ノ二個所ニ設ケテ斯ノ事業ヲ開始セリ、爾來本部ヲ東京ニ支部ヲ讃岐國琴平町ニ置キ、着々會務ヲ擴張シテ既ニ設立シタル救難所十六箇所、現ニ計畫中ノモノ六箇所アリ、本會ノ會員ハ廣ク國內ノ有志者ヨリ募リ、又其ノ經費ハ會員ノ獻金(三十一年度八千八百七十七圓)、政府ノ補助金、其他雜收入ヲ以テ支辨スルコト全ク海員救濟會ニ同シ、三十二年三月末ノ調査ニ依レハ會員ノ現在數ハ左ノ如

會 員

名譽會員	五六八
正會員	三、九三六
賛成會員	六、八二〇
合 計	一〇、八一二

本會ノ役員ハ總裁ニハ有栖川宮殿下ヲ戴キ、副總裁ニハ鍋島侯、會長（理事）ニハ吉井伯ヲ推撰シ、其他評議員及監事ハ皆國內顯要ノ地位ヲ占ムル人士若クハ海事社會ノ先達者ヨリ成リ、又本會ノ趣旨ヲ普及セシムル方便トシテ各府縣及郡市區ニ委員部ヲ設ケ、府縣委員部ニハ總長、副總長、主事、委員等ヲ置キ、郡市區委員部ヲ獎勵監督シテ本會ノ擴張、救難事務ノ整備ヲ圖リ、郡市區委員部ニハ委員長、委員副長、委員等ヲ置キ、會員ノ募集、會費及寄附金ノ受領、會員名簿ノ備付、救難所ノ監督等ヲ掌リ、是等ノ役員ハ何レモ名譽職ニシテ總裁ヨリ之ヲ委囑スルモノナリ、

(三) 救難所及其ノ組織

本會ハ其ノ目的ヲ遂行スル第一手段トシテ、國內難破船ノ多キ海岸ニ救難所及見張所ヲ設ケ、救難所附近其他ノ濱岸町村ニシテ海難ノ患アルモ救難所ヲ設クルニ及ハサル場所ニハ、支所若クハ救難組合船ヲ設ク、而シテ救難所ニハ監督、所長、看守長、看守（見張人）、救助夫長、救助夫ヲ置キ、支所ニハ支所長、救助夫ヲ又救難組合船（舟艇十隻ヲ一組トス）ニハ組合長、救助夫ヲ置キ、孰レモ舟艇其他ノ救助用器具（浮輪、網卷、綱索、諸燈、旗章、信號等）ヲ備ヘ、以テ海難ニ罹レル船舶人員アレハ直ニ之ヲ救助スルノ準備ヲ爲サシム、三十二年三月末ノ調査ニ依レハ、救難所ノ設立地及救難ニ從事スヘキ役員ハ左ノ如シ、

○救難所及支所設立地（×符ハ現在計畫中）

- 讃岐國 多度津、與嶋、引田
- 阿波國 撫養
- 紀伊國 和歌山、大嶋、串本、太地

- 陸前國 石卷(大曲支所) 渡波(小竹、長渡、田代、追)
 - 長門國 下ノ關(第子待、田ノ首、福浦、西山、竹ノ子島ノ五支所附屬ス)
 - 出雲國 美保關
 - 陸奥國 龍飛
 - 下總國 銚子
 - 遠江國 掛塚
 - 後志國 小樽(工事中ニテ尙ホ支所數ヶ所ヲ設ケル筈)
 - 筑前國 ×若松、福岡
 - 豊前國 ×門司
 - 攝津國 ×和田ノ岬
 - 備前國 ×下津井
 - 日向國 ×美々津
- 既設ノ分 十六個所

現在計畫中 六個所

(備考)

本會ハ全國沿岸ニ總テ百八個所ノ救難所ヲ設ケルノ目的ナリト云フ

○救難所役員

- 監督 一二人
- 所長 一四
- 救助夫長及救助夫 一、二六六
- 看守長及看守 三二
- 組長及副組長 一〇八
- 組合長、組合副長及組合救助夫 一六八
- 囑託醫 六
- 合計 一、五〇六

(四)事業一班

第八章 海員ノ養成及保護

(1) 救難成績

本會開設以來ノ海難救助成績ヲ統計スレハ左ノ如シ、

年 度	救難所數	救助回數	被救西洋形船隻	被救日本形船	被救人員	以上救助ニ從事シタル救助船	同上救助夫
二十二年	二	一〇	二	八	三四	三三	一三四
二十三年	四	二三		三五	一三四	一五四	九二七
二十四年	八	四五	三	五〇	二二五	一三〇	一、五二〇
二十五年	八	三六		二八	一二六	一一四	一、一四〇
二十六年	九	三五		三五	一二二	九一	六九四
二十七年	一〇	三三	六	二六	一九六	八四	九四九
二十八年	一〇	三三	二	二〇	七七	六九	四九八
二十九年	一〇	二五	一	二六	一〇八	八一	六五六

三十一年	一二	五六	五	五五	二七二	一二五	一、一三三
三十二年	一五	二二〇	一六	一九〇	九六〇	五一七	五、四六二
合計		四九四	三五	四七三	二、二四三	一、三九八	一三、一一二

即チ過去十年間ニ於テ遭難船ヲ救助シタルコト前後凡ソ五百回五百八隻ニシテ、之カ爲メ救助セラレタル人員無慮二千二百五十人ニ上レリ、尙ホ三十二年度ノ救助成績ヲ聞クニ、未タ精査ヲ經サル由ナルモ西洋形船五十二隻、日本形船二百十七隻、其ノ人員千二百十一人ヲ救助シ、被救船體貨物ノ見積價格大約五十五萬七千六百七十圓ニ達セリト云フ、

(ロ) 救護者ノ賞與及扶助

會員ニシテ危險ヲ冒シ人命財産ノ救助ニ從事シタル者ニハ、相當ノ謝意ヲ表スヘキハ勿論ニシテ、救護ニ從事シ特ニ勤勞アル者ニハ賞標ヲ授與スルノ法アリ、又救護ノ爲メ負傷若クハ死亡シタル者ニハ相當ノ扶助料ヲ給スルモノトス、其他會員ニ

非サルモ本會ノ趣旨ヲ贊シ自己ノ危險ヲ顧ミスニ盡力シタル者ニ向テハ、亦相當ノ謝意ヲ表スヘシ、

(ハ) 救難電報

本會ハ月々ノ救難成績ヲ官報上ニ投載スルノ外、尙ホ電報ヲ以テ速ニ社會ニ報告スルノ方法ヲ立テタリ、即チ遭難船ニシテ二十噸(又ハ二百石)以上ノモノナルトキ、若クハ尙ホ小形ノ船舶ト雖モ較著ナル事變アルトキハ、救難所ヨリ直ニ電報ヲ以テ東京ノ本部及新聞社ニ報告シ、以テ普ク海難ノ出來事及救助ノ狀況ヲ世間ニ知ラシムルナリ、

(ニ) 救命砲及附屬具ノ寄贈

本會ハ米國水難救濟局長キンバル氏ノ厚意ニ依リ、同國々會ノ協賛ヲ經タル上、頃日「ライル」式救命砲一門並ニ附屬海岸用救命器具一式ヲ寄贈セラレタリ、是レ本會ノ榮譽トスル所ナルヘシ、從來我カ救難所ニ備フル救助船ハ、我國固有ノ漁船ニ改良ヲ加ヘ航海ニ耐フルモノト爲シタルノミニテ不完全ヲ免レス、又海難救助用

トシテ最も必要ナル救命砲、火箭ノ如キハ未ダ之カ備付ナカリシニ、今米國ヨリ是等ノ要具ヲ惠投セラレタル以上ハ、今後吉井會長ノ計畫ノ如ク、右ノ惠投品ヲ見本トシテ國內ニテ續々製造セラル、ニ至ラハ、斯ノ事業ノ進歩ヲ助クルコト實ニ非常ナルヘシ、

(備考)

帝國水難救濟會ハ、昨三十二年北米合衆國政府ヨリ海難用救命砲ノ寄贈ヲ受ケ、之ヲ銚子救難所ニ備付ケタルカ本邦ニ於ケル同砲ノ使用ハ今回ヲ以テ嚆矢トナスニ依リ、全會本部員林昌澄氏ハ該所へ出張數日間試撃ノ末、四「オンス」乃至六「オンス」ノ火藥ヲ用ヒ能ク三百碼乃至四百碼ノ距離ニ紐ヲ結著ケタル彈丸ヲ到達セシメ得ルコトヲ確メタリト云フ、茲ニ其ノ裝置及使用方法ヲ示セハ左ノ如シ、

救命砲ハ合衆國大藏省水難救助局救命器具會議員ライル陸軍大尉ノ發明ニ係リ、現今該救助局所轄救難所ニ於テ專ラ使用スルモノナリ、砲身ノ長サ一呎十吋餘、砲口ノ徑二吋半、重量十貫八百目アリテ、我陸軍用山砲ノ稍、小ナル前裝砲ナリ、彈丸ハ細長クシテ其ノ一端ニ柄ヲ螺著シ、柄頭ニ銀アリテ恰モ閉チタル洋砲ノ狀ヲ成ス、之ヲ發射セントスルニハ先ツ距離ニ應ジテ適宜ノ火藥ヲ裝填シ、次ニ箱内ニ納メアル紐ノ一端ヲ彈柄ノ銀ニ結著ケ、然ル後彈丸ヲ徐ニ砲内ニ裝填スレハ、彈柄ノ一部ハ砲口ヨリ突出スルコト四五吋ニ及フスグテ砲手ハ砲後ニ跪キ高度ト照準トヲ定メ、雷管ヲ火門ニ挿入シ強ク牽索ヲ引キテ發射スルモノトス、之ヲ發射スレハ彈丸砲口ヲ離ルヤ首尾顛倒シ、紐ヲ引キテ遭難船ヲ救エ紐ヲシテ遭難船ニ繫ラシム、遭難船員ハ紐ヲ捉リ之ヲ繰ルニ從ヒ有尾滑車ヲ通シタル綱ヲ得ヘシ、乃チ紐ヲ綱ヨリ切斷シ滑車ノ尾ヲ橋其他ノ高所ニ縛著ケ、其趣ヲ陸地ニ信號スルトキハ、陸地ヨリ滑車ヲ通シタル綱ノ作用ニ依リ大索ヲ送付ス、船員大索

ヲ得タルトキハ、之ヲ首尾滑車上約ソニ縛著ク、大索ニハ之ヲ往復スル滑車アリテ同滑車ヨリ浮股ヲ吊シ且ツ同滑車ノ首ニハ綱ヲ纏ヘルヲ以テ、陸地ヨリ綱ノ一部ヲ引ケハ浮股ハ遭難船ニ向ヒテ轉動シ、船員之ヲ穿テ準備整ヒタリトノ信號ニ從ヒ、陸地ヨリ綱ノ他部ヲ引ケハ浮股ハ陸地ニ向ヒテ轉動スヘリ、此ノ如クニシテ浮股ハ陸地ト遭難船間ヲ往復シ、悉皆ノ遭難員ヲ救助スルノ裝置ナリ、

砲索具其他一切海岸用器具ヲ運搬スルハニ幅廣キ車輪ヲ有スル一ノ挽車ヲ用ヒ、之ヲ挽クニハ七八ヲ要ス、若シ救難所附近ニ於テ遭難船ヲ發見シタルモ、天候其他ノ事情ニ依リ救命艇ヲ使用スル能ハサル場合ニハ、之ヲ挽キテ遭難場ニ駈付ケ救助ニ從事スルモノトス、

以上列舉シタル事業成績ニ徴セハ、如何ニ水難救濟會カ比年長足ノ進歩ヲ爲シ、之ヲ小ニシテハ個人ノ爲ニ之ヲ大ニシテハ國家ノ爲ニ裨補スル所ノ多カリシカヲ知ルヘシ、僅々十數個所ノ救難所ヲ以テスラ其効ヲ奏スルコト此ノ如シ、若シ夫レ本會ノ擴張成リ豫期ノ如ク百有餘個所ノ救難所ヲ設クルニ至ラハ、其ノ成績ノ顯著ナル果シテ如何ソヤ、而シテ本會ノ事業タルヤ其ノ救助スル人員船舶等ニ付キ内外ノ區別ヲ立ツルモノニ非サルコト文明諸國皆共ニ然ルヲ以テ、所謂萬國共通ノ海國の慈善事業トシテ、飽迄保護助長スルノ必要アルヘキナリ、

第四 水難救護法

水難救護ノ事タル亦一國政府カ公安ヲ維持スル爲ニ執行スヘキ一ノ職責ニシテ、特ニ法令ヲ設ケ沿岸ノ公吏又ハ警察官ニ命シテ遭難船及之ニ搭載セル旅客、船員、貨物等ヲ救護セシムルコトハ、各國其軌ヲ一ニスル所ナリ、我國ニ於テモ夙ニ外國船難破救助心得及漂着物取扱方^(明治三、四年布告)并ニ内國船難破及漂流物取扱規則^(明治八年布告)ノ設ケアリ、以テ内外船舶ノ遭難救護ニ關スル公吏及普通人民ノ義務ヲ規定シタリシガ、客年三月改メテ水難救護法ヲ發布シ、内外船舶ヲ問ハス苟モ水難ニ遭遇シタルモノアラハ、之ヲ救護スヘキ義務ヲ市町村長ニ負ハシメ、又警察官ヲシテ救護ノ事務ニ關シテ市町村長ヲ補助セシメ、市町村長若シ現場ニ在ラサルトキハ之ニ代テ救護ニ必要ナル處分ヲ行ハシムルコト、爲シ、且ツ沿海ノ住民ニシテ遭難船アルコトヲ發見シタル者ハ、速ニ最寄ノ市町村長又ハ警察官ニ報告スヘキコトヲ定メリ、之ニ就テ市町村長ニ與フルニ、救護ノ爲メ人夫ヲ招集シ船舶車馬等ノ物件ヲ徵用シ或ハ他人ノ所有地ヲ使用スルコトヲ得ヘキ權能ヲ以テス、而シテ救護ノ爲ニ要セル費用ハ、一定ノ期間内ニ船長又ハ船主ヲシテ納付セシムル原則ナレトモ、救護其効ヲ奏セサル場合ニハ、救護費用ハ國庫ノ負擔ニ歸スルモノト

爲セリ、尙ホ救護ノ手續等ハ第二十章海難ノ部ニ詳説スヘシ、

第九章 海員ノ資格

第一 海技免狀ノ種類

我國ニ於テ高等海員トシテ法令ニ定ムル資格ヲ得ントスル者ハ、海軍武官又ハ商船學校卒業者ヲ除クノ外ハ、相當ノ履歴ヲ具備シテ成規ノ試験ニ合格シ海技免狀ヲ受有セサルヘカラス、海技免狀ニ左ノ十二種アリ、之ニ依テ高等海員ノ等級ヲ區別スルモノトス

- 一 甲種船長
- 二 甲種一等運轉士
- 三 甲種二等運轉士
- 四 乙種船長
- 五 乙種一等運轉士
- 六 乙種二等運轉士
- 七 丙種船長

八 丙種運轉士

九 機關長

十 一等機關士

十一 二等機關士

十二 三等機關士

第二 受験履歴

前示十二種ノ海技免狀ニ付テ其ノ一ヲ受有セント欲スルモノハ、其ノ志望スル免狀ニ相當スル海員試験ヲ受ケサルヘカラス、而シテ海員試験ヲ受クルニハ、年齢二十歳以上ニシテ試験ノ種類ニ從ヒ夫々左ニ掲クル如キ履歴ノ一ヲ有スヘキモノトス、

○甲種船長試験

- 一、甲種一等運轉士ノ免狀若クハ遞信大臣ニ於テ之ニ相當スト認ムル外國政府ノ免狀ヲ受有シ、一年以上登簿噸數三百噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ、一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト、
- 一、乙種船長若クハ丙種船長ノ免狀ヲ受有シ、一年以上登簿噸數三百噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ、船長ノ職ヲ執リタルコト、

○甲種一等運轉士試験

- 一、甲種二等運轉士免狀若クハ遞信大臣ニ於テ之ニ相當スト認ムル外國政府ノ免狀ヲ受有シ、一年以上登簿噸數三百噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ、二等運轉士ノ職ヲ執リタルコト、
- 一、四年以上登簿噸數二百噸以上ノ航洋船ノ運航ニ從事シ、其内一年以上ハ横帆装置ノ帆船、又一年以上ハ汽船ニ乗組ミタルコト、

○甲種二等運轉士試験

- 一、遞信大臣ノ允當ト認ムル學校ニ在テ航海運用學卒業ノ上、三年以上登簿噸數二百噸以上ノ航洋船ノ運航ニ從事シ、其内一年以上ハ横帆装置ノ帆船、又六ヶ月以上ハ汽船ニ乗組ミタルコト、
- 一、乙種一等運轉士ノ免狀ヲ受有シ、一年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ、一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト、
- 一、乙種一等運轉士ノ免狀ヲ受有シ、一年以上登簿噸數五十噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ、船長ノ職ヲ執リタルコト、

○乙種船長試験

- 一、乙種一等運轉士ノ免狀ヲ受有シ、一年以上登簿噸數五十噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ、船長ノ職ヲ執リタルコト、
- 一、水先人免狀ヲ受有シ、三年以上其ノ營業ヲ爲シタルコト、
- 一、乙種一等運轉士試験
- 一、四年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ノ運航ニ從事シタルコト、
- 一、乙種二等運轉士ノ免狀ヲ受有シ、一年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ、運轉士ノ名義ヲ以テ其ノ運航ニ從事シタルコト、
- 一、乙種二等運轉士ノ免狀ヲ受有シ、一年以上登簿噸數五十噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ、船長ノ職ヲ執リタルコト、

○乙種一等運轉士試験

- 一、遞信大臣ノ允當ト認ムル學校ニ在テ、航海運用學卒業ノ上、三年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ノ運

航ニ従事シタルコト、

○乙種二等運轉士試験

- 一、三年以上汽船ノ運航ニ従事シタルコト、
- 一、遞信大臣ノ允當ト認ムル學校ニ在テ、航海運用學卒業ノ上、二年以上汽船ノ運航ニ従事シタルコト、

○丙種船長試験

- 一、丙種運轉士ノ免狀ヲ受有シ、一年以上登簿噸數一百噸以上若クハ積石數一千石以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ、一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト、
- 一、丙種運轉士ノ免狀ヲ受有シ、一年以上登簿噸數五十噸以上若クハ積石數五百石以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ、船長ノ職ヲ執リタルコト、
- 一、水先人免狀ヲ受有シ、三年以上其ノ營業ヲ爲シタルコト、

○丙種運轉士試験

- 一、四年以上航洋帆船ノ運航ニ従事シタルコト、
- 一、遞信大臣ノ允當ト認ムル學校ニ在テ、航海運用學卒業ノ上、三年以上航洋帆船ノ運航ニ従事シタルコト、

○機關長試験

- 一、一等機關士ノ免狀若クハ遞信大臣ニ於テ之ニ相當スト認ムル外國政府ノ免狀ヲ受有シ、一年以上登簿噸數三百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ、一等機關士ノ職ヲ執リタルコト、
- 一、一等機關士ノ免狀若クハ遞信大臣ニ於テ之ニ相當スト認ムル外國政府ノ免狀ヲ受有シ、一年以上登簿噸數二百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ、機關長ノ職ヲ執リタルコト、

○二等機關士試験

- 一、四年以上登簿噸數二百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ、機關ノ運轉ニ従事シタルコト、

- 一、二等機關士ノ免狀ヲ受有シ、一年以上登簿噸數五十噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ、機關長ノ職ヲ執リタルコト、
- 一、二等機關士ノ免狀ヲ受有シ、一年以上登簿噸數一百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ、一等機關士ノ職ヲ執リタルコト、

- 一、二等機關士ノ免狀ヲ受有シ、一年以上登簿噸數五百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ、二等機關士ノ名義ヲ以テ機關ノ運轉ニ従事シタルコト、
- 一、遞信大臣ノ允當ト認ムル機關工場若クハ學校ニ在テ、二年以上機關ノ製造若クハ修繕ニ従事シタル上、一年六ヶ月以上登簿噸數二百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ、機關ノ運轉ニ従事シタルコト、

○二等機關士試験

- 一、四年以上登簿噸數五十噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ、機關ノ運轉ニ従事シタルコト、
- 一、三等機關士ノ免狀ヲ受有シ、一年以上登簿噸數五十噸以上ノ汽船ニ乗組ミ、機關長ノ職ヲ執リタルコト、
- 一、遞信大臣ノ允當ト認ムル機關工場ニ在テ、二年以上機關ノ製造若クハ修繕ニ従事シタル上、一年六ヶ月以上登簿噸數五十噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ、機關ノ運轉ニ従事シタルコト、

○三等機關士試験

- 一、三年以上汽船ニ乗組ミ、機關ノ運轉ニ従事シタルコト、
- 一、遞信大臣ノ允當ト認ムル機關工場ニ在テ、二年以上機關ノ製造若クハ修繕ニ従事シタル上、一年以上汽船ニ乗組ミ、機關ノ運轉ニ従事シタルコト、

(備考)

- 一、甲種一等運轉士若クハ甲種二等運轉士ノ免狀ヲ以テ、乙種一等運轉士ノ免狀ニ代用シ其職ヲ執リタル者
- ハ、乙種船長ノ試験ヲ、又丙種運轉士ノ免狀ニ代用シ其職ヲ執リタル者ハ、丙種運轉士ノ試験ヲ受ケル

コトヲ得、

二、甲種二等運轉士ノ免狀ヲ受有シ、登簿噸數五百噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ、三等運轉士ノ名義ヲ以テ其職ヲ執リタル者、又ハ一等機關士ノ免狀ヲ受有シ、登簿噸數五百噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ二等機關士ノ名義ヲ以テ其職ヲ執リタルモノハ、其ノ執職日數ノ半數ヲ以テ各免狀相當ノ職ヲ執リタル履歴ト見做スコトヲ得、

三、航洋船トハ沿海航船以上ノ船舶、航洋汽船トハ沿海航船以上ノ汽船ヲ謂フ、

第三 海技試験ノ場所及期日

(一) 場所

- 一、東京海事局
- 二、大阪海事局
- 三、長崎海事局
- 四、函館海事局

但シ外國人ニ係ル試験ハ東京海事局ニ於テノミ之ヲ執行ス

(二) 期日

毎月十日トス、若シ當日休暇日ナルトキハ順次之ヲ延期ス、

但シ右定日外ニ臨時試験ヲ執行スルノ必要アルトキハ、別ニ其場所及期日ヲ定メ、一週間前ニ官報ヲ以テ告示スヘシ

第四 受験申請手續

海員試験ヲ受ケント欲スル者ハ、試験期日ノ七日前(臨時試験ノトキハ三日前トス何レモ休暇日ヲ算入セス)迄ニ左記ノ書類ヲ添ヘテ、受験申請書(申請用紙ハ海事局又ハ海務署ヨリ申受クヘシ)ヲ其ノ試験ヲ受ケント欲スル場所ノ海事局ニ差出スヘシ、

一、履歴書及其ノ証明

商船ニ乗組ミタル履歴書(イ)ハ、當該官吏若クハ公吏ノ証明書(即チ雇止証書ノ如シ)ヲ以テ、海軍艦船艇其他官廳所屬船ニ乗組ミタル履歴書(ロ)ハ、當該官廳若クハ艦艇ノ辞令書若クハ証明書ヲ以テ、又學校若クハ工場ニ在リタル履歴書(ハ)ハ、當該學校若クハ工場ノ卒業証書若クハ證明書ヲ以テ証明スヘシ、

二、身分書及其ノ證明

身分書ニハ左ノ事項ヲ記載シ、本籍市區町村長(但シ外國人ハ本國領事)ノ証明

ヲ受クヘシ、

- 一、本籍地、身分及氏名
- 二、出生年月日
- 三、公權別奪又ハ家資分散若クハ破産ノ處分ヲ受ケサルコト

三、海技免狀ヲ受有スル者ハ其ノ謄本

第五 海員試験

(一) 試験ノ種別

海員試験ハ体格検査ト學術試験ノ二ニ別チ、体格検査ニ合格シタル者ニ非サレハ學術試験ヲ受クルコトヲ得ス(但シ体格検査ニ合格シ學術試験ニ合格セサル者カ三ヶ月以内ニ再ヒ試験ヲ受ケントスルトキハ試験官ノ見込ニ依リ体格検査ヲ省却スルコトアル)、又學術試験ヲ別テ筆記、口述ノ二ト爲シ(但シ乙種二等運轉士、丙種運轉士及三等機關士ノ試験ニハ筆記試験ヲ行ハス)筆記試験ニ合格シタル者ニ非サレハ、口述試験ヲ受クルコトヲ得サルモノトス、而シテ受験人首尾克ク以上ノ試験ニ合格シタルトキハ、其ノ試験ヲ行ヒタル海事局ノ署名捺印アル合格證書ヲ附與スヘシ、

(二) 試験科目

○甲種船長試験

(甲種一等運轉士試験及甲種二等運轉士試験ノ科目ヲ合セ)

筆記

- 一、星象高度ニ據リ緯度ヲ知ル算法
- 二、太陰子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ル算法
- 三、經度及太陽高度ニ據リ時辰儀ノ違差ヲ知ル算法
- 四、「ナビール」百差表調製及用法

口述

- 一、羅針違差ノ解明
- 二、原基羅針据附及矯正ノ方法
- 三、船難ニ際シ人命及船舶ヲ救護スル方法
- 四、颶風ノ解明及避難法
- 五、船舶及船長海員ニ關スル法規ノ要領
- 六、前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

○甲種一等運轉士試験

(甲種二等運轉士試験科目ヲ合セ)

筆記

- 一、太陽方位角ニ據リ羅針ノ違差ヲ知ル算法
- 二、子午線ニ近キ太陽高度ニ據リ緯度ヲ算法
- 三、「サムナー」法ニ據リ船舶所在ノ位置及太陽ノ方位角ヲ知ル算法

四、潮時ノ算法

口述

- 一、六分儀ノ矯正用法及時辰儀ノ取扱
- 二、下橋建設其他圓材ノ取扱
- 三、錨ヲ運送投下シ又ハ之ヲ引揚ケル方法
- 四、船舶荒天運用ノ方法
- 五、航海中不慮ノ事變ニ會シ之ニ應スル處置
- 六、汽船ノ暗車作用
- 七、前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

○甲種二等運轉士試驗

筆記

- 一、航海運用ニ關スル用語ノ解明
- 二、航海日誌ノ記載
- 三、分數及比例算法
- 四、航海日誌ノ算法
- 五、緯線航行算法
- 六、「マーケートル」法又ハ中分緯度法ニ據リ經緯度若クハ針路航程ヲ知ル算法
- 七、太陽子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ル算法
- 八、太陽出沒方位ニ據リ羅針ノ遠差ヲ知ル算法
- 九、時辰儀及太陽高度ニ據リ經度ヲ知ル算法

- 十、羅針自差ノ算法
- 十一、海圖ノ應用

口述

- 一、船具ノ取附及取脱
- 二、桅樁及帆架ノ揚降
- 三、帆ノ取扱
- 四、船舶常時運轉及碇泊ノ方法
- 五、測程具及測深具ノ解明並用法
- 六、貨物積載法
- 七、海上衝突豫防法
- 八、萬國信號法
- 九、羅針自差ノ測定方法
- 十、前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

○乙種船長試驗

(乙種一等運轉士試驗及乙種二等運轉士試驗ノ科目ヲ合セ)

- 一、太陽子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ル算法
 - 二、太陽ノ出沒方位又ハ方位角ニ據リ羅針ノ遠差ヲ知ル算法
 - 三、時辰儀及太陽高度ニ據リ經度ヲ知リ又ハ太陽高度及經度ニ據リ時辰儀ノ遠差ヲ知ル算法
- 口述
- 一、六分儀ノ矯正、用法及時辰儀ノ取扱

- 二、羅針遠差ノ解明
- 三、汽船ノ暗車作用
- 四、汽船荒天運用方法
- 五、錨ヲ運送投下シ又ハ之ヲ引揚クル方法
- 六、航海中不慮ノ事變ニ會シ之ニ應スル處置
- 七、船難ニ際シ人命及船舶ヲ救護スル方法
- 八、船舶及船長海員ニ關スル法規ノ要領
- 九、前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

○乙種一等運轉士試験

(乙種二等運轉士試験ノ科目ヲ合セ)

- 一、航海日誌ノ記載
 - 二、加減乗除應用算法
 - 三、航海日誌ノ算法
 - 四、羅針自差ノ算法
 - 五、海圖ノ應用
- 口述
- 一、帆ノ取扱
 - 二、海上衝突豫防法
 - 三、萬國信號法
 - 四、羅針自差ノ測定方法

五、前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

○乙種二等運轉士試験

- 一、羅針儀ノ解明及用法
- 二、測程具、測深具ノ解明及用法
- 三、汽船運轉及碇泊ノ方法
- 四、汽船衝突豫防ノ方法
- 五、船舶信號法ノ大要
- 六、前數項ノ外本分ノ職務ニ關シテ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

○丙種船長試験

(丙種運轉士試験ノ科目ヲ合セ)

筆記

- 一、航海日誌ノ算法
- 二、太陽子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ル算法
- 三、太陽ノ出沒方位又ハ方位角ニ據リ羅針ノ遠差ヲ知ル算法
- 四、時辰儀及太陽高度ニ據リ經度ヲ知り又ハ太陽高度及經度ニ據リ時辰儀ノ遠差ヲ知ル算法
- 五、羅針自差ノ算法

口述

- 一、六分儀ノ矯正用法及時辰儀ノ取扱
- 二、羅針遠差ノ解明及測定方法
- 三、汽船荒天運用ノ方法

- 四、錨ヲ運送投下シ又ハ之ヲ引揚ケル方法
- 五、航海中不慮ノ事變ニ會シ之ニ應スル處置
- 六、船難ニ際シ人命及船舶ヲ救護スル方法
- 七、船舶及船長海員ニ關スル法規ノ要領
- 八、前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

○丙種運轉士試驗

口述

- 一、羅針儀ノ解明及用法
- 二、海圖ノ應用
- 三、測程具、測深具ノ解明及用法
- 四、帆ノ取扱
- 五、帆船運轉及碇泊ノ方法
- 六、海上衝突豫防法
- 七、船舶信號法ノ大要

- 八、前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

○機關長試驗

筆記

- 一、汽機強力、汽罐強力、螺旋螺距、煙突溫度、蒸氣膨脹、蒸氣切斷、水壓力、開平式、汽力圖等ニ關スル算法
- 二、汽機汽罐局部ノ製圖

口述

- 一、熱及汽機汽罐ニ於ケル熱ノ効力及害
- 二、汽機汽罐各部ニ要スル諸強力ノ解明
- 三、汽機汽罐材料ノ解明
- 四、汽機各部ノ摩擦力及實馬力ト推進力トノ關係
- 五、蒸氣及其ノ膨脹力使用ニ基キ各種汽機比較ノ大要
- 六、汽力器及汽力圖ノ解明
- 七、汽機汽罐ノ要部及炭量水量等ノ割合
- 八、前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

○一等機關士試驗

筆記

- 一、重量、炭費、觸火面、速力、槓杆、安全瓣、唧筒、馬力等ニ關スル算法

口述

- 一、汽機汽罐各部組成ノ理解
- 二、各種ノ汽機汽罐構造及利害ノ解明
- 三、汽機各部ノ働力方向ノ解明
- 四、各種ノ滑辨、働辨機及推進器ノ解明
- 五、車軸、螺旋軸、滑辨等ノ裝置及其ノ位置ノ改正
- 六、馬力ノ解明

- 七、汽機汽鐘ニ關スル諸器製造ノ理解
- 八、前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

○二等機關士試験

(三等機關士試験ノ科目ヲ合セ)

筆記

- 一、機關室日誌ノ記載
- 二、分數、比例及面體求積ノ算法

口述

- 一、汽機汽鐘組成ノ大要
- 二、汽機ノ毀損シ易キ部分及之ニ對スル注意
- 三、汽鐘ニ腐蝕燒損其他毀損ヲ來タスノ原因及其ノ豫防方法
- 四、運轉中汽機汽鐘ニ要スル注意
- 五、前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

○三等機關士試験

口述

- 一、汽機汽鐘検査ノ方法
- 二、汽機汽鐘各部ノ効用
- 三、汽機汽鐘ニ關スル諸器ノ効用及用法
- 四、汽機汽鐘ノ取扱及運轉方法
- 五、汽機汽鐘ノ損所ヲ修繕スル方法

- 六、運轉中汽機汽鐘ニ不慮ノ危害ヲ生シタルトキノ處置
- 七、前數項ノ外本分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

(三) 試験手数料

受験人ノ体格検査ニハ二十錢ノ手数料ヲ、學術試験ニハ其ノ試験ノ種類ニ從ヒ左ノ手数料ヲ豫納スヘキモノニシテ、一タヒ納メタル上ハ一切返附セサルノ規則ナリ、

甲種船長	五圓
甲種一等運轉士	三圓
甲種二等運轉士	二圓
乙種船長	三圓
乙種一等運轉士	二圓
乙種二等運轉士	一圓
丙種船長	三圓
丙種運轉士	一圓
機關長	五圓
一等機關士	三圓
二等機關士	二圓
三等機關士	一圓

(四) 試験ノ停止

第九章 海員ノ資格

身体虚弱ナル者若クハ再三同種ノ試験ニ落第シタル者ハ、其後一定ノ期間受験資格ヲ停止セラル、ハ固ヨリ止ムヲ得サル所ナリ、即チ左ノ如シ、

- 一、体格検査ニ合格セサル者ハ、受験ノ日ヨリ三ヶ月ヲ経過スルニ非サレハ再ヒ試験ヲ受クルコトヲ得ス、
- 二、同種免狀ニ對スル筆記試験ニ合格セサルコト若クハ筆記試験成立セサルコト、三ヶ月間ニ二回ニ及ビタル者ハ、最後受験ノ日ヨリ三ヶ月間ヲ経過セサレハ、下等免狀ニ對スルノ外、再ヒ試験ヲ受クルコトヲ得ス、
- 三、同種ノ免狀ニ對スル口述試験ニ合格セサルコト若クハ口述試験成立セサルコト二回ニ及ビタル者ハ、最後受験ノ後更ニ三ヶ月間實地運航ニ從事シタル履歴ヲ有セサレハ、下等免狀ニ對スルノ外再ヒ試験ヲ受クルコトヲ得ス、

第六 海技免狀ノ授與等

(一) 免狀ヲ受有スヘキ資格

海技免狀ハ遞信大臣ヨリ授與セラル、モノニシテ、之ヲ受クヘキ資格ヲ有スル者ニ様アリ、即チ左ノ如シ、

- 一、成規ノ海員試験ニ合格シタル者
- 二、海軍艦船艇ニ乗組ミ運航若クハ機關運轉ニ從事シタル者(イ)、又ハ商船學校全

科卒業證書ヲ有スル者(ロ)、ニシテ遞信大臣ニ於テ海員試験規程ニ合格スト認メタル者

(二) 免狀ノ申請

右第一號ニ該當スル者海員免狀ヲ受クルニハ、規定ノ海員名簿登録申請書(海員免狀ノ種類(一)、當人ノ氏名(二)、本籍地及族籍(三)、出生年月日(四)、試験ヲ受ケタル海事局(五)、試験合格年月日(六)、ヲ記入スルモノ)ヲ最初試験ヲ受ケタル海事局ヲ經テ遞信省ニ差出シ登録ヲ申請スヘシ、又第二號ニ該當スル者免狀ヲ受クルニハ、先ツ海員試験ヲ施行スル海事局ノ内、其一ヲ撰テ体格検査ヲ申請シ、該申請書ニ添フルニ海軍出身者ニ於テハ履歷書及身分書(但シ履歷書及身分書ノ証明ハ第九(章)第四(條)受験申請ノ場合ニ同シ)ト最後任官ノ辭令書ノ寫トヲ以テシ、商船學校卒業者ニ於テハ同ク履歷書及身分書(同上)ト其ノ卒業證書ノ寫トヲ以テシ、臆テ体格検査ヲ受ケ之ニ合格シタル者ハ、前示第一號ノ場合ト同様ノ書式ナル海員名簿登録申請書ヲ、最初体格検査ヲ受ケタル海事局ヲ經テ遞信省ニ差出シ登録ヲ申請スヘシ、

(三) 免狀ノ授與、書式、保管等

遞信省ニ於テハ前項ノ如キ登録申請書ヲ受ケ愈、正當ト認ムレハ、先ツ海技免狀ノ種類(一)、當人ノ氏名(二)、本籍地及族籍(三)、出生年月日(四)、海員試験又ハ体格検査ヲ行ヒタル管海官廳(五)、合格年月日(六)ノ六項ヲ、管船局備付ノ海員名簿ニ登録シ、左ノ書式ナル海技免狀ヲ授與スヘシ、

割印

第 號

道府縣華士族平民(外國人ニ在リテハ國籍)

氏 名

出生ノ年月日

明治 年 月 日登録

(免狀種類) 免狀

備考

- 一、海技免狀ノ寸法ハ堅九寸横一尺二寸トス
- 一、甲種船長、甲種一等運轉士、甲種二等運轉士、機關長及一等機關士ノ免狀ハ其ノ裏面ニ英譯文ヲ附ス
- 一、前項ニ掲ケル免狀ノ紋章ハ菊章トシ其他ノ免狀ノ紋章ハ桐章トス

紋章

明治二十九年法律第六十八號

船舶職員法ニ依リ授與ス

明治 年 月 日

遞信大臣爵氏名印

斯ノ如クシテ海技免狀ヲ授與セラレタル後ハ、其ノ乘船執職中常ニ該免狀ヲ手許ニ保管シテ必要ノ際直ニ開示スルノ用意ナカルヘカラス、若シ免狀受有者カ氏名、本籍地、族籍ヲ變更スルカ又ハ免狀ヲ滅失、毀損シタルトキハ、成規ノ手續ニ依リ十日以

内ニ遞信省ニ向テ變更登録又ハ再授ヲ夫々申請スヘシ、又當人カ公權剝奪、家資分散等ノ處分ヲ受クルカ(一)、癡疾若クハ身体不具ノ爲メ執職ニ不適當ナルカ(二)、免狀行使ノ禁止ヲ言渡サレ其ノ裁決確定スルカ(三)、若クハ廢業、失踪、死亡シタルトキ(四)、等ノ場合ニハ均ク十日以内ニ其ノ事由書ヲ遞信省ニ差出シテ抹消ノ登録ヲ申請シ同時ニ免狀ヲ返還ノ手續ヲ爲サ、ルヘカラス、海員カ現在ヨリ上級ノ試験ニ合格シ高等免狀ヲ授與セラ、ルトキハ、之ト引換ニ在來ノ下等免狀ヲ返還スヘキコト亦同シ、其他登録若クハ免狀ノ記載事項ニ錯誤、遺漏ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ、勿論遲滞ナク訂正方ヲ遞信省ニ申請スルコトヲ要ス、而シテ以上ノ各場合ニ申請書ヲ遞信省ニ差出スニハ、先ツ最寄ノ管海官廳ヲ經由スヘキコトヲ忘ルヘカラス、

(四)海員ノ登録稅等

前文ノ如ク海員カ海技免狀ヲ授與セラル、ニハ、先ツ成規ノ登録ヲ要スルモノニシテ、又登録變更ヲ申請スルトキニモ一定ノ登録稅ヲ納メサルヘカラス、即チ是等ノ登録稅并ニ海技免狀ニ關スル手数料ヲ示セハ左ノ如シ、

一、新規登録ノトキ	
甲種船長	十五圓
甲種一等運轉士	十圓
甲種二等運轉士	六圓
乙種船長	十圓
乙種一等運轉士	四圓
乙種二等運轉士	三圓
丙種船長	六圓
丙種運轉士	二圓
機關長	十五圓
一等機關士	十圓
二等機關士	六圓
三等機關士	三圓
二、登録事項變更ノトキ 一件ニ付五拾錢	
三、海技免狀ニ關スル手数料	
(イ)海軍出身者又ハ商船學校卒業者カ免狀ヲ受ケンカ爲メ体格検査ヲ申請スルトキ	貳拾錢
(ロ)免狀受有者ノ過失ニ出テタル免狀記載事項ノ錯誤、遺漏ニ付テ訂正ヲ申請スルトキ	壹圓
(ハ)免狀ノ再授ヲ申請スルトキ	壹圓
(ニ)行政區劃ノ變更アリタル爲メ免狀ノ書換ヲ申請スルトキ	壹圓

第七 海員昇進ノ順序

甲板部タルト機關部タルトヲ問ハス、新ニ海員試験ヲ受ケテ帝國海員タラント欲スル者ハ、先ツ最下級ノ運轉士又ハ機關士(甲種二等運轉士、乙種二等運轉士、丙種運轉士又ハ三等機關士ノ如シ)ノ免狀ヲ受ケ、乗船ノ上相當ノ職務ヲ執リ前文ニ示セル受験履歷(第九章第二)ヲ具備スルニ及ヒ更ニ直接上級ノ試験ヲ受ケ、順次昇進シテ船長又ハ機關長ノ免狀ヲ得又其ノ榮職ニモ就クコトヲ得ヘキモノニシテ、如何ニ秀逸ノ智能技倆ヲ有スルニセヨ、一躍以テ高級ノ試験ヲ受クルコトヲ許サス、是レ海員職責ノ重大ナルニ依リ試験ノミニ重キヲ措カステ其ノ實地執職ノ履歷ヲ重要視スル所以ナリト謂フヘシ、

又商船學校卒業生ニ在リテハ、學術實習俱ニ相當ノ海員タルヘキ資格ヲ備フル故ヲ以テ、航海科卒業生ハ當初甲種二等運轉士免狀ヲ、機關科卒業生ハ一等機關士免狀ヲ授與セラレ、船主ノ雇備ニ應ジ船員トシテ相當ノ職務(船舶ノ大小ニ依リ甲板部ニ於テハ四等乃至二等運轉士、機關部ニ於テハ三等乃至一等機關士トス)ニ従事シ、前示受験履歷ニ記載セル甲種一等運轉士又ハ機關長ノ試験ヲ受クヘキ履歷ヲ具備スルニ至レハ、單ニ体格検査ヲ受クルノミニシテ、夫々一等運轉士又ハ機關長ノ免狀ヲ授與セラルヘシ、故ニ學校卒業後比較的小ナル船舶ニ乗組ミ上級ノ職務ヲ執リ、早

ク受験履歷ヲ具備スルニ至ル者ハ、從テ進級ノ途迅速ナルノ利益アルカ如クナレトモ、航海者ニ最モ尙フヘキ實驗ノ量尠ナキノ欲點ヲ免ルヘカラサルヲ以テ、終局ノ結果ヨリ觀察ヲ下セハ、其ノ利害得失果シテ何レニ在ルヤ、未タ俄ニ判斷スヘカラアルナリ、

次ニ海軍出身ノ海員ニ付テハ如何ナル免狀ヲ授與スヘキヤト云フニ、我國ニハ未タ公ケノ規定ナシト雖モ、遞信省ノ内規ナルモノヲ聞クニ、大尉又ハ中尉ニシテ海上勤務三年以上ノ者ニハ甲種船長免狀ヲ、同二年以上ノ者ニハ甲種一等運轉士免狀ヲ、少尉ニシテ海上勤務一年以上ノ者ニハ甲種二等運轉士免狀ヲ授與シ、又大機關士又ハ中機關士ニシテ海上勤務二年以上ノ者ニハ機關長免狀ヲ、少機關士ニシテ同一年以上ノ者ニハ一等機關士ノ免狀ヲ授與スヘシト云フ、然ルニ英國ニ於テハ、海軍大尉又ハ少尉ニハ試験ヲ行ハスニ外國航船々長ノ適任免狀ヲ授與シ、又海軍大機關士ニハ同ク試験ヲ行ハスシテ一等機關士(我カ機關長)、少機關士ニハ二等機關士(我カ一等機關士)ノ適任免狀ヲ授與スト云フ、

第八 外國海員ノ資格

外國人ニ海技免狀ヲ授與シ船員トシテ自國ノ商船ニ乗組マシムルノ自由ヲ與フルハ各國同様ノ習慣ニシテ、唯海員資格ヲ作ルニ必要ナル右海技免狀ヲ授與スルニ於テ寬嚴ノ別アルノミ、英國ノ如キハ、外國人ニシテ成規ノ海員試験ニ合格シ、試験官ニ於テ船内ノ職務ヲ執行スルニ差支ナキ程英語ヲ話シ英文ヲ書スルモノト認ムルトキハ、海技免狀ヲ授與スルノ規則ナレトモ、我國ニ在リテハ、別ニ日本語ニ通スルニ及ハス、前文ニ示セル受験履歴ヲ有スル外國人ナラハ、本邦人ト均ク履歴相當ノ試験ヲ受ケ、合格ノ上海技免狀ヲ授與セラル、ニ至ラハ、船主ノ雇傭ニ應ジテ日本船舶ニ乗組ミ運航又ハ機關運轉ノ職ニ從事スルコトヲ得ルナリ、英國ニ於テハ、輒近外國海員ノ漸次増加スルノ事實ヲ目シテ國ヲ危クスルノ本ナリト説ク者アリ、外國海員ヲ雇傭スルトキハ若シ其ノ邦國ト戰端ヲ開クノ曉ニ及ヘハ、彼等ハ本國ニ欸心ヲ通シ其ノ乗組ム船舶ヲ捕獲シ敵港ニ遁走スル等ノ憂アルヘシト論スル者甚ナカラスト雖モ、英國ノ船主カ近來益々外國海員ヲ雇入ル、ノ傾向アルハ、其ノ原因技能ノ優劣ニ在ラスシテ主トシテ給料ノ高低ニ在ルコトナレハ、我國ノ如ク未タ良海員ニ乏シク大ニ先進者ニ學フヘキ所多キ國柄トハ事情全ク

異ナリ、而シテ今日優良ノ外國海員ハ、遠ク東洋ノ端ニ來リ試験ヲ受クルヲ厭フノ風アリト云ヘハ、我カ當局者ハ一時ノ政畧トシテ試験ヲ寬ニシ、有爲有力ノ海員ヲ招致シテ本邦海員ノ爲メ實地就學ニ便ナラシムルコト却テ時宜ニ適スルモノナラン歟、今日ノ有様ヲ以テセハ、我カ歐米濠大航路ヲ往復スル大船巨舶ノ如キ、其ノ操縦ヲ全然内國人ノ手ニ委任スルハ前途尙ホ遠キコトナレハ、可成優良ノ海員ヲ聘シテ早ク航路ノ基礎ヲ固クスルニ努ムルト共ニ、後進ノ本邦海員ヲシテ良師ニ就キ技能ヲ啓發セシメ、以テ航海獨立ノ機運ヲ早ムルハ豈ニ亦最モ望マシキ所ナラスヤ、

第十章 水先人ノ資格

第一 水先人タルヘキ條件

我國ニ於テ水先人トシテ法定ノ資格ヲ得ントスル者ハ、客年三月發布セラレタル水先法ニ依リ成規ノ試験ニ合格シタル水先免狀ヲ受有セサルヘカラス、而シテ水先免狀ヲ得ルニハ左ノ三條件ヲ具備スル者ナラサルヘカラス、

- 一、帝國臣民ナルコト
- 二、遞信大臣ノ定ムル成規ノ試験ニ合格スルコト
- 三、水先人名簿ニ登録セラレタルコト

右第一號ノ如ク水先人ハ帝國臣民ニ限ル原則テレトモ、我國ニ在リテハ從來外國人ノ水先營業ヲ許可シ免狀ヲ授與シタル者尠ナカラサルノミナラス、尙ホ當分此ノ慣例ヲ持續スルノ必要ヲ認メタルモノト見ヘ、一ノ除外例ヲ設ケテ、水先法ノ施行後五ヶ年ヲ限リ外國人ト雖モ均ク水先免狀ヲ受有シ得ヘキモノト爲シ、而モ斯テ得タル免狀ハ五ヶ年

後ト雖モ有効ナルヘキ旨ヲ定メタリ、又從來ノ免許水先人ハ、年齢滿六十歳ヲ超ユルカ若クハ公權剝奪、家資分散等ノ身分ニ陥リタル者ニ非サレハ、此際別ニ試験ヲ要セス、新法ニ依テ相當ノ水先區ニ對スル水先免狀ト交換スルコトヲ得ヘシ、

第二 受験履歷

水先人ノ試験ヲ受クルニモ、海員試験ノ場合ト均ク一定ノ履歷ヲ具備セサルヲ得ス、即チ滿二十歳以上滿六十歳以下ニシテ、左ニ掲クル履歷ノ一ヲ有スルコト必要ナリ、

- 一、一年以上總噸數五百噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ、船長ノ職ヲ執リタルコト、
- 一、六ヶ月以上總噸數五百噸以上ノ航洋船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リ、且ツ六ヶ月以上試験ノ目的タル水先區ニ於テ水先修業生ト爲リ實務ヲ練習シタルコト、

第三 試験ノ場所、期日并ニ受験申請手續

遞信大臣ハ水先人ノ試験期日ヨリ三十日前ニ、試験ヲ行フヘキ場所(管海官廳ノ名稱)、期日及水先區ノ名稱ヲ官報ニ告示スルモノニシテ、其ノ試験ヲ受ケント欲スル者ハ、右試験期日ノ七日前(休暇ヲ除ク)迄ニ、受験申請書ニ左ノ書類ヲ添ヘテ試験ヲ行フヘキ管海官廳ニ差出スヘシ、

- 一、履歷書及其ノ證明

商船ニ乗組ミタル履歷書(イ)、船員手帖又ハ之ニ準スヘキ證明書ニテ證明シ、海軍艦船其他官廳所屬船ニ乗組ミタル履歷書(ロ)、當該官廳又ハ艦船ノ辭令書又ハ證明書ニテ證明シ、又水先修業生タリシ履歷書(ハ)、當該水先人及船長ノ證明書ニテ證明スヘシ、

二、身分書及其ノ證明

身分書ニハ左ノ事項ヲ記シ、第一號乃至第三號ハ戶籍吏、第四號ハ本籍市町村長ノ證明ヲ受クヘシ(但シ外國人ハ四號共本國領事ノ證明ヲ要ス)、

一、氏名

二、本籍地

三、出生年月日

四、公權剝奪又ハ家資分散若クハ破産ノ處分ヲ受ケタルコト

第四 試驗

(一) 試驗ノ種別

海員試驗ト均シク体格検査ト學術試験トノ二ニ別チ、体格検査ニ合格セサレハ學術

試験ヲ受クルヲ得ス、學術試験ハ試験官吏ノ見込ニテ筆記又ハ口述トシ、兩者ヲ併セ行フ場合ニハ、筆記試験ニ合格セサレハ口述試験ヲ受クルヲ得サルモノトス、

(二) 試験科目

一、航路標識、潮流、地勢、水路港灣、錨地及危險物ノ説明

二、船舶ノ嚮導及運航方法

三、羅針遠差ノ檢定方法

四、船舶衝突ノ豫防、水路港灣ノ取締其他水先人本分ノ職務ニ關スル法規

(三) 試験手数料

体格検査ニハ五十錢、學術試験ニハ水先區一區ニ付七圓ノ手数料ヲ豫納セサルヘカラス、

第五 水先免狀ノ授與等

(一) 免狀ノ申請、授與、書式、保管等

水先人成規ノ試験ニ合格シタルトキハ、水先區、本籍地、出生年月日及合格年月日

ヲ記セル書面ヲ、試験ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經テ遞信省ニ差出スヘシ、左スレハ同省ニ於テハ審査ノ上先ツ水先區(一)、氏名(二)、本籍地(三)、出生年月日(四)、試験ヲ行ヒタル管海官廳(五)、合格年月日(六)ノ六項ヲ、管船局備付ノ水先人名簿ニ登錄シ、左ノ書式ノ水先免狀ヲ授與スヘシ、



第 號

氏 名

出生ノ年月日

明治 年 月 日 登錄

(水先區ノ名稱)水先區水先免狀

明治三十二年法律第六十

三號水先法ニ依リ之ヲ授

與ス

明治 年 月 日

遞信大臣爵氏名印

水先人カ職務ニ從事スル間ハ、其ノ免狀ヲ携帶スヘキコト勿論ニシテ、必要ノ際ハ之ヲ開示セサルヘカラス、若シ其ノ氏名又ハ本籍地ニ變更ヲ生シタルトキハ、十日以内ニ變更ノ登錄ヲ請ヒ、水先人カ日本ノ國籍ヲ失フカ(一)、滿六十歳ニ達スルカ(二)、公權剝奪、家資分散等ノ處分ヲ受クルカ(三)、廢業、失踪、死亡シタルトキ(四)等ノ如キハ

同夕十日以内ニ抹消ノ登録ヲ請ヒ、又免狀ヲ滅失若クハ毀損シタルトキハ、七日以内ニ再授ヲ請フヘシ、而シテ是等ノ申請書ハ夫々成規ノ手續ニ依リ、水先人ノ住所ヲ管轄スル管海官廳ヲ經テ遞信省ニ差出スヘキモノトス、

(二) 水先人ノ登録稅等

- 一、新規登録ノトキ 二十圓
- 二、登録事項變更ノトキ 一件ニ付 五十錢
- 三、免狀ノ再授ヲ申請スルトキ 手数料 一圓

第六 水先法令書

水先法令書(遞信省ノ捺印アリ)トハ、水先人及水先事務ニ關スル法令ヲ蒐録シタルモノニシテ、水先免狀ト共ニ遞信省ヨリ之ヲ交付スヘシ、此ノ文書ハ水先人執務中免狀ト同ク常ニ携帯シ、官吏又ハ船長ノ要求アレハ開示セサルヘカラス、其他滅失毀損シタルトキノ始末等ハ一ニ水先免狀ノ場合ニ均シ、

第七 船長又ハ運轉士ニ水先免狀ヲ授與スルコト

英國ニ於テハ現ニ船舶ノ船長又ハ運轉士タル者ニモ水先人免狀ヲ授與シ、指定ノ水先

區ニ於テ其ノ船舶ヲ運航スルト共ニ、水路嚮導ノ職ヲ行フコトヲ許セリ、是レ爾餘ノ海國ニ於テモ行ハル、便宜法ニシテ、近ク南清海岸ヲ通航スル船舶ノ如キモ現ニ此例ニ倣フモノ多シト云フ、

茲ニ英法ノ一斑ヲ摘記センニ、某船ニ乗組ミ居ル船長又ハ運轉士ニシテ、一定ノ試験手数料ヲ納メ、成規ノ水先試験ニ合格シタルトキハ、茲ニ水先免狀(當人ノ氏名、其ノ乗組ミ嚮導スヘキ船舶、水先區及水先免狀授與ノ年月日ヲ記載ス)ヲ授與セラレ、指定ノ水先區ニ於テハ該船長又ハ運轉士ノ乗組ミ居タル船舶、若クハ同船主ノ所有ニ係ル他ノ船舶ニ付キ、其ノ船長又ハ運轉士トシテ職務ヲ執ルト共ニ、他ニ免許水先人ヲ雇傭セシテ自ラ水路ヲ嚮導スルコトヲ得ヘシ、右水先免狀ノ有効期間ハ授與ノ日附ヨリ僅ニ一ケ年ナレトモ、之ニ當局者ノ裏書ヲ得テ年々更新スルコトヲ得、而シテ不行跡又ハ不適任ノ廉アルトキハ直ニ免狀ヲ沒収セラルヘキコト勿論ナリ、

第十一章 船員及其ノ職掌

第一 船員ノ名稱

船員即チ船舶乗組員ハ、自然役員(上級海員)ト屬員(下級海員)ノ二種ニ分レ、其ノ名稱ハ船舶ニ依リ一様ナラスト雖モ大約左ノ如シ、

(甲) 役員 (Officers)

- 一、船長 (Commander or Master)
- 二、一等運轉士 (1st or Chief Officer) 二等運轉士 (2nd Officer) 三等運轉士 (3rd Officer)
- 三、機關長 (Chief Engineer) 一等機關士 (1st Engineer) 二等機關士 (2nd Engineer) 三等機關士 (3rd Engineer)
- 四、事務長 (Purser) 事務員 (Freight Clerk)
- 五、船醫 (Doctor or Surgeon)

(乙) 屬員 (Crew)

- 一、水夫長 (Boatsman) 大工 (Carpenter) 舵取 (Quater-Master) 甲板庫番 (Deck-Store-Keeper) 點燈方 (Lampman) 水夫 (Sailor)
- 一、火夫長 (No. 1 Oiler) 油差 (Oiler) 機關庫番 (Engine-Store-Keeper) 小汽鑪番 (Donk-y-man) 火夫 (Fireman) 石炭夫 (Coal-Passer)
- 三、荷物方 (Tallyman)
- 四、司廚長 (Chief Steward) 司廚 (Steward) 料理人 (Cook) 給仕 (Waiter) 給仕女 (Stewardess) 洗濯人 (Washerwoman) 理髮人 (Barber)
- 五、看護方 (Nurse)

以上ノ外見習又ハ修業生ヲ乗組マシムルコトアリ

第二 乗組定員 (Ship's Company)

船舶ハ常ニ定數ノ乗組員ヲ充備スルノ必要アルモノニシテ之ヲ乗組定員ト稱ス、此ノ定員ハ船舶ノ大小、用途ノ種類(旅客用又ハ貨物用ノ如シ)、航路ノ遠近ニ應シ多少ヲ異ニスルコト當然

ニシテ、今日本郵船會社ノ船舶ニ付キ二三ノ例ヲ示セハ左ノ如シ、

職名	船種		船長	運轉士	機關長及機關士	事務長及事務員	船醫	水夫長及水夫	油差及火夫	荷物、給料
	客船	貨客兼用船								
旅日丸	二隻	外日	一人	四	五	二	一	二四	三〇	三三
西京丸	神戶丸	神戶丸	一人	三	四	三		二六	三一	二六
神奈川丸	外十一隻	日歐	一人	四	七	二		三二	四三	二二
肥後丸	和泉丸	伏木丸	一人	三	三	三		一七	一二	一八
和泉丸	三、三、三五	日本沿岸	一人	三	四	三		二二	二〇	一四
伏木丸	一、八〇〇	日米間	一人	三	三	三		二二	二〇	一四
肥後丸	一、四〇〇	神戶天津間	一人	三	三	三		二二	二〇	一四
外日	三、八〇〇	日歐	一人	三	四	二		二六	三一	二六
西京丸	二、九〇〇	日歐	一人	三	四	二		二六	三一	二六
神戶丸	二、九〇〇	日歐	一人	三	四	二		二六	三一	二六
旅日丸	三、八〇〇	日歐	一人	四	五	二		二四	三〇	三三

第三 法定ノ船舶職員

船舶ハ船舶職員法ノ定ムル所ニ依リ、必ス成規ノ資格アル職員ヲ乗組マシムルヲ要ス、茲ニ船舶職員ト稱スルハ、船長ヲ始メ甲板部ニ於テハ一等運轉士及二等運轉士、機關部ニ於テハ機關長及一等機關士ヲ謂ヒ、固ヨリ海技免狀ヲ有スル者ニ非サレハ是等ノ職員ト爲ルコトヲ得ス、而シテ職員ノ免狀資格及定員ニ付テハ、船舶ノ種類、噸數、航路定限等ニ依リ相異ナルモノニシテ之ヲ表示スレハ左ノ如シ、

航路定限船舶種類		噸數	職員名稱	免狀種類	定員
遠洋	汽船				
三百噸以上	三百噸未滿	登簿噸數	船長 一等運轉士 二等運轉士	甲種一等船長 甲種二等船長 乙種船長	一 一 一
三百噸以上	三百噸未滿	噸數	船長 一等運轉士 二等運轉士	甲種一等船長 甲種二等船長 乙種船長	一 一 一

總計	一〇〇	九四	一二二	五七	六八	五六
----	-----	----	-----	----	----	----

近海航船						船	
帆船			汽船			帆船	
五百噸以上	二千石以上	十五噸以上 百石以上 二百噸未滿	五百噸以上	五百噸未滿	百噸未滿	三百噸以上	三百噸未滿
二船等 等運轉 士長	一船等 等運轉 士長	船等 等運轉 士長	一機二船 等運轉 士長	一機一船 等運轉 士長	機船等 等運轉 士長	二船等 等運轉 士長	一船等 等運轉 士長
甲種二 等運轉 士長	甲種一 等運轉 士長	丙種運 轉士長	一機甲 等運轉 士長	甲種一 等運轉 士長	甲種一 等運轉 士長	二種一 等運轉 士長	乙種一 等運轉 士長

第四 船務ノ區別

船内ノ業務ハ種々雜多ニシテ之ヲ枚擧スルニ遑アラスト雖モ、之ヲ大別シテ甲板部、機關部、事務部、衛生部ノ四部ニ區分シ、各部ノ主管スル業務ヲ列示スレハ大略左ノ如シ、

(一) 甲板部主管ノ業務

平水航船		沿海航船		
汽船		汽船		
百噸以上	百噸未滿	二百噸以上	二百噸未滿	百噸未滿
機船關 長	機船關 長	一機一船 等運轉 士長	機船關 長	機船關 長
乙種二 等運轉 士長	乙種二 等運轉 士長	二種一 等運轉 士長	乙種一 等運轉 士長	三種二 等運轉 士長

- 一、本船ノ操縦ニ關スル事
- 二、船体並ニ甲板部ノ屬具、備付品及消耗品ニ關スル事
- 三、郵便物及貨物ノ受渡、積付、運送ニ關スル事
- 四、旗章及信號ニ關スル事
- 五、海上氣象ニ關スル事
- 六、海圖水路誌ニ關スル事
- 七、航海日誌等ニ關スル事

(二) 機關部主管ノ業務

- 一、機關ノ運轉ニ關スル事
- 二、機關、燃料石炭、並ニ機關部ノ屬具、備付品及消耗品ニ關スル事
- 三、船内機械類ノ整頓保存ニ關スル事
- 四、機關室日誌等ニ關スル事

(三) 事務部主管ノ業務

- 一、旅客ニ關スル事
- 二、會計及帳簿ニ關スル事
- 三、貨物積卸ニ關スル書類調製ノ事
- 四、料理向ニ關スル事
- 五、贈品、旅客需用品、並ニ事務部ノ備付品及消耗品ニ關スル事
- 六、事務日誌等ニ關スル事
- 七、他ノ各部ニ屬セサル雜務

(四) 衛生部主管ノ業務

- 一、醫務及衛生ニ關スル事
- 二、衛生部ノ備付品及消耗品ニ關スル事
- 三、衛生日誌等ニ關スル事

第五 船員職務ノ分擔

(一) 船長

- 一、船長ハ船主ニ直屬シ、本船ノ運航ヲ掌リ、部下ノ海員ヲ指揮監督シ、船内ノ紀律ヲ維持シ、其他船務一切ヲ統理ス、
- 二、船長ハ航海ニ必要ナル諸準備ノ整否、并ニ本船及船内ニ在ル人命、財産ノ安否ニ付テ責ニ任ス、
- 三、船長ハ船内各部ノ取締、調和、并ニ海員ノ品行、技能ヲ監視スヘシ、
- 四、船長ハ重要書類ヲ整理、保存スルコト、并ニ官廳及船主ニ對スル通常又ハ臨時報告ヲ成規通り差出スコトニ注意スヘシ、
- 五、船長ハ少ナクモ毎日一回（大約午前十一時）船内各部ヲ巡視シ、甲板部ヲ巡視スルトキハ一等運轉士、機關部ノトキハ機關長、事務部ノトキハ事務長、衛生部ノトキハ船醫ヲ隨フヘシ、又每週一回（大約日曜日午前）乗組員一同ヲ甲板上ニ召集シ之ヲ點檢スルヲ要ス、
- 六、船長ハ碇泊中業務ニ差支ナキ限り、各部ノ役員及屬員夫々半數以下ヲ同時ニ上陸セシムルコトヲ得、但シ機關長ト一等機關士トヲ、又事務長ト首席事務員トヲ

同時ニ離船セシムルコトヲ得ス、而シテ船長ハ上陸ヲ許可シタル海員ノ歸船時刻ヲ指定シ、海員亦歸船シタルトキハ、其旨ヲ上役ヲ經テ船長ニ申出ツヘシ、

(參照)

彼阿汽船會社船則抄出

- 一、船長ハ本船ノ航海ニ必要ナル諸準備ノ整頓スルヤ否ヤヲ檢定スヘシ殊ニ石炭、食料品、飲用水、端艇、錨、錨鎖、消防用布管、羅針盤、時辰儀、航海用具、海圖等、并ニ海員雇入證書、船舶健全證書、其他必要書類ノ備付ニ付テ責任ヲ負フ
- 二、船長ハ本船ノ安全、航海ノ適否、船内ノ紀律、旅客ノ快樂、満足、貨物ノ受渡及之ニ關スル諸般ノ問題ニ付テ其實ニ任シ且ツ部下ノ運轉士、機關長、機關士等ハ夫々主管ノ職務ヲ有スルニセヨ船長ハ本船一切ノ業務取扱方并ニ各部役員カ適宜其ノ職務ヲ履行スルヤ否ヤニ付テ亦責任ヲ免ルヘカラサルモノトス
- 三、船長ハ又郵便物遞送契約ニ違反セサル様嚴重ニ注意シ郵便物ノ保管、引渡及郵便局ニ差出スヘキ報告ニ付テ責任ヲ負フモノトス

(二) 一等運轉士

- 一、一等運轉士ハ所謂「エキセキユチーヴ、オノイサー」ニシテ、船長ヲ補佐シ其ノ命令ヲ執行シ、船長不在ノトキハ其ノ職務ヲ代理ス、
- 二、一等運轉士ハ船長ノ命ヲ承ケテ甲板部ノ業務ヲ主管シ、一定ノ當直ヲ爲シ、貨物ノ受渡、積付、航海日誌ノ記入、保管等ニ付テ責ニ任ス、

(參照)

彼阿汽船會社船則抄出

- 一、一等運轉士ハ「ブリンシバル、エキセキエチーフ、オフィサー」トシテ船長ヲ補佐シ業務ノ命令通り執行セラル居ルヤ否ヤヲ監視シ且ツ船内ヲ整頓シ之ヲ清潔ニ保ツコトニ付テ責任ヲ負フ
- 二、一等運轉士ハ消防用布管、唧筒、滅水辨、端艇、帆、綱具、錨、錨鎖、「ラムプ」等ノ現状ニ注意シ其他甲板部各需用品ノ節約ヲ圖ルヘシ
- 三、一等運轉士ハ起重機ノ用意、其他貨物ノ受渡ニ必要ナル各種ノ準備方ヲ監視スヘシ
- 四、一等運轉士ハ水夫長及大工ノ仕事ヲ指揮シ時々彼等ノ擔當スル費用記入帳ヲ檢閲スヘシ

(三) 二等運轉士以下

- 一、二等運轉士以下ノ運轉士ハ船長及一等運轉士ノ命ヲ承ケ、甲板部ノ業務ヲ分擔スルモノニシテ、各一定ノ當直又ハ當直補助ヲ爲ス、而シテ其ノ業務ノ分擔方ハ、會社又ハ船舶ニ依リ異同アリ、左ニ日本郵船會社ノ船舶ニ行ハル、慣例ヲ示ス、
- 二、二等運轉士ハ航海士官トシテ航海用具ノ取扱保管、并ニ水深、速力、方位、距離、經緯度等ノ測量ニ付テ責任ニ任シ、又一等運轉士監督ノ下ニ、受持荷艙ニ屬スル貨物ノ受渡、積付ヲ擔當ス、

三、二等運轉士ハ船長監督ノ下ニ、郵便物ノ受渡、保管等ニ從事ス(但シ航海獎勵金ヲ命令航路ニ使用スル船舶ハ政府ノ命令ニ依リ船長又ハ一等運轉士自ラ郵便物ヲ取扱フ規則ナリ)

四、三等運轉士ハ一等運轉士ノ命ヲ承ケ、水夫長及水夫ヲ指揮シテ甲板ノ洗掃、綱具ノ取扱等、主トシテ甲部上ノ業務ニ從事シ、又荷役ヲモ分擔ス、

(參照)

彼阿汽船會社船則抄出

- 一、二等運轉士ハ船長ノ指揮監督ノ下ニ時辰儀、羅針盤、海圖、測深具、測程具ヲ保管スヘシ
- 二、二等運轉士ハ又貨物係士官トシテ貨物ノ受取、積付、引渡ニ付テ責任シ積荷目録其他貨物ニ係ル書類ノ記入ニ要スル材料ヲ事務長又ハ事務員ニ交付スヘシ
- 三、二等運轉士ハ荷物ヲ管理シ其ノ掃除及貨物ノ積入準備ニ付テ責任ス
- 四、三等運轉士ハ船長監督ノ下ニ郵便物ヲ取扱ヒ郵便室ノ掃除、用意、郵便行囊ノ勘定、積付等ヲ掌リ郵便室ヲ封鎖シタル後ハ其鍵ヲ船長ニ還付シ又着港ノ上郵便物ヲ陸揚スルニ方リ本船ノ端艇便ニ依ルトキハ自ラ該端艇ヲ指揮シ陸揚方ヲ監督シ郵便局ニ差出ス書類ニハ自ラ記入シ船長ノ檢印ヲ受クルモノトス
- 五、三等運轉士ハ又荷役ニモ加擔スルモノニシテ然ルトキハ二等運轉士ノ配下ニ屬シ前艙口ヲ受持ツモノトス
- 六、四等運轉士ハ手荷物ヲ取扱フモノニシテ航海中ハ一等運轉士ニ屬シ其ノ指圖ヲ受ケテ甲板ノ洗掃方及他ノ作業ヲ監督スヘシ
- 七、四等運轉士ハ水夫室ノ清潔、水夫夫ノ健康、船長ノ水夫夫點檢(日々)ニ對スル用意方ニ付テ責任ス

(四) 機關長

- 一、機關長ハ船長監督ノ下ニ機關部ノ業務ヲ主管シ、一定ノ當直ヲ爲シ、機關部員一同ヲ指揮監督ス、
- 二、機關長ハ大体ニ於テ一船ノ首領タル船長ノ指揮ヲ承クヘキコト勿論ナリト雖モ、其ノ主管スル機關部ノ業務ニ付テハ、大概自己ノ判斷ヲ以テ處理スルノ權能ヲ有シ、部内ノ整頓、部員ノ勤怠、機關室日誌ノ記入保管、石炭其他需用品ノ節約等ニ付テ責ニ任ス、

(參照)

彼阿汽船會社船則抄出

- 一、機關長ハ機關ノ運轉及機關部ノ整頓ニ付テ責ニ任シ常ニ船長ノ權能ト希望トナ敬重シテ其ノ命令ヲ服膺スヘシ
- 二、船長、機關長間ノ意思十分疏通スルコトハ船舶ノ運航上最モ必要トスル所ナリ故ニ機關長ハ毎日二回以上船長ト會シ天候、風候、石炭ノ經濟等ノ諸點ヨリ觀察シ最モ適當ト思料スル速力ヲ打合スヘシ

(五) 一等機關士以下

- 一、一等機關士以下ハ機關長ノ命ヲ承ケ、機關部ノ業務ヲ分擔スルモノニシテ、各一

定ノ當直又ハ當直補助ヲ爲ス、

(六) 事務長

- 一、事務長ハ船長ノ命ヲ承ケ事務部ノ業務ヲ主管シ、旅客ノ待遇、帳簿ノ整理、貨物ニ關スル書類ノ調製、食事等ニ付テ責ニ任ス、
- 二、事務長ハ一等運轉士外國人ナルトキハ、便宜上該運轉士ニ代リ貨物ノ受渡ヲ掌ルコト有リ、但シ積付ノ如キ技術ニ屬スル業務ハ此限ニ在ラス、

(參照)

彼阿汽船會社船則抄出

- 一、事務長ハ旅客ノ歡心ヲ得ルヲ旨トシ船室ノ備付、食事、接待方等ニ注意シ十分ノ快樂ト便利ヲ與フルコトヲ勉ムヘシ
- 二、事務長ハ事務部ニ關スル利益ヲ進メ若クハ困難ニ處スルノ方法ニ付テハ常ニ船長ニ協議シ其ノ助言ヲ受クルヲ要シ又甲板機關兩部ノ役員ト互ニ親密ノ關係ヲ保ツヘシ

(七) 事務員

- 一、事務員ハ事務長ノ命ヲ承ケ事務部ノ業務ヲ分擔シ、事務長ヲ置カサル船舶ニ於テハ、直接ニ船長ニ屬シ事務部ノ業務ヲ掌ルヘシ、

二、其他事務員ハ一等運轉士又ハ事務長ノ命ヲ承ケ、貨物ノ受渡ニ關スル事務ニ從事ス、

(八) 船醫

船醫ハ船長ノ命ヲ承ケ衛生部ノ業務ヲ主管シ、船内ノ醫務、衛生等ニ付テ責任ス、但シ特ニ船醫ヲ置カサル船舶ニ於テハ、船長自ラ此ノ事務ヲ掌ルノ例ナリ、

(參照)

彼阿汽船會社船則抄出

- 一、船醫ハ船舶健全證書及船舶交通許可証ニ關スル内外ノ法令ヲ暗知シ之ニ違反セサルコトニ注意シ出帆前ニハ健全證書ヲ受領シタルコトヲ、着港後ニハ交通許可証ヲ得タルコトヲ直ニ船長ニ報告スヘシ
- 二、船醫ハ海員雇入ノ際之ニ立會ヒ若シ不健全ノ者ト認ムルトキハ其ノ調印スル前之ヲ診察シ意見ヲ申出ツヘシ
- 三、船醫ハ又毎朝患者(旅客又ハ船員)ヲ診察シ正午病症日誌ヲ船長ニ差出シ同時ニ患者ノ容態ニ關スル必要ノ報告ヲ爲スヘシ

(九) 甲板部屬員

一、水夫長及水夫

水夫長及水夫ハ一定ノ當番ヲ爲シ、水夫長ハ船長又ハ當直運轉士ノ指揮ヲ承ケ、配

下ノ水夫ヲ督シテ夫々甲板上ノ役務ニ服セシム、

二、大工

大工ハ一等運轉士ノ指揮ヲ承ケ艙口、載貨門、舷窓ノ開閉并ニ船内ノ小修繕等ニ從事ス、

三、舵取

舷取ハ一定ノ當番ヲ爲シ、船長又ハ當直運轉士ノ指揮ヲ承ケ、舵輪ヲ操作シ艙門ノ看守、船内ノ見廻、時鐘ノ打鳴等ニ從事ス、

四、甲板庫番

甲板庫番ハ運轉士ノ指揮ヲ承ケ甲板倉庫ヲ管理シ、帆綱具「ペイント」等ノ取扱ニ從事ス

五、點燈方

總テ船内「ラムプ」ノ手入、保存、點火等ニ從事ス、

(十) 機關部屬員

一、火夫長及火夫

火夫長及火夫ハ一定ノ當番ヲ爲シ、火夫長ハ機關長又ハ當直機關士ノ指揮ヲ承ケ、配下ノ火夫ヲ督シテ夫々給水、焚火等ニ從事ス、

二、油差

油差ハ一定ノ當番ヲ爲シ、機關長又ハ當直機關士ノ指揮ヲ承ケ、汽機及諸機械ノ動作ニ注意シ油ノ注瀉方等ニ從事ス、

三、機關庫番

機關庫番ハ機關士監督ノ下ニ機關部倉庫ヲ管理シ、機關部屬具及消耗品ノ取扱ニ從事ス、

四、小汽鐘番

小汽鐘番ハ小汽鐘ノ給水、焚火等ニ從事ス、

五、石炭夫

石炭夫ハ當直機關士ノ指揮ヲ承ケ、焚料石炭ノ運搬、繰替等ニ從事ス、

(十) 事務部屬員

一、荷物方

荷物方ハ貨物係士官ノ監督ノ下ニ貨物ノ數取リヲ爲シ、且ツ事務長又ハ事務員ノ指揮ヲ承ケ船内ノ雜役ニ從事ス、

二、司厨長及司厨

(イ) 司厨長及司厨ハ事務長ノ指揮ヲ承ケ主トシテ厨房ノ事務ニ服シ、食料品ノ受渡、貯藏、食事ノ献立、料理ノ検査、食卓ノ整理等ニ付テ責ニ任ス、
(ロ) 厨司長及司厨ハ旅客ノ接待ニ從事シ、料理人、給仕、給仕女、洗濯人及理髮人ノ業務ヲ指揮監督ス、

三、料理人

料理人ハ司厨ヨリ交付スル献立ニ從ヒ日々ノ賄ヲ爲シ、割烹ノ善惡及厨房ノ清潔ニ付テ責ニ任ス、

四、給仕及給仕女

給仕ハ客室及食堂又ハ「バントリー」ヲ受持チ、旅客ノ用務ヲ辨シ、給仕女ハ特ニ

婦人客及小兒ノ保護ニ従事ス、

五、洗濯人及理髮人

洗濯人及理髮人ハ旅客船員ノ爲メ各々本職ニ従事ス、

(十二)衛生部属員

看護方ハ船醫ノ指揮ヲ承ケ船内患者ノ看護ニ従事シ、又診察、治療、調劑等ヲ補助ス、

第十二章 船内ノ紀律

第一 紀律ノ須要

商船ニ紀律 (Discipline) ノ須要ナルハ、猶ホ軍艦又ハ軍隊ニ紀律ノ一日モ缺クヘカラスルカ如シ、紀律ナキ軍艦、紀律ナキ軍隊ヲ率キテ戦陣ニ臨ム、一敗地ニ塗ル、ヤ知ルヘキナリ、今無紀律不整頓ノ商船ヲ以テ、平和ノ戰場タル航運社會ニ馳驅スルモノトセハ其ノ成敗果シテ如何ン、第一、航海ニ不安心ナルノミナラス日常ノ船務サヘ満足ニ履行スルヲ得サルヘク、延テ内外花客ノ信用ヲ失ヒ、船主ノ名譽ト利益ヲ害シ、結局損耗ノ上自滅ニ歸セスンハ己マサルヘシ、蓋シ紀律ハ一船ノ血脈ナリ船員ノ鍵鎖ナリ、無紀律ノ船舶ハ漂蕩頼ルナキ浮萍ノミ、無紀律ノ船員ハ喧噪爲スナキ烏合ノ衆ノミ、是レ一船ノ主宰タル船長カ、其ノ權利トシテ又義務トシテ肅然タル紀律ヲ涵養維持スルノ必要ナル所以ナリ、

第二 紀律ノ要素

船内ノ紀律ハ種々ノ原素綜合シテ所謂肅然亂レサルノ美觀ヲ呈スヘシト雖モ、重ナル原素ヲ擧クレハ先ツ左ノ五種ナルカ如シ、

(一) 服従 (Obedience)

船員ハ公私ノ法規ヲ重シ眷々之ニ服膺スヘキハ勿論、總テ船内ノ業務ハ上役ノ指揮ヲ承ケテ執行セラル、モノナルヲ以テ、上役ニ對シテ相當ノ敬禮ヲ爲シ、且ツ其ノ命令ヲ遵守シテ敢テ抵抗スルコトヲ許サス、

(二) 秩序 (Regularity)

船員ハ各自ノ部署及役務ヲ有シ、相待テ本船ノ航運ヲ完ウセシムルモノナリ、故ニ各員ノ起居進退自ラ規矩ニ合ヒ、互ニ分ヲ守リテ他ヲ冒サス、何事モ秩序正シク行ハル、ハ最モ望マシキ所ナリ、

(三) 誠實 (Sincerity)

服従ノ極卑屈ニ流レ一モ二モ唯命惟レ從フノミニシテ、其ノ實蹟ノ擧ルト擧ラサルトヲ問ハサルカ如キハ却テ憂フヘキ次第ナリ、海員タル者ハ心ヨリ船主及船長ノ利

益ヲ念ヒ、誠心實意ヲ以テ事ニ從ヒ、眞ニ本分ヲ盡クスノ精神ナカルヘカラス、

(四) 忍耐 (Patience)

船員ノ業務タルヤ、櫛風沐雨、時ニ暴風怒濤ニ襲ハレテ九死一生ノ境ニ彷徨スルコト珍シカラス、是レ特ニ忍耐ヲ要スル所以ニシテ、或ハ一身ヲ犠牲ニ供シ、人命財産ノ保護ヲ完ウスヘキハ、各員ノ當ニ盡クスヘキ義務トヤ謂ハン、

(五) 品位 (Character)

船員ハ内外ノ港灣ニ出入シ、紳士淑女ニ應接スルモノナレハ、相當ノ品位ヲ保タサルヘカラス、殊ニ旅客船ニ在リテ然リトス、即チ舉止端正ニシテ風儀善良ナルハ、單ニ船主ノ利益ヲ進ムルニ止マラス社會ニ於ケル彼等自身ノ資格ヲ高ムル所以ナリ、

第二 紀律ヲ涵養維持スル手段

船内ニ肅然タル紀律ノ須要ナルコト、又紀律ノ要素ニ五種アルコトハ前言ノ如シ、而シテ紀律ハ消極懲戒的ニ之ヲ維持スルト同時ニ、積極獎勵的ニ之ヲ涵養スルノ手段ヲ講セサルヘカラス、是等ハ船長ノ重任ト爲スヘキ所ニシテ、船主タルモノ亦決シテ之ヲ等閑

ニ附スヘカラス、茲ニ手段ノ一班ヲ陳ヘテ參考ニ資セント欲ス、

(一) 船内ノ條規

重ナル船主ハ船則ヲ以テ、又注意深キ船長ハ船内ノ内規ヲ以テ、大概左ニ掲クルカ
如キ條規ヲ定メ、以テ船員ノ紀律ヲ保シムルニ努ムルヲ例トス、

- 一、上役又ハ旅客ニ對シ不敬不從順ノ所爲アルヘカラサル事
- 二、職務ヲ怠リ又ハ他ノ職務ヲ妨クヘカラサル事
- 三、酩酊、喧嘩、賭博等ヲ爲スヘカラサル事
- 四、妄ニ喫煙、點火、又ハ焚火スヘカラサル事
- 五、妄ニ上陸スヘカラサル事又指定時刻前ニ歸船スヘキ事
- 六、同盟的強請又ハ罷業ヲ爲スヘカラサル事
- 七、危險物酒類等ヲ携帯スヘカラサル事
- 八、裸体又ハ制規外ノ服裝ヲ爲スヘカラサル事
- 九、職務ニ關シ私ニ手數料又ハ他ノ贈與ヲ受クヘカラサル事
- 十、船内ニ於テ私ニ物品ノ輸入又ハ賣渡ヲ爲スヘカラサル事

(二) 各部各員間ノ調和

船長ハ船内各部門ノ信誼調和ヲ圖リ、殊ニ甲板部ト機關部トハ本船ノ運航ニ直接ノ

關係アルヲ以テ、兩部ノ意思互ニ融會セシムルヲ旨トシ、船長カ一船ノ責任者タル点
ヨリ機關部ノ業務ヲ監督スヘキハ當然ナリト雖モ、可成細事ニ干涉セス機關長ヲシテ
十分手腕ヲ揮ハシムルヲ可トス、又船長ハ自己ト部下一同ノ間柄ハ勿論、他ノ役員ト
其ノ屬員ノ間柄常ニ圓滑ニシテ業務ノ満足ニ履行セラル、コトヲ勉ムヘキナリ、

(三) 上下ノ區別ト疏通

親密ハ時ニ輕蔑ノ基ト爲ルヘキヲ以テ、船員間ニ於テモ上下ノ區別ヲ嚴ニシ、餘リ
昵近スルカ爲メ威嚴ヲ落ス等ノ弊ナカランコトヲ要ス、然レトモ之ト同時ニ上長タル
モノ倨傲尊大自ラ高ナルカ如キハ、却テ下僚ノ信用ヲ失ヒ命令行ハレサルノ本ナルヲ
以テ、常ニ克己ノ心ト愛憐ノ情トヲ以テ下僚ヲ遇シ、上下ノ情意相疏通シテ心服ヲ得
ルコト肝要ナリトス、

(四) 當直ノ區分、操練ノ部署及總員ノ配置

當直ノ區分ヲ定メ各員ヲシテ其ノ當直中ハ最モ誠實ニ服務セシメ、操練ヲ執行スル
トキハ整然各自ノ部署ニ就キ勇壯敏活ニ進退セシメ、又荒天其他危險ノ虞アル際ハ、

總員ヲ各、其ノ持場ニ配置シテ飽迄警戒ヲ嚴ニセシムル等ハ、海員ヲシテ責任ヲ重クシ義務ニ耐ユル精神ヲ發揮セシムル所以ナレハ、船長ハ是等ノ機會ヲ巧ニ利用シテ紀律ノ要素ヲ練ルニ努ムヘキナリ、

(五)賞罰ヲ明ニスル事

船主ハ被備者タル船員ノ爲シタル不法犯則ノ行爲ニ對シ相當ノ處分ヲ爲シ、又船長ハ法定ノ懲戒權ヲ以テ部下ノ海員ニ制裁ヲ加ヘ、以テ當人ノ將來ヲ戒ムルト共ニ、他人ヲ自省セシムルノ必要アルハ勿論ナリ、而シテ船主及船長タル者ハ、右ノ如ク單ニ罰ヲ以テ後來ヲ警戒スルニ止ラス、善行アル者ヲ賞揚シテ模範ヲ示スノ均ク必要ナルコトヲ知ラサルヘカラス、即チ船員ニシテ拔群ノ行績アル者アラハ、賞詞、賞金、昇給等ノ方法ヲ以テ其ノ勤勞ニ報ヒ、廣ク一般ノ善行ヲ勸誘獎勵スルノ積極的手段ヲ探ルヘキナリ、

(六)紀念日ニ於ケル訓示

歐米諸國ノ船舶ニ於テハ、毎日曜午前船員一同ヲ甲板ニ召集シ、經書ヲ講シ神ニ祈

禱スルノ例ニシテ、之カ爲メ精神上ノ修養ニ益スル所尠ナカラサレトモ、本邦ニ於テハ今遽ニ斯ル慣例ニ倣フコト能ハス、依テ思フニ(一)我國ノ三大節(即チ四方拜、紀元節及天長節)、(二)船主ノ創業日、(三)本船ノ名譽ト爲スヘキ日(例ヘハ戰場ニ出テ奇功ヲ樹テタル日、非常ノ海難ニ出逢ヒ船員ノ盡力ニ依テ危難ヲ免レタル日、又ハ船員カ職務ノ爲ニ斃レタル日ノ如シ)ヲ以テ各船ノ紀念日ト定メ、當日午前船長(内外人ノ別ナク)ハ海員一同ヲ甲板ニ召集シ、海運業ト帝國トノ關係ヨリ海員職責ノ大ナルコトヲ説キ、國運ノ隆昌、船主ノ繁榮及本船ノ健全ヲ祈リ(前示本船ノ名譽ト爲スヘキ日ニ方テハ當時ノ狀況ヲ説キ一同ヲシテ既往ヲ回想シテ將來ヲ警醒鼓舞セシムヘシ)終テ一杯ノ祝盃ヲ舉ケシムルコト、爲サンハ、蓋シ船内ノ紀律ヲ涵養スルニ於テ其ノ成功頗ル見ルヘキモノアラン歟、

(七)監督ノ巡視

重ナル汽船會社ニ於テハ、船舶ノ現狀及船員ノ技能ヲ監視統督セシムルカ爲メ、監督(Supintendent)ト稱スル要職ヲ置キ、斯途ニ老練ナル先輩ヲ以テ之ニ任スルノ例ニシテ、船長以下船員一同ノ敬重スヘキ人物ナリトス、而シテ監督タル者ハ時々船舶

ヲ巡回シ風紀秩序ノ現狀ヲ實地ニ視察シテ、短所ヲ指摘シ闕點ヲ矯正スルノ法ヲ講スヘキナリ、

第十三章 海事審判并ニ普通裁判

第一節 海事審判(懲戒處分)

第一 懲戒ヲ受クヘキ行爲

高等海員(即チ海技免狀ヲ受有スルモノ)又ハ水先人カ、其ノ職務執行中過失、懈怠其他ノ失行アリタルトキハ、海員審判所ノ審判ニ付セラレ其ノ裁決ヲ以テ相當ノ制裁ヲ加ヘラルヘキハ固ヨリ當然ノ事ニシテ、今法令ニ依リ高等海員及水先人カ懲戒處分ヲ受クヘキ行爲ヲ掲クルハ左ノ如シ(海員懲戒法第一條及水先法第十九條參看)

- 一、正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ
- 二、過失、懈怠又ハ不當ノ行爲ニ依リ自他ノ船舶ヲ問ハス之ヲ毀損若クハ沈没セシメタルトキ
- 三、過失、懈怠又ハ不當ノ行爲ニ依リ人ヲ死傷セシメタルトキ
- 四、海難ニ罹リ其ノ船舶又ハ旅客、船員ヲ救助スル方法ヲ盡サ、ルトキ
- 五、海難ニ罹リタル船舶アルヲ認メナカラ正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶又ハ旅客、船員ヲ救助スルノ方法ヲ盡サ、ルトキ
- 六、職務ヲ怠リ又ハ職務上ノ義務ニ違反シタルトキ
- 七、乱醉粗暴其他ノ失行アリタルトキ

第十三章 海事審判并ニ普通裁判

八、水先人カ營業又ハ風紀秩序ニ關スル組合規約ノ條項ニ違反シタルトキ

(注意) 右ノ事項中第一、第四及第五號ハ海員ノミニ第八號ハ水先人ノミニ關ス

前示何レノ事項カニ該當スル不法ノ行爲アリタル高等海員又ハ水先人ハ、假令其後廢業シタリト懲戒處分ヲ免ルヘキモノニ非ス、尤モ事件ノ生シタル日ヨリ事ナク五年ヲ經過シタルトキハ、時効ニ依リ海員審判所ノ審判ヲ受ケルニ及ハサルモノトス、

第二 懲戒ノ種類

- 一、免狀行使ノ禁止
- 二、免狀行使ノ停止 (一ヶ月乃至三年トス)
- 三、譴責

前示懲戒ノ適用ハ、海員審判所ニ於テ當該海員又ハ水先人ノ行爲ノ輕重ニ應シ之ヲ判定スヘキモノニシテ、審判所ニ於テハ裁決確定ノ上懲戒處分ヲ施行スヘシ、而シテ免狀ノ禁止、又ハ停止ノ言渡ヲ爲シタルトキハ審判所ハ其ノ免狀ヲ取上ケ、禁止ノ場合ニハ之ヲ遞信省ニ送付スルモ停止ノ場合ニハ期間滿ツレハ之ヲ本人ニ返付スヘク、若シ言渡ヲ受ケナカラ免狀ヲ差出サ、ル者アルトキハ、審判所ハ其ノ免狀ヲ無効トシ其旨ヲ官報ニ告示スヘキナリ、

第二 審判所ノ組織

地方海員審判所ニ於テハ審判長及審判官ヲ合シテ三人、高等海員審判所ニ於テハ審判長及審判官ヲ合シテ五人ヨリ成リ、其ノ列席合議ヲ以テ審判ヲ行フモノニシテ、審判事件アルトキハ審判所長ハ自ら其ノ事件ノ審判長ト爲ルカ、若クハ配下ノ審判官ニ命シテ審判長ト爲ラシメ、餘ノ掛審判官モ亦皆審判所長ヨリ指定スヘキモノトス、又四日以上引續クヘキ見込アル長期ノ審判ニ付テハ、所長ハ特ニ補充審判官一人ヲ命シテ之ニ立會ハシメ、審判中掛審判官カ疾病其他ノ事故ニ依リ、引續キ參與スルコトヲ得サル場合ニ方リ之ニ代ラシムルヲ得ヘシ、而シテ審判事件ニ關シ裁決及決定ヲ爲スニハ、總テ過半数ノ意見(勿論審判所長モ加入ス)ニ依ルヘキモノニシテ、若シ其ノ意見三說以上ニ分レ何レモ過半数ニ至ラサルトキハ、先ツ被審人ニ不利ナル意見ヨリ採決シ、順次利益アル意見ニ合算シ過半数ニ至テ止ムノ法ナリ、

第四 地方海員審判所ノ管轄區域及管轄權

東京、大阪、長崎及函館ノ四地方海員審判所ノ管轄區域ハ、夫々前示四海事局ノ管轄

區域ニ同シク、而シテ審判事件ノ管轄權ハ、其ノ事件ノ生シタル船舶ノ船籍港ヲ管轄スル所ノ地方海員審判所ニ屬スル原則ナレトモ、若シ同一ノ事件ニ付テ二個以上ノ地方審判所カ管轄權ヲ有スル場合ニハ、其ノ事件ヲ生シタル場所ニ最モ近キ審判所ノ管轄ニ歸スルモノト知ルヘシ、(但シ水先人ノ審判事件ニ付テハ、其ノ水先人ノ住所ヲ管轄スル地方審判所ニ於テ管轄權ヲ有シ、若シ又本事件カ海員ノ審判事件ト關聯スルトキハ、後者ヲ管轄スル審判所ニ屬ス)例ヘハ横濱港ニ船籍ヲ有スル船舶ニ乗組ム船長カ、瀬戸内ニ於テ座礁シタルトキハ、此ノ方面ハ元來大阪海員審判所ノ區域内ニ屬スレトモ、船籍港カ横濱ナルノ故ヲ以テ同港ヲ管轄スル東京地方海員審判所ニ於テ此ノ事件ヲ審判スルノ原則ナリ、然レトモ横濱港ニ船籍ヲ有スル甲船ト神戸港ニ船籍ヲ有スル乙船ト紀伊海峽ニ於テ衝突スルトシテ、此ノ場合ニ管轄權ハ東京及大阪ノ兩審判所ニ跨ルモ、事件ノ發生地カ大阪ニ接近スルノ故ヲ以テ其地ノ海員審判所ノ管轄ニ歸スヘシ、

其他理事官又ハ被審人ノ都合ニ依リ、審判事件ヲ正當ノ管轄權ヲ有スル地方審判所ヨリ他ノ地方審判所ニ移付セラレシコトヲ申請シ得ヘキ特例アリ、即チ前示瀬戸内座礁ノ場合ニ於テ、船長ハ大阪又ハ神戸ニ住居ヲ有シ東京方面ニ來ルコト容易ナラサル事情アリ

ルトキノ如キハ、船長ハ被審人トシテ審判期日前ニ管轄審判所タル東京地方審判所ヲ經テ、其ノ事件ヲ大阪地方審判所ニ移付セラレタキ旨ノ申請書ヲ高等海員審判所ニ差出スヘシ、左スレハ同審判所ニ於テハ審判上便宜ト認ムル限り申請書ノ通り之ヲ許可シ、該事件ヲ大阪審判所ノ管轄ニ移付スヘキナリ、

第五 審判前ノ手續

海事官、警察官、市町村長等ハ、若シ高等海員又ハ水先人カ海員懲戒法又ハ水先法ニ依テ審判ニ付セラルヘキ行爲アルコトヲ認知シタルトキハ、直ニ其ノ事實ヲ明記シ管轄地方海員審判所ノ理事官ニ報告スヘキモノニシテ(海外ニ在リテハ領事官又ハ貿易事務官ニ於テ證據書類ヲ集メ本國ナル管轄審判所ノ理事官ニ報告ス)、理事官ハ是等ノ報告ヲ得テ愈々審判ニ附スヘキ事實ヲ認知シタルトキハ、證據書類ヲ蒐集シテ尙ホ事實ヲ取調ヘ、然ル後審判ノ必要ナシト認ムレハ理由ヲ具シ審判所長ヲ經テ遞信大臣ニ報告スルモ、審判ヲ要スルモノト認ムレハ職權ヲ以テ審判ノ開始ヲ地方審判所ニ申立テ同時ニ證據書類ヲモ添付スヘキモノトス、

第六 地方海員審判所ノ審判

地方海員審判所 (Local Marine Court) ニ於テ審判ヲ開始スルニハ、理事官ノ申立ニ依リ又別ニ理事官ノ申立ナクトモ審判所ノ職權ヲ以テ之ヲ開始スヘキヤ否ヤヲ決定スヘシ、此ノ場合ニハ一應理事官ノ意見ヲ聽クノ必要アリトス、而シテ愈々審判開始ノ事ニ決定シタルトキハ、審判所ハ其旨ヲ理事官及被審人ニ通告スヘシ、又審判所ニ於テ下調ノ必要ヲ認メタルトキハ、所長ハ配下ノ審判官ニ其ノ下調ヲ命ジ、該審判官ハ必要ナル證據ヲ集ムルニ勉メ、又被審人、証人、鑑定人等ヲ呼出シ訊問スルコトヲ得ヘシ、斯クシテ下調ヲ結了シタルトキハ、審判官ハ調査及一切ノ證據ヲ所長ニ差出シ、所長ハ更ニ之ヲ理事官ニ送付シ、理事官ハ三日以内ニ意見ヲ付シ其ノ書類ヲ所長ニ還付スヘシ、而シテ審判所ニ於テ愈々其ノ下調ヲ十分ト思料スルトキハ審判ヲ繼續スヘキヤ否ヤヲ決定シ、若シ繼續セスト決セハ直ニ被審人ヲ放免スヘキモ、繼續ノ事ニ決スルトキハ審判期日ヲ定メテ被審人ヲ呼出スヘシ、審判ハ秩序風紀ヲ害セサル限リ公開スルモノニシテ、審判長ハ被審人及証人ニ向テ一々訊問ヲ爲シ、審判官及理事官モ審判長ノ一諾ヲ得タル上、夫々訊問ヲ試ムルコトヲ得ヘク、又理事官ハ職務上審判ニ立會ヒ其ノ意見ノ在ル所ヲ述フヘ

シ、被審人呼出ヲ受ケナカラ審判期日ニ出頭セサルトキハ、欠席裁決ヲ爲スノ法ナレトモ、被審人ノ疾病其他ノ故障ニ依リ審判ヲ行フコト能ハサルトキハ、審判ヲ延期又ハ中止スルヲ得ヘシ、而シテ審判所ノ言渡スヘキ裁決ニハ其ノ理由及證據ヲ明示スヘキモノニシテ、又理事官某氏事件ニ干與シタル旨ヲモ記載シ、既ニ裁決ヲ言渡セハ審判所長ヨリ直ニ遞信大臣ニ裁決書ノ謄本ヲ差出スヘク、又被審人ノ請求アレハ同ク其ノ謄本ヲ作リ交付スヘシ、若シ理事官又ハ被審人ニシテ右ノ裁決ニ不服ナルトキハ、七日以内ニ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得ヘシ、其他審判中理事官又ハ被審人ヨリ管轄違若クハ審判ヲ行フヘカラサル旨ノ申立ヲ爲シ却下セラレタルトキハ、本件ノ裁決ヲ待タス直ニ高等海員審判所ニ控告スルヲ得ヘキナリ、

第七 高等海員審判所ノ審判

前述ノ如ク理事官又ハ被審人ハ、地方海員審判所ノ裁決ニ對シ不服アルトキハ、高等海員審判所 (Superior Marine Court) ニ控告スルヲ得ヘキモノニシテ、茲ニ控告ノ期限及手續ヲ云ヘハ、原裁決ノ言渡當日ヨリ七日以内 (欠席裁決ノ場合ニハ被審人自ラ裁決

ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ、控告申立書ヲ原地方海員審判所ニ差出スヘシ、左スレハ同審判所ハ該申立書及關係書類ヲ纏メテ之ヲ高等海員審判所ニ送付スヘク、高等審判所ニ於テハ地方審判所同様ノ手續ヲ以テ審判ヲ行ヒ、控告ヲ理由ナシト認ムレハ之ヲ棄却シ、若シ理由アリト認ムレハ原裁判ヲ取消シテ更ニ裁決ヲ與フヘシ、即チ此ノ裁決ヲ最終ノ審判トス、

(備考)

地方及高等海員審判所ノ審判ニ關シ前文ニ畧説シタルモノ、外ハ刑事訴訟法ノ規程ヲ適用セラレ、モノト知ルヘシ

第八 補佐人 (Advisor)

地方審判所タルト高等審判所タルトヲ問ハス、被審人ハ審判中補佐人ヲ用ヒ其ノ助力ヲ假ルコトヲ得ヘシ、補佐人トハ普通ノ裁判所ニ於ケル辯護士ト均ク、被審人(即チ被告)ヲ辯護シ其ノ利益ト爲ル説ヲ主張スルモノニシテ、内規ニ依レハ被審人ヨリ甲種船長又ハ機關長ノ免狀ヲ有スル者、海軍大尉又ハ大機關士以上、若クハ辯護士ノ資格アル者ヲ補佐人ニ指定シ、兩人連署ヲ以テ豫メ當該審判所ニ願出テ其ノ認許ヲ得ルコトヲ要ス、

第二節 普通裁判(民事上ノ制裁)

第一 民事制裁ノ大要

上來叙述シタル海事審判ノ事ハ、海員懲戒法(第一條乃至第七條)又ハ水先法(第九條乃至第二十一條)ノ規定ニ依リ、高等海員又ハ水先人カ職務執行中ニ起リタル不法ノ行爲ニ對シ、遞信大臣ノ懲戒權ヲ以テ單ニ免狀ノ行使ヲ禁止シ若クハ停止スル等ノ制裁ヲ加フルニ止マルモノナレトモ、其他場合ニ依リテハ右ノ如キ懲戒處分ノ外ニ、尙ホ民事又ハ刑事上ノ制裁ヲ受ケ、普通裁判所ノ宣告ニ服セサルヲ得サルモノトス、茲ニ一例ヲ擧クレハ、海員(高等下級共)又ハ水先人カ過失ニ依リ船舶ヲ毀損若クハ沈没セシメタルニ方リ、船主ヨリ損害賠償ノ請求ヲ申込マル、コトアラン乎、若シ此ノ請求ニ應セサルトキハ、裁判沙汰ト爲リ民事裁判所ノ判決ニ依テ賠償ノ責アルモノト言渡サレ、之カ賠償ノ資力ナキトキハ、終ニハ家資分産ノ處分ヲモ受ケ、延テ海員又ハ水先人タルノ資格ヲ失フニ至ルヘシ、又一步進テ故意又ハ懈怠ノ爲メ船舶ヲ毀損シ若クハ人命ヲ死傷セシメタルカ如キ場合ニハ、船主又ハ他ノ利害關係人ヨリ損害賠償ノ請求ヲ受クヘキ

ハ勿論（或ハ受ケストスルモ）、私人ノ告訴若クハ檢察官ノ告發ニ依テ刑事裁判所ノ手ニ掛リ、遂ニ犯罪行爲ト認メラレ相當ノ刑罰ニ處セラル、コトアルヘシ、

要スルニ海員又ハ水先人ノ不法行爲ニ付テハ、其ノ行爲ノ種類ニ依リ單ニ免狀ニ關スル懲戒處分ニ止マルコトアルモ、時トシテハ民事上ノ制裁ヲ受ケ、或ハ民事刑事兩種ノ制裁ヲ併セ課セラル、コトアリト知ルヘシ、而シテ民事上ノ制裁ト云フハ、商法及民法ノ規定ニ係ル損害賠償其他ノ債務ヲ辨濟スルニ在リ、刑事上ノ制裁ト云フハ、罰金、科料、禁錮、懲役等ヲ云フモノニシテ、主トシテ左ノ法令ニ規定シアルナリ、

- 一、船員法第四十六條乃至第七十四條、同施行細則第五十一條（後ニ出ツ）
- 二、水先法第二十二條乃至第二十五條、同施行細則第六十六條（後ニ出ツ）
- 三、船舶法第二十二條乃至第二十六條（後ニ出ツ）
- 四、船舶検査法第十條（後ニ出ツ）同施行細則第三十八條（五圓乃至二十圓乃至二百圓ノ罰金）
- 五、開港々則第十八條（百圓乃至二百圓ノ罰金）
- 六、航路標識條例第三及第四條（後ニ出ツ）
- 七、水難救護法第三十四條（海難ノ章ニ出ツ）
- 八、關稅法第七十四條乃至第八十條（犯罪ノ種類ニ依リ二百圓以下乃至二千圓以下ノ罰金トス）
（其他密輸入チ企テタル者ニ付テハ稅關手續ノ處ニ出ツ）
- 九、噸稅法第五條（稅額三倍ノ罰金）

次ニ海員又ハ水先人ノ不法行爲ニ對シ、刑事上ノ制裁ヲ加フヘキ條文ニシテ動モスレハ事實ニ現レ易キモノヲ抄録シ、以テ當事者ノ參考ニ資スルモ亦無用ニ非サルヘシ、

第二 海員（高等下級共）ニ關スル罰則（船員法抄出）

（注意）左ノ條文中船員トハ船長以下一切ノ乗組員ヲ云ヒ海員トハ船長ヲ除キ其他ノ乗組員一切ヲ云フ

（一）必要書類ニ關スル犯則

第四十九條 左ノ場合ニ於テハ船長ヲ十一日以上六ヶ月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三十拾圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一、船長カ正當ノ理由ナクシテ船舶國籍證書（一）海員名簿（二）屬具目錄（三）航海日誌（四）旅客名簿（五）運送契約及積荷ニ關スル書類（六）稅關ヨリ交付シタル書類（七）船中ニ備ヘサルトキ又ハ之ヲ毀棄シタルトキ
- 二、船長カ管海官廳ヨリ前號ノ書類ノ提出ヲ命セラレタルニ之ヲ拒ミタルトキ
- 三、船長カ海員名簿、屬具目錄、航海日誌、旅客名簿ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 四、船長カ航海中ノ事變ニ付キ管海官廳ニ虛偽ノ報告ヲ爲シタルトキ

（二）發航準備ノ検査ヲ怠リ又ハ交代者ヲ置カス上陸スル等ノコト

第五十條 左ノ場合ニ於テハ船長ヲ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一、船長カ航海ノ準備整頓セルヤ否ヤノ検査ヲ爲サスシテ發航ヲ爲シタルトキ
- 二、船長カ船舶ヲ安全ニ碇泊セシメ且自己ニ代テ船舶ヲ指揮スヘキ者ニ其職務ヲ委任セスシテ船舶ヲ去リタルトキ
- 三、船長カ船舶カ危険ノ虞アル場所ヲ航行スルニ方リ甲板ニ在ラサルトキ
- 四、船長カ必要ナクシテ豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

(三) 海難救護ノ義務ヲ怠ルコト

第五十二條 船舶ニ急迫ノ危険アルモ船長カ人命、船舶及積荷ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡クサス、又ハ旅客海員其他船内ニ在ル者ニ先チ自ラ船舶ヲ去リタルトキハ二ヶ月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五十三條 他船ト衝突シ自船ニ急迫ノ危険ナキニモ拘ラス船長カ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡クサ、ルトキハ一ヶ月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ船長カ船舶ノ名稱、船籍港、發航港及到達港ノ告知ヲ爲サ、ルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 船長カ航海中救護ヲ求ムル他船ヲ認メ自船ニ急迫ノ危険ナキニモ拘ラ

ス人命ヲ救フコトニ盡クサ、ルトキハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條 般船ニ急迫ノ危険アル場合ニ於テ海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ其船舶ヲ去リタルトキハ十一日以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五十六條 海難ノ場合ニ於テ船長カ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ爲スニ當リ海員カ上長ノ命令ニ服從セサルトキハ十一日以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

(四) 懲戒處分ノ助力ヲ拒ムコト

第六十二條 船長カ懲戒處分ヲ爲スニ當リ海員ニ助力ヲ爲スヘキコトヲ命シタル場合ニ於テ海員カ其命令ニ服從セサルトキハ十一日以上六ヶ月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

(五) 去船、脱船

第六十四條 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ二十四時間以上船中ニ在ラサルトキハ二

圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

海員カ脱船シタルトキハ十一日以上六ヶ月以下ノ重禁錮ニ處ス

海員カ外國ニ於テ前二項ノ罪ヲ犯シタルトキハ一等ヲ加フ

(六)海員ヲ遺棄スルコト

第六十五條 船長カ正當ノ理由ナクシテ海員ヲ遺棄シタルトキハ一ヶ月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

船長カ外國ニ於テ正當ノ理由ナクシテ船舶ヲ遺棄シタルトキハ一ヶ月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

(七)船内ニ危険物ヲ携帯スルコト

第六十六條 海員カ船長ノ許可ヲ得シテ兇器、爆發又ハ發火シ易キ物、劇藥其他ノ危険物ヲ所持スルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

(八)故意ニ船舶ヲ毀損若クハ沈没セシメ又ハ人ヲ殺スコト

第六十七條 故ナク船體若クハ機關ノ要部ヲ毀損シ又ハ重要ナル屬具ヲ毀損若クハ

放棄シタル者ハ十一日以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯シ船舶ノ運航ヲ妨ケタルトキハ一等ヲ加ヘ船舶ヲ覆没シ又ハ人ヲ死ニ致シタルトキハ重懲役ニ處ス

第六十八條 船舶ノ運航ヲ妨クル目的ヲ以テ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ重懲役ニ處シ因テ船舶ヲ覆没シ又ハ人ヲ死ニ致シタルトキハ刑法第六十九條ノ例ニ依リテ處斷ス

(九)上長ヲ脅迫、毆打スルコト

第六十九條 海員カ上長ニ對シテ脅迫ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ(刑法第三百二十九條ノ規定ハ此ノ場合ニハ之ヲ適用セス)

第七十條 海員カ上長ニ對シテ毆打創傷ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

(十)船長職權ノ濫用

第七十一條 船長カ旅客、海員其他船中ニ在ル者ニ對シテ其職權ヲ濫用シ又ハ虐待ヲ爲シタルトキハ十一日以上三ヶ月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病、死傷ニ致シタルトキハ前條ノ例ニ依リテ處斷ス

(十一) 結黨、暴動ノコト

第七十二條 海員カ相黨與シテ左ノ行爲ヲ爲シタルトキハ各號ノ區別ニ依リテ處斷シ首魁ハ一等ヲ加フ

一、職務ニ服セス又ハ上長ノ命令ニ服從セサルトキハ十一日以上六ヶ月以下ノ重禁錮ニ處ス

二、脱船シタルトキハ一ヶ月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

三、第六十九條又ハ第七十條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

(十二) 職務ノ懈怠

第七十三條 船員カ著ク其職務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損若クハ覆没シ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一ヶ月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三 水先人ニ關スル罰則(水先法抄出)

(一) 業務ノ懈怠

第二十二條 水先人其業務ヲ怠リタルカ爲メ船舶ヲ毀損若クハ覆没セシメ又ハ人ヲ死傷セシメタルトキハ一ヶ月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五十圓乃至六百圓ノ罰金ニ處ス

水先人ニ非サル者カ水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シ前項ノ損害ヲ惹起シタルトキ亦右ニ同シ

(二) 公權又ハ免狀停止中ノ營業

第二十三條第一號 公權停止中又ハ水先免狀停止、仮停止、若クハ差押中ノ水先人カ其ノ業務ヲ營ミタルトキハ當人及之ヲシテ水路ヲ嚮導セシメタル者ヲ二圓乃至二百五十圓ノ罰金ニ處ス

(三) 水先人ニ非サル者ノ營業

第二十三條第八號 水先人ニ非サル者カ水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シタルトキハ二圓

乃至二百五十圓ノ罰金ニ處ス

第二十五條 船長若シ水先人ニ非サル者ヲシテ水路ヲ嚮導セシメタルトキハ成規ノ水先案内料ト同額以上二倍以下ノ罰金ニ處ス

(四) 水路嚮導ニ關スル犯則

第二十三條第六及七號 左ノ各場合ニハ二百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

- (イ) 水先人カ船長ニ雇ハレ水路ノ嚮導ヲ要求セラレナカラ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セス又ハ之ニ應スルモ正當ノ理由ナクシテ實際水路ヲ嚮導セサルトキ
- (ロ) 船長カ水先人ヲ雇ヒ水路ノ嚮導ヲ要求シナカラ正當ノ理由ナクシテ之ニ水路ヲ嚮導セシメサルトキ
- (ハ) 船長カ正當ノ理由ナクシテ水先人ヲ水先區外ニ伴ヒタルトキ

第四 國旗ニ關スル罰則(船舶法第二二、二五及二六條ニ據ル)

(一) 日本船舶ハ法令ニ別段ニ定アル場合ノ外ハ國籍証書(又ハ仮國籍証書)ヲ受ケタル後ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲クルコトヲ得ス又ハ之ヲ航行セシムルコトヲ得サル規則ナルニ之ニ違反シタルトキハ船長ハ十圓乃至千圓ノ罰金ニ處セラル

(二) 前項ニ反シ既ニ國籍証書ヲモ受ケ航行ノ用ニ供スルニ方リ成規ノ日本國旗ヲ掲ケサ

ルトキハ船長ハ五圓乃至五百圓ノ罰金ニ處セラル

(三) 日本船舶カ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本國旗ニ非サル旗章ヲ掲ケタルトキハ船長ハ百圓乃至千圓ノ罰金ニ處セラレ情狀重キトキハ其ノ船舶ヲ沒収セラル但シ捕獲ヲ避ケント欲スル場合ハ此限ニ在ラス

第五 船舶検査ニ關スル罰則(船舶検査法第十條ニ據ル)

(一) 左ノ各場合ニハ船長ハ三十圓乃至三百圓ノ罰金ニ處セラル詐偽ノ目的ヲ以テ船舶検査証書(又ハ仮証書)ヲ受ケタル者亦同シ

- (イ) 特定ニ定ムル場合ノ外検査証書(又ハ仮証書)ヲ受有セスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ
- (ロ) 検査証書(又ハ仮証書)ニ記載スル航路制限、航行期間又ハ汽壓制限ヲ超エテ航行シタルトキ
- (ハ) 検査官(海事官)ノ臨視ヲ拒ミ若クハ其ノ航行停止ノ命令ニ違背シタルトキ
- (ニ) 必要ナル器具ノ整備ヲ爲サスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ

(二) 検査証書(又ハ仮証書)ニ旅客定員ノ記載ナキ船舶ニ旅客ヲ搭載シ又ハ該証書ニ記載スル旅客定員ヲ超エテ旅客ヲ搭載シタルトキハ船長ハ十圓乃至百圓ノ罰金ニ處セラル

第六 航路標識ニ關スル罰則(航路標識條例第三及四條ニ據ル)

(一) 航路標識ヲ破壊若クハ移轉シ又ハ其ノ性質ヲ變更シ若クハ之ヲ蔽遮スヘキ所爲ヲ爲シタル者、又ハ遞信大臣ノ指定シタル區域内ニ於テ航路標識ノ燈光若クハ警號ト誤認シ易キ所爲ヲ爲シタル者ハ十一日以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

(二) 標識ニ船筏其他ノ物ヲ繫キ又ハ衝突セシメ又ハ攀躋シ又ハ之ヲ汚穢シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四編 船主、船員間ノ關係

概シテ之ヲ言ヘハ船主ト船員ノ間柄ハ、雇者、被雇者ノ關係ヲ有スルコト勿論ナリト雖モ、船長ノ如キハ船主ノ代理人トシテ第三者ニ對スル特種ノ權利義務ヲ有シ、又自ラ雇者ノ地位ニ立チテ海員又ハ水先人ヲ雇入ル、コトヲ得ヘシ、海員モ亦普通ノ被雇者ト異ナリ法律上諸種ノ特權ヲ賦與セラル、ヲ常トス、元來船主船員間ノ關係ハ私法的即チ私人相互間ノ關係ニシテ、船長海員間ノ關係ハ私法的即チ公法的の關係トシテ、船員法ヲ以テ公法的關係ヲ規定シ、更ニ水先法ヲ以テ水先人ノ公法的權利義務ノ關係ヲ規定セリ、著者ハ本篇ニ於テ是等法律ノ規定ニ基キ併セテ内外ノ慣例ヲ參酌シテ、諸般ノ方面ヨリ以上ノ關係ヲ觀察セント欲ス、

英國商船條例ニ依レハ、海員トハ適法ニ登録ヲ受ケタル船長、水先人及修業生^{アップレンチス}ヲ除クノ外、如何ナル名義若クハ資格ヲ以テスルヲ問ハス船内ニ於テ或ル業務ニ服スル爲メ雇入レラル者ヲ謂フ、而シテ我カ船員法第二條ニハ船員トハ船長及海員ヲ謂ヒ海員トハ船長以外ノ一切ノ乗組員ヲ謂フト規定シ、水先人ニ付テハ別ニ水先法ノ規定アルヲ以テ觀レハ、水先人ハ英國ト均ク船員ノ中ニ包含セサントモ、修業生、見習等ニ至テハ何レモ海員ト同

一視セラル、モノナリ、本篇ハ船主船員間ノ關係ト題スレトモ、水先人ニ關スル事項モ便宜上本篇ノ中ニ收メタリ、讀者諒焉

第十四章 船長ト船主トノ關係

第一 雇傭契約 (Contract of Service)

船長ノ免狀ヲ受有シタル者、愈一船ノ指揮者トシテ船舶ニ乗組マントスルニハ、必スヤ先ツ船主ノ雇入ヲ待タサルヘカラス、而シテ船主カ船長ヲ雇入ル、ニハ、單ニ其ノ給料額ヲ定メ何時テリトモ船主ノ隨意ニ進退ヲ決スヘキ相互ノ默約ニ依ルモノトナカラスト雖モ、蓋シ世ノ船主タルモノ、船長ノ如キ重大ナル責任ヲ有スル者ヲ雇入レ其ノ義務ヲ完ウセシメント欲セハ、營ニ其ノ給料額ヲ定ムルニ止マラス、其ノ雇入ノ期間、解雇ノ條件、船長職責ノ範圍等ニ付テ、相約スル所ノ雇傭契約ヲ取結フヲ以テ必要ナリトス、此ノ雇傭契約ハ普通ノ傭者被傭者間ノ契約ト稍、面目ヲ異ニシ、一層重要ナル特殊ノ事項ヲ包含スルノ常ニシテ、今内外諸國ニ行ハル、二三ノ慣例ヲ擧クレハ左ノ如シ、

(一) 報酬

船長ノ給料ハ月額ヲ以テ定ムルヲ通例トス、又今日重ナル船主ニ於テハ六ヶ月間又ハ十二ヶ月間無事ニ勤務シ何等ノ海損ヲ醸サ、ル船長ニ向テハ、賞與金 (Bonus) ヲ給與スルノ風アリ、蓋シ往時船長ハ定額ノ給料ノ外ニ「積荷ノ注意ニ對シテ船主ヨリ船長ニ贈ル謝金ナリ」ヲ收ムルノ權利ヲ有シシモ、今日ニ至テハ「其ノ給料中には總ての報酬を包含す」テフ主義一般ニ承認セラル、カ如シ、

(二) 雇入期間

内外主要ノ汽船社ニ於テハ、船長ノ如キ重大ナル責任ヲ負フヘキ者ヲ雇入ル、ニ方リ、陸上ノ使用人ト同ク別ニ期間ヲ定メス、終身職務ニ盡力セシムルノ方針ヲ採ルト雖モ、小船主ニ於テハ多クハ此例ヲ履マス、或ハ一定ノ年月ヲ以テ或ハ指定ノ航海ニ付テ船長ヲ雇入ル、ノ風ナリ、

(三) 解雇條件

船長若シ不適任ニシテ船主ノ信用ヲ失スルニ至ルトキハ、直ニ解雇セラルヘキコト當然ナリ、而シテ世ノ船主ハ船長カ職務懈怠ノ爲メ莫大ナル損害ヲ惹起スニ非サレハ

濫ニ解雇セサルノ例ニシテ、注意深キ船主ハ時トシテ「乗揚、衝突、又は荷損の場合に於て其の原因が船長の職務懈怠に在ること明白なるときは爾後解雇すへし」トノ條項ヲ契約中ニ挿入スルコトアリ、其他船舶其物カ海難ノ爲メ全損シタル等ノ場合ニハ雇入期間中ト雖モ雇傭契約ハ自然終了スヘキナリ、

(參照)

日本郵船會社ニ於テハ外國船長ニ對スル雇傭契約中ニ解雇ノ條件ヲ大約左ノ如ク定ム

- 一、會社ハ何時ニテモ會社ノ都合ニ依リ、理由ヲ示スコト無ク一ヶ月前ノ豫告ヲ以テ、又ハ此ノ豫告ノ代リ一ヶ月分ノ給料ヲ與ヘテ解雇スルコトヲ得ヘシ、是等ノ場合ニ船長ハ會社船舶又ハ同等社外船ノ一等客トシテ、雇入地マテ無賃送還セラルヘシ、
- 二、雇入期間アルモノハ、該期間満了ノ後船長ヨリ一ヶ月前ノ豫告ヲ以テ航海終了ト同時ニ辭職ヲ請求スルコトヲ得ヘシ、此ノ場合ニ無賃送還ノ特典ヲ受ケヘキハ前項ニ同シ、
- 三、船長ニ於テ故意ノ失行、命令違反ノ行爲、其他重大ナル過失アルトキハ、會社ハ直ニ解雇スヘシ、此ノ場合ニ解雇ノ日附以後ハ給料ヲ給セス、又無賃送還ノ特典ハ之ヲ與フヘキ限ニ在ラス、

(四) 船長ハ自己ノ爲ニ商賣スヘカラサル事

船長ハ執職中其ノ船舶ノ運航ニ一身ヲ委ネ、船主ノ利益ヲ圖ルニ全力ヲ注クヘキコト理ノ當然ニシテ、苟モ自己ノ利益ノ爲メ船舶ヲ使用スヘカラサルハ勿論 (即チ船主ノ承諾ナクシ)

テ私ニ貨物ヲ積入レ又ハ旅客ヲ乗船セシムルカ如キヲ云フ) 船外ニ在テモ私ニ營利ノ事業等ニ従事スルヲ得サルモノトス、昔者大西洋通ノ定期船ハ、船長室ヲ旅客ニ貸與シテ不時ノ収入ヲ得タル例アリシモ、斯ル惡例ハ今ヤ其跡ヲ絶ツニ至レリ、

(五) 船内賄及航海用具ノ事

往時船主ハ船内賄ノ事ヲ一切船長ニ委任スルノ風習ナリシモ、之カ爲メ種々ノ弊害ヲ生シタルヲ以テ今ヤ殆ト廢止セリ、又海圖、時辰儀、羅針盤等ノ如キ航海上ノ必要具ヲ、船長ノ自辨ニセシムルモノ往々アリト雖モ重ナル船主ハ自ラ供給スルノ例ナリ、但シ六分儀、双眼鏡等ハ船員ノ自辨タルヲ常トス、

第二 船長ハ船主ノ代理人ナリ

船長ハ船主ニ對シ一個ノ商事代理人ニシテ、本人タル船主ノ明ナル意思ニ反セサル限リハ、其ノ職務執行上必要ナル諸般ノ事項ヲ專行スルコトヲ得ヘシ、而シテ船長ハ常ニ貴重ノ人命(旅客及海員)ト莫大ノ財産(船舶并ニ郵便物、貨物)トヲ保全スヘキハ勿論、其ノ委任セラレタル船舶ヲ率ヰテ遠ク萬里ノ外洋ニ航シ、殆ト船主ノ管督ヲ離レテ

時ニ久ク通信ヲ廢スルノミナラス、其ノ事業タルヤ甚タ冒險的ニ屬シ、剩サヘ法律習慣ノ異ナル外國ニ於テ、船主ニ代リ諸般ノ業務ヲ處理スル等、其ノ職務ノ重要ニシテ且ツ廣濶ナルコト決シテ普通代理人ト同一視スヘキニ非ス、從テ法律上其ノ有スル權利義務ノ大ナルヤ他ニ匹儔稀ナルノ所以ヲ知ルヘシ、

第三 船長ノ權利義務

船長カ職務ヲ行フニ方リ、法律上(商法及船員法)當然其ノ享クヘキ權利并ニ其ノ負フヘキ義務ヲ列示セハ大要左ノ如シ、但シ船長ノ權利ハ本ト其ノ重大ナル義務ヨリ生シ來ルモノナルヲ以テ、自然ノ順序ヨリ言ヘハ、先ツ義務ヲ論シテ然ル後權利ニ及ホスコト正當ナレトモ、茲ニハ便宜上普通ノ慣例ニ依リ權利ヨリ説キ始ムヘシ、

(甲) 權利

船長ハ其ノ指揮スル船舶ニ付テ船主ノ代理權ヲ有シ、此ノ代理權ハ船籍港即チ通例船主(又ハ代理者)ノ居住スル場所ニ在ル場合ト、其ノ以外ニ在ル場合トニ由リ廣狹ヲ異ニス、船籍港ニ於テハ船長ハ特ニ船主ヨリ委任ヲ受ケタル場合ノ外ハ、海員ノ雇

入及雇止ヲ爲ス權限ノミニ止マレトモ、船籍港以外ニ於テハ自己ノ獨斷ヲ以テ航海上必要ナル一切ノ行爲(裁判上又ハ裁判外ノ)ヲ爲スノ權限ヲ有スル事ハ、商法第五六六條ニ規定スル所ニシテ、船長權限ノ範圍ヲ定メ其ノ權利ノ大体ヲ示スモノト謂フヘシ、蓋シ船長ノ權利ハ自カラ船主ニ關スルモノト海員及旅客ニ關スルモノトノ二種アリ、左ニ掲クル(一)乃至(四)ハ前段ニ屬シ(五)乃至(七)ハ後段ニ屬スルモノトス、

(一) 旅客及貨物ノ運送契約ヲ結フ事

船長ハ前述ノ如ク商法第五六六條ニ規定セラレ、範圍内ニ於テ、船舶ノ普通使用ニ關シ船主ニ代リ契約ヲ結フノ權限ヲ有スルハ當然ノ事ニシテ、船長一クヒ此ノ代理權内ニ於テ旅客及貨物ノ運送契約(海上保險契約モ亦然リ)ヲ結フトキハ、其ノ行爲ヨリ生スル權利義務ハ直ニ船主ニ及フヘキモノトス、尤モ今日世ノ重ナル船主ハ運送契約等ノ取結ニ付テハ、船籍港タルト否トヲ問ハス、本店又ハ支店支配人等ニ委任シ、船長ヲシテ直接之ニ當ラシメサルノ例ナレトモ、畢竟斯ク船長ノ代理權ニ制限ヲ加ヘタレハトテ、船主ハ善意ノ第三者タル荷主又ハ旅客等ニ向テ責任ヲ免ル、コト能ハスト

知ルヘシ(商法第五六六條及五六七條)、

(二) 船舶ノ修繕又ハ艤裝ヲ爲ス事

船長ハ其ノ委任セラレタル船舶ニ損所ヲ生シ航海ニ差支フルトキハ、獨斷ヲ以テ之カ修繕ヲ爲シ、又必要ノ艤裝品ニ不足ヲ生スルトキハ之カ補充ヲ爲シ、以テ航海ノ準備ヲ整頓スルコトヲ得ヘシ、然レトモ船籍港ニ於テハ特ニ船主ノ委任ヲ受クルコトヲ要ス(商法第五六六條)、

(三) 船舶又ハ積荷ヲ處分スル事

(イ) 航海中ニ船舶ノ修繕ヲ要スルカ或ハ海難救助ノ費用ヲ支辨スヘキカ、其他航海ニ必要ナル需用ノ爲メ金策ヲ要スル場合ニ方リ、船長又ハ船主ノ信用ヲ以テスルモ到底費用支辨ノ途ナク萬已ムヲ得サル以上ハ、船長ハ其ノ船舶ヲ抵當ト爲スカ又ハ他ニ借財ヲ爲スカ、又ハ積荷ノ全部若クハ一部ヲ質入又ハ賣却スルコトヲ得、但シ最後ノ場合ニハ荷主ニ對シテ損害賠償ノ責アリ(商法第五六八條)、

(ロ) 船籍港外ノ地ニ於テ船舶大破損ヲ被リ修繕スルコト能ハサルニ至リタルトキハ(即チ

現在地ニ於テ修繕ヲ加フヘカラサルノミナラス、修繕ヲ加フヘキ設備アル土地マテ到着スルコト能ハサルトキ、又ハ修繕ヲ加ヘ得ルモ其ノ費用船價ノ四分ノ三ヲ超ユルトキ云フ)、船長ハ管海官廳ノ認可ヲ得タル上之ヲ競賣ニ附スルコトヲ得(商法第五七〇及五七一條)、

(ハ) 航海中糧食又ハ燃料炭等缺乏シ航海ニ差支ヲ生スル場合ニ方リ、他ニ之ヲ補充スルノ途ナキトキハ、船長ハ積荷ノ中ヨリ利用スルコトヲ得、但シ此ノ場合ニハ荷主ニ對シテ損害賠償ノ責アリ(商法第五七二條參看)、

(ニ) 法令ニ違反スルカ若クハ正當ノ契約ニ依ラスシテ船積シタル貨物アルトキハ、船長ハ何時ニテモ之ヲ陸揚スルコトヲ得、若シ該貨物ニシテ船舶或ハ他ノ積荷ニ危害ヲ及ホスノ虞アルトキハ、海中ニ放棄スルモ差支ナシ(商法第五九三條)、其他積荷ハ往々臨機ノ處分ヲ必要トスルモノニシテ、船長之カ處分權ヲ有セスンハ、荷主等ノ利益ヲ害スルコト多カルヘキヲ以テ、航海中積荷ノ將ニ腐敗セントスルニ方リ、之ヲ賣却スルカ然ラサレハ全ク之ヲ損失ニ歸セシムルカ他ニ探ルヘキ途ナキトキハ、船長ハ荷主ノ承諾ヲ經ストモ其ノ爲ニ之ヲ賣却スルコトヲ得、英國ノ判決例ニ依レハ、船長カ斯ル積荷賣却ノ權ヲ行フニハ、二條件ヲ具備スルヲ要ス、即チ賣却ヲ爲サ、ルヘカラサ

ル必要アリシコト、并ニ船主ニ通信シテ其ノ指圖ヲ承ル途ナカリシコト是レナリ、

(四) 給料其他ノ請求權

(イ) 船長ハ英語ノ所謂「マリタイム、リエン」(Maritime Lien)ト稱スル一種ノ確保セラレタル權利ヲ有スルモノニシテ、給料又ハ航海ニ必要ナル費用ノ立替金等一切ノ債權ニ付キ、船長其人ニ對シテ支拂ヲ請求シ得ヘキノミナラス、其ノ乗組ミタル船舶、屬具及未收運送賃ノ上ニモ先取特權ヲ有スルハ、蓋シ一般ノ使用人中他ニ比類稀ナル特典ニシテ、亦海員保護ノ精神ヨリ出テタルモノナルヤ明ナリ、而シテ船主ニ於テ仮ヒ其ノ船舶ヲ他ニ賣却シ又ハ質人シタリトテ、毫モ右特權ノ執行ヲ妨ケラル、コトナク、又此ノ特權ハ船主ノ自ラ任用シタル船長ノミナラス、船長ニ代テ正當ニ其ノ職務ヲ執レル者ニモ均ク之ヲ適用スヘキモノトス(商法第六八〇條及五六九條參看)、

(ロ) 船長ハ正當ノ理由ナクシテ解雇セラレタルトキハ、船主ニ對シ之カ爲ニ生セル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ヘシ(商法第五七四條)、

(ハ) 給料ノ請求權ヲ始メ總テ船長カ船主ニ對スル債權ハ一箇年ヲ經過スレハ時効ニ依

リ消滅ス、故ニ此ノ期間内ニ請求ヲ爲スコト必要ナリ(商法第五七五條)、

(五) 海員ノ雇入及雇止ヲ爲ス事

乗組員ヲ構成スル海員ヲ雇入レ又ハ雇止ムル事ハ、船長固有ノ代理權ニシテ、法令ノ定ムル所ニ從ヒ夫々其ノ手續ヲ爲スヘキモノトス(商法第五六六條及船員法第二六條)、然レトモ其ノ實際ヲ云ヘハ重ナル船主ニ於テハ、船内各部ノ役員ハ屬員ト異ナリ、船主自カラ之ヲ採用シテ其ノ進退ヲ決シ、船長ヲシテ單ニ法定ノ手續ヲ爲サシムルヲ例トス、

(六) 船長ノ指揮權

船長ハ部下海員ヲ指揮監督スヘキハ勿論、旅客其他總テ船内ニ在ル者ニ對シ、職務上必要アルトキハ相當ノ命令ヲ爲スコトヲ得ルモノトス、例ヘハ海賊ノ襲撃ヲ受ケタルトキ、船長ハ海員ニ對スルト均シク旅客ニモ亦命令シテ本船ノ防禦ニ助力セシムルカ如キ是ナリ(船員法第一三條)、

(七) 船長ノ懲戒權

海員不敬不遜ナルカ職務ヲ怠ルカ又ハ義務ニ背反スルカ、其他船内ノ秩序ヲ紊ル不行跡アルトキハ船長之ヲ懲戒スヘシ(船員法三六條參看尚ホ船長懲戒權ノ事ハ第十五章第三三條詳説スヘシ)、又海員ト旅客トヲ問ハス危險物、酒類等ヲ所持スルトキハ、船長之ヲ保管或ハ放棄シ、若シ人身或ハ船舶ニ危害ヲ加ヘントスルトキハ、其ノ身軀ヲ拘束スルコトヲ得ルナリ(船員法第四一乃至四三條)、

(乙)義務

船長ノ義務モ、亦自カラ船主ニ關スルモノト公共ニ關スルモノトノ二種ニ區別スルヲ得ヘシ、左ニ列示スルモノ、内(一)乃至(八)ハ前段ニ(九)乃至(十三)ハ後段ニ屬ス、

(一)船舶並ニ船内ノ人命、財産ヲ保全スヘキ事

是レ一船ノ指揮者タル船長ノ職務上當然ノ義務ニシテ、獨リ船主ニ對スルノミナラス部下ノ海員、旅客、荷主、其他ノ利害關係人ニ對シ、生命財産ノ安全ニ付テ十分ニ注意スル所ナカルヘカラス、從テ若シ職務上ノ不注意ニ由リ損害ヲ惹起シタルトキハ之ヲ賠償スルノ責ヲ免レサルナリ、若シ又船長カ船主ノ指圖ヲ受ケテ職務ヲ行ヒ、誤テ

損害ヲ船主以外ノ者ニ及ホシタルトキハ、是レ亦當該者ニ向テ賠償ノ責ヲ免ルヘカラス、何トナレハ此ノ場合ト雖モ船長ハ尙ホ自己ノ信スル所ニ依テ、職務ヲ行フコトヲ得ヘキモノナレハナリ(商法第五八八條)、

(二)海員ノ職務ヲ十分監督スヘキ事

部下ノ海員カ職務ヲ行フ際他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ、船長ノ責任如何ハ外國ニ在リテモ往々疑問ノ起ル所ナルガ、船長已ニ部下一同ヲ指揮監督スルノ權利アル以上ハ、監督ノ當否ニ付テ責任ヲ負フヘキコト當然ニシテ、若シ監督ヲ怠リタル爲メ損害ヲ生シタランニハ、船長自ラ賠償ノ責ヲ免ルコトヲ得サルナリ(商法第五五九條)、

(三)航海ノ準備ヲ整頓スヘキ事

出帆前先ッ其ノ船艙機關ニ何等ノ故障モ無ク航海ニ差支ナキコトヲ確メ、次ニ乗組員、艙裝具、食料品、飲用水、石炭、必要書類等ハ何レモ充備スルヤ否ヤ、又積荷ノ配置、旅客ノ員數等ハ別ニ不都合ナキヤ否ヤ、是等ノ準備ヲ検査整頓スルコトヲ要ス、是レ前示(一)ニ述ヘタル船舶并ニ人命財産ノ保全ヲ圖ルカ爲メ、當然缺クヘカラサル義

務ト謂フヘシ(商法第五六一及五六二條)、

(四) 妄ニ船舶ヲ去ルヘカラサル事

船長ハ元來船主ニ代リ船舶ノ航海及之ニ關スル一切ノ業務ヲ掌理スルモノナレハ、當初出帆ノ時ヨリ目的地ニ到着スル時マテ、妄ニ船舶ヲ去ルヘカラサルハ勿論、貨物ノ船積、陸揚并ニ旅客ノ乗船、上陸ノ際ノ如キモ、自ラ船内ニ在リテ之ヲ監視セサルヘカラス、而シテ公私ノ用務ノ爲メ上陸ヲ要スルトキハ、已ムヲ得サル場合ヲ除ク外ハ、須ク一等運轉士ノ如キ自己ニ代リテ船舶ヲ指揮スヘキ者ニ、其ノ職務ヲ委任シ之ヲ船内ニ留ムルヲ要ス(商法第五六三條)、

(五) 妄ニ豫定ノ航路ヲ變更セス又豫定外ノ港ニ寄航セサル事

航海ノ準備整ヒタルトキハ、船長ハ天候ノ許ス限り猶豫ナク航程ニ上ルヘキコト當然ニシテ、一旦航海ヲ始メタル以上ハ、船主ノ命令又ハ運送契約ノ示ス所ニ從ヒ、指定ノ航路ヲ取り指定ノ諸港ニ寄航シ以テ目的地ニ到達スルノ義務アリ、若シ途中海難其他必要ノ事由アルカ爲メ、豫定ノ航路ヲ變シ或ハ豫定外ノ港ニ寄航スルコトアランニ

ハ、船長ハ最寄ノ管海官廳ニ其旨ヲ報告スルト同時ニ、後日ノ爲メ必要アルトキハ其ノ認證ヲ受ケ置キ、又船主始メ他ノ利害關係人ニモ直ニ通知スヘキナリ(商法第五六四條船員法第一七及一八條)、

(六) 航海中危險ノ虞アル場合ニハ自ラ甲板上ニ在ルヘキ事

左ニ列舉スルカ如キ場合ニハ、船舶ハ危險ヲ被ルノ虞アルモノナレハ、船長ハ職務上ノ義務トシテ船橋其他甲板上ニ在リテ自ラ指揮スヘキモノトス(船員法第十五條)、

- 一、港灣ヲ出入スルトキ
- 二、狹隘ナル水路ヲ通過スルトキ
- 三、針路ヲ變更スルトキ
- 四、速力ヲ増減スルトキ
- 五、夜間陸地ノ近傍ヲ航行スルトキ
- 六、航行中濃霧其他不良ノ天候ニ際會シタルトキ

(七) 積荷ノ處分ニ關シ關係人ノ利益ニ最モ注意スヘキ事

船長ハ航海中積荷ヲ處分スルニ方リ、荷主其他利害關係人ノ利益ヲ主眼ト爲スヘキコト理ノ當然ニシテ(商法第五六五條)、若シ積荷處分ノ方法ニシテ當ヲ得サルトキハ、

船長ハ却テ損害ヲ賠償スル等ノ責ヲ負ハサルヘカラス、例ヘハ積荷カ途中ニ腐敗滅損ノ虞アルカ爲メ之ヲ陸揚賣却スルトキハ、可成高價ニシテ而モ費用ヲ要セサル方法ヲ取り、若シ相當ノ餘日アラハ先ツ須ク荷主及船主ニ通知シテ其ノ指圖ヲ受クヘシ、又海難ノ爲メ投荷（打荷トモ云フ）ヲ要スル場合ニ會セハ、最モ廉價ニシテ目方重キモノヨリ最初ニ放棄スルコトニ注意シ、他ノ貴重ノ物品ニ可成損害ヲ及ホサ、ルヲ可トス、

(八) 船主ニ報告及計算ヲ爲スヘキ事

總テ代理人ハ其ノ委任者ニ對シテ自己ノ執行シタル代理行爲ニ付キ、一切ノ報告及計算ヲ爲スノ義務アルモノナレハ、船長モ亦此ノ原則ニ依リ委任者タル船主ニ向テ、其ノ執行シタル航海上ノ業務ニ付テ詳細ノ報告及計算ヲ爲サ、ルヘカス、例ヘハ諸港發着ノ日時、天候ノ概畧、積荷旅客ニ關スル事項、其他航海中ノ重要ナル出來事ヲ猶豫ナク報告シ、又毎航海ノ終ニ航海中ノ計算書ヲ製シテ船主ノ承認ヲ求メ、若シ船主ヨリ請求アレハ何時ニテモ計算上ノ報告ヲ爲スヘキナリ（商法第五七三條）、

(九) 船舶放棄ノ場合ニハ最後ニ去ルヘキ事

船舶若シ不慮ノ災難ニ罹リタルトキハ、船長ハ人命、郵便物、必要書類、船艙及積荷ノ保護ニ付、臨機適當ノ處置ヲ施スヘキハ勿論ニシテ、到底救助ノ見込ナク放棄セサルヲ得サル危態ニ瀕スルトキハ、旅客ヲ始メ乗組員一同ヲ去ラシメタル後ニ非サレハ船長自身ハ如何ナル理由アルモ其ノ船舶ヲ去ルヘカラサルモノトス（船員法第一九條）、

(十) 海難救助ノ事

他船ト衝突シ其ノ船舶又ハ人命ヲ救助スル必要アルトキハ、本船ニ急迫ノ危険ナキ限り之カ救助ニ盡力スヘシ、又航海中救助ヲ求ムル他ノ船舶ヲ認メタルトキハ、同ク本船ニ急迫ノ危険ナキ限り、旅客、船員ノ別ナク人命ヲ救フニ盡力スヘキナリ（船員法第二〇及二一條）、

(十一) 航海ニ關シ官廳ニ届出ツヘキ事

船長カ航海中ノ責任ヲ明ニシ且ツ他日ノ證據ニ供スルカ爲メ、船長ハ航海ニ關スル其ノ業務及出來事ニ付キ官廳ニ届出ノ義務二種アリ、即チ一ハ平素外國航船ノ航海ニ關スルモノニシテ、一ハ海難等異常ノ變アルノ際ニ於ケルモノ是ナリ、左ニ之ヲ分説

スヘシ、

- (イ) 本邦ト外國トノ間又ハ外國諸港ノ間ニ往來スル船舶ハ、外國ノ港ニ入港シ、又ハ本邦ニ到着スル毎ニ、二十四時間内ニ、其港ノ管海官廳(其港ニ該官廳ナキトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳)ニ航海日誌 (Official Log) ヲ差出シ檢閲ヲ受クヘシ、尤モ入港ノ時ヨリ十二時間内ニ出帆スル場合ニハ此ノ手續ヲ要セス (船員法第一六條)、
- (ロ) 航海中左ノ出來事アリタルトキハ船長ハ最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ出頭シテ詳細ノ報告ヲ爲スヘシ、又後日ノ證據上必要ト認ムルトキハ、別ニ報告書ヲ作リ該官廳ノ認證ヲ請フヘシ (船員法第一七及一八條)、
- 一、豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ
 - 二、人命又ハ船舶ヲ救助シタルトキ
 - 三、衝突其他ノ海難ニ罹リタルトキ
 - 四、船舶ヲ捕獲セラレタルトキ
 - 五、船内ニ在ル者死亡シタルトキ
- 而シテ右第二號以下ノ事項カ碇泊中ニ起リタルトキ、又ハ豫定外ノ港ニ寄航シタルトキハ、其港ノ管海官廳ニ報告スヘシ、

(十二) 船内死亡者ノ始末

海員又ハ旅客カ船内ニ於テ死亡シタルトキハ、船長ハ其ノ遺産(海員ニ在リテハ當ニ受クヘキ給料ヲモ含ム)ヲ保管シ、事ノ詳細ヲ航海日誌ニ記入シ、船舶着港ノ後其旨ヲ當該官廳ニ届出ツヘシ尚ホ本項ニ付テハ第十九章第六四ヲ參看スヘシ (船員法第二二條及戶籍法第一三〇條)、而シテ航海中船内ニテ水葬ヲ行フトキハ相當ノ禮式ヲ具フヘキハ勿論トス、

(十三) 在外日本人送還ノ事

在外帝國公使又ハ領事等ヨリ日本人送還ノ事ヲ命令セラレタルトキハ、船長ハ他ニ正當ノ理由アルニ非サレハ宜ク該命令ニ從ヒ、其ノ船便ニテ本邦ニ送還スヘキモノトス (船員法第二三條)、

第四 船長ノ行爲ニ關スル船主ノ責任

船主カ船長以下乗組員ノ行爲ニ對シ當ニ負フヘキ責任ノ範圍ニ付テハ、英、佛、獨等各、其ノ主義ヲ異ニスレトモ、我國ニ於テハ今日廣ク行ハル、佛國ノ委任權主義トランスドメインヲ採用シ、船舶及運送貨ノ如キ所謂海産ノミヲ債權者ニ委付シテ責任ヲ免ル、コト、定メタリ、

即チ船主ハ船長カ法定ノ權限内ニ於テ爲シタル行爲、又ハ船長其他ノ乘組員カ職務ヲ行フニ方リテ他人ニ加ヘタル損害ニ付テハ、航海ノ終ニ於テ其ノ船舶及運送貨(債務ノ生シタル航海ニ依テ)取得シ又ハ取得ス、並ニ船主カ其ノ船舶ニ付キ第三者ニ對シテ有スル損害賠償(共同海損又ハ衝ヘキ運送貨ニ限ル)、又ハ報酬(海難救助ノ報酬又ハ備船者ニ對スル報酬ノ如シ)ノ請求權ヲ、債權者ニ委付シ以テ其ノ責ヲ免ル、コトヲ得ヘシ、然レトモ船主自身ニ過失アリタル場合ハ、一般ノ原則ニ從ヒ無限ノ責任ヲ負ヒ、全財産ヲ以テ其ノ責ニ任セサルヘカラサルコト當然ニシテ(商法第五四四條)、其他船長カ船主ヨリ特別ノ委任ヲ受ケテ爲シタル行爲ニ付テハ、船主ハ亦均ク無限ノ責任ヲ負ハサルヘカラス、若シ特別ノ委任ナク船長ノ獨斷ニテ、航海ノ爲メ費用ヲ支出シ又ハ債務ヲ負擔シタル場合ニハ、船主ハ船長ニ對シテ前顯同様ニ、船舶、運送貨及或ル請求權ニ限り之ヲ委付シテ其責ヲ免ル、コトヲ得ヘキナリ(同第五六九條)、

第五 船主ノ船長解雇權 (The Right of Dismissal)

船長ハ船主ノ代理人ニシテ廣大ナル權限ヲ有スルモノナレハ、常ニ船主ノ信用ヲ得ルヲ必要トス、若シ一度其ノ信用ヲ失フトキハ、船主ハ雇入期間ヲ定メアルト否トヲ問ハス

何時ニテモ其意ニ滿タサル船長ヲ隨意ニ解雇スルコトヲ得ヘキナリ、然レトモ之ヲ解雇スルニ付テ正當ノ理由ナク、爲ニ船長ニ損害ヲ被ラシメタル場合ニ於テハ、船主ハ當然賠償ノ責ニ任セサルヲ得サルモノトス(商法第五七四條)、之ニ關シ佛國ニ於テハ船長カ航海前ニ解雇セラル、トキハ、其ノ艙裝ノ勞ニ對スル報酬ヲ、若シ航海ノ途中ニ解雇セラル、トキハ船籍港マテノ旅費、當ニ受クヘキ給料、手當等ヲ請求シ得ルノ權利ヲ與ヘ、英國ニテモ不當ノ解雇ヨリ生スル損害賠償權ヲ船長ニ與ヘ、獨逸モ亦船長ノ爲メ利益アル規定ヲ設ケアリ、

茲ニ聊カ世ノ船主カ實際船長ヲ解雇スヘキ場合ヲ考察センニ、夫レ船長ハ航海ノ技術ニ熟達シ船内一切ノ業務ヲ統理スルノ智能ヲ有スヘキハ勿論、常ニ船主ノ利害ヲ以テ念ト爲スヘキコト理ノ當然ナリト雖モ、神ナラヌ身ノ時トシテ不慮ノ過失ノ爲メ、法律上ノ處分ヲ受ケ若クハ船主ニ金錢上ノ損害ヲ及ホスコトナキヲ期スヘカラス、嚴確ニ言ヘハ是レ即チ船主ニ對シテ默々ノ誓約ヲ破レルモノナレハ、直ニ解雇セラル、モ亦辨解ノ辭ナシ、然レトモ世ノ船主ハ少許ノ過失ヲモ恕セス、一々解雇ノ權ヲ勵行スルカ如キコ

ト無ク、詐偽、^{バタリ}亂醉、命令違反等重大ナル失行アル者、若クハ實際船長ノ任ニ適セサル者ニ非サルヨリハ、其ノ雇入期間中濫ニ解雇セサルノ例ナリ、尤モ船主ノ都合ニ依リ、何時ニテモ解雇スヘキ旨ヲ特約シタル場合ハ此限ニ在ラスト知ルヘシ、

其他英國ノ判決例ニ依レハ、重大ナル失行若クハ不適任ノ場合ヲ除キ普通解雇セラル、場合ニハ、雇傭契約中ニ雇入期間等ニ付キ特別ノ約束ナキ限り、船主ハ相當ノ時日前船長ニ對シ解雇ノ旨ヲ豫メ通告スルノ義務アルモノトス、而シテ右豫告ノ時日ハ之ヲ一定スルヤ難シト雖モ、其ノ船舶カ本國ヲ離ル、距離ノ遠近ニ從テ長短アルヘキハ當然ナリトス、又船長若シ外國ノ港ニ於テ正當ノ理由ナク解雇セラル、トキハ、歸國旅費ト其間ノ維持費トヲ請求スルノ權アリ、若シ又往復航海ノ契約ヲ以テ雇入レタル場合ニ、正當ノ理由ナク中途ニ解雇セラル、トキハ、他ニ職務ヲ求ムルカ若クハ契約ニ定ムル期限ノ盡クルマテ、依然給料ヲ受クヘキモノトス、

第六 船主ノ船長處分法

船長カ職務上ノ行爲ニ付キ船主ニ對シテ責任ヲ負フ事ハ、商法ノ規定スル所ニシテ若

シ、疎愚、懈怠等ノ爲メ船舶又ハ積荷ニ損害ヲ生シタルトキハ、船長之ヲ賠償スルノ責アルハ前文船長義務ノ項ニ述ヘタルカ如シ、然レトモ船長ハ巨萬ノ財産ヲ有スルモノ稀ニシテ、其ノ過失ノ爲ニ醸セル普通莫大ナル損害ヲ賠償スヘキカナキヲ以テ、結局船主ノ損耗ニ歸セサルヲ得サルナリ、蓋シ船主ニ於テハ自己ノ被傭者タル資力裕ナラサル船長ニ向テ、一々法文ヲ稱ニシテ要償權ヲ主張スルカ如キコトナキハ内外國ノ慣習ニシテ、船長又ハ海員ノ過失ノ爲メ損害ヲ醸スコトアルモ、大約船主ニ於テ之ヲ補償シ、船長等ニ對シテハ其ノ過失ノ大小ニ應シ、解雇、停職、降級、減給、罰俸、譴責等ノ處分ヲ爲スニ過キサルヲ例トス、

(參照)

英國ニ於テハ法令ヲ以テ船主ニ船長ノ給料沒收ノ權 (Forfeiture of Wages) ナ附與ス、今斯道ノ大家ナル英國海事裁判所判事ラシントン博士ノ判決文ヨリ要領ヲ引用シテ、給料沒收ニ關スル法理ヲ明ニスヘシ、博士曰ク「船長ニシテ著ク義務背反ノ舉動アルカ或ハ船長ノ任ニ不適當ナルカ或ハ居常酒ニ耽リ職務ヲ等閑ニ附スルカノ如キ重大ノ失行アルニ於テハ、之カ爲メ船主ノ被レル損害ノ大小ニ論ナク其ノ給料ヲ全ク沒收シテ可ナリ、將又船主ハ豫メ斷乎タル訓示ヲ發シ、若シ船長ニシテ故意ニ船主ノ命令ニ背クモノアツハ、此ニ由テ何等ノ惡結果ヲ生セサルニセヨ、其ノ給料ヲ全然沒收スヘシト警戒スルモ差支ナシ、然レトモ人各、技能ノ度ヲ異ニス、船長タルモノハ其ノ職務上ニ於ケル才能及經驗ノ深淺多少ニ應シ自己ノ判斷ヲ誠實ニ履行

スレハ足レルヲ以テ、惡意又ハ犯罪ノ廉ナキ船長ノ過失ニ付テ給料全額ヲ沒收スヘキ限ニアラス、要スルニ船長ハ某船ノ船長トシテ其ノ職務ヲ盡スヘキ旨ヲ船主ニ誓約シ、之ヲ報酬トシテ給料及手當ヲ受ケルモノナリ以上ハ、雇主タル船主ニ對シ完全ニ義務ヲ履行スルニ非スハ何ヲ以テ自己ノ要求ヲ成立スルヲ得ヘケンヤ、此ノ原理ハ船主ト船長トノ間ノミナラス、船主ト一般海員トノ間ニ於テモ又他ノ雇傭契約及貸借契約ニモ貫通スヘキモノニシテ、而シテ斯ル契約ニ關スル判決ニ付テ海事裁判所ト他ノ普通法廷トノ間ニ存スル差異ハ、海事裁判所ニテハ海員ノ解雇又ハ失行ヨリ損害ヲ生スルトキハ、其ノ損害ヲ補償スルニ唯、船員ノ給料ノミヲ以テセシムルノ例ナルニ他ノ法廷ニ在テハ全ク給料ニ手ヲ着ケサルノ一點ニ在ルノミ云々ト

其他又英國海事裁判所ノ諸判決例ヲ按スルニ、船長及運轉士ノ懈怠ノ爲メ尙不足ヲ生シ船主ニ於テ之ヲ辨償シタル場合ニハ、其ノ辨金ヲ當該者ノ給料ヨリ差引クコトヲ許容シ、又船員ヨリ給料請求ノ訴訟ヲ起ス場合ニハ、前示ノ如キ損害辨金ニ係ル船主ノ反訴ヲ受理シテ併考スヘシ、之ニ反シテ船長カ單ニ職務ニ不案内ナル爲メ或ハ知慮足ラサル爲メ、縱シ船主ニ對シテ金錢上ノ損失ヲ醸スコトアルモ、之カ爲メ給料ヲ沒收スル等ノ事ナキナ例トス

第七 船主ノ變更

船舶ノ航海中賣渡質流等ノ爲メ其ノ所有權甲ヨリ乙ニ轉スルトキハ、船長ト新舊船主トノ關係如何ニ成行クヘキヤト云フニ、英法ニ依レハ船長ト新舊船主トノ關係ハ右船主變更ノ通知ニ接シタル日時ヨリ確定シ、之ニ接スル時マテハ從前ノ關係ヲ變スルコトナシ、

而シテ其ノ雇入期間ノ滿了前ニ解雇セラル、コトアランニハ、船長ハ舊船主トノ契約ヲ楯トシテ當然其ノ權利ヲ主張シ得ヘキモノトス、

第八 恩給 (Pensions)

海員恩給ハ、左ノ如ク大要三種ノ別アリ、

- (一) 一定ノ年限間勤績シタル者一定ノ年齢ニ達スルカ、疾病、傷痍等已ムヲ得サル事由アルカ、又ハ船主ノ便宜ニ依リ解雇若クハ辭職シタルトキハ給與スルモノニシテ、養老金又ハ勤績慰勞ノ性質ヲ帶フ、
- (二) 職務ノ爲メ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ、其ノ結果ヤ不具廢疾ノ身ト爲リタル者ニ對シ、解雇若クハ辭職ノ際救恤ノ意ヲ以テ給與スルモノナリ、
- (三) 一定ノ年限間勤績シタル者死亡シタルトキ、又ハ一定ノ勤績年限ニ達セサルモ職務ノ爲メ死亡シタルトキ給與スルモノニシテ、吊祭料又ハ遺族扶助金ノ名義ヲ以テ給與スルノ例ナリ、

蓋シ海員恩給ノ事ハ、主從ノ關係ヲ密ニシ恩義ヲ明ニスル美風ニシテ、内外主要ノ汽

船會社ニ於テハ夫々内規ノ設ケアリ、又海員保護ノ精神ニ基キ特ニ法律ヲ以テ海員恩給制ヲ定ムル邦國アリ、佛獨ノ如キ是レナリ、

(參照)

○佛國一八九七年改正海員救災及恩給法抄出

- 一、佛國海員ハ海員登錄法ニ依リ一定ノ年限間海軍豫備員トシテ服役スルノ義務ヲ有シ服役滿期ニ至ル者ハ一定ノ恩給金ヲ受クヘシ而シテ軍艦、商船ヲ間ハス海上勤務二十五年ニ及ヒタル海員ハ養老ニ差支ナキ程度ノ恩給ヲ受クト云フ
- 二、恩給金ノ額ハ海員退役ノ當時ニ受クル俸給額ニ依リ之ヲ算定シ海軍勤務ノ期間毎五年ニ付毎月二圓四拾錢乃至四圓ヲ加給シ又十歳未滿ノ幼兒アルトキハ一人ニ付毎月八拾錢乃至一圓二拾錢ヲ加給ス
- 六拾歳以上ニシテ疾病ニ罹リタル者若クハ六拾歳以下ナルモ服役中大傷疾ヲ受ケタル者ニハ毎月三圓六拾錢乃至五圓六拾錢ヲ加給ス
- 三、海員死亡シタルトキハ其ノ受クヘキ最高恩給額ノ半ヲ寡婦ニ給シ十歳以下ノ孤兒アルトキハ一人ニ付毎月八拾錢乃至一圓二拾錢ヲ加給ス

○獨逸一八八七年制定海員救濟ニ關スル保險法抄出

- 一、本法ハ海員服役中ノ災害又ハ死亡ニ因リ本人又ハ遺族ノ被リタル損害ヲ救償スルヲ以テ目的トス
- 二、獨逸國航海船ニ乘組ム各海員(無給海員ヲ除ク)并ニ救命艇乘組員、水難救護手、海岸望樓手、燈台看守、浮船渠及其ノ類似場所ニ勤シタル者ハ均ク本法所定ノ救償ヲ受クヘシ但シ故意ニ災害ヲ被リタル者、漁船又ハ総積量五千立方米突以下ノ船舶ノ乘組員ハ此限ニ在ラス
- 三、救償金ノ割合ハ各人最近三年間ノ收入ヲ平均シ之ヲ一ケ年ノ收入トシテ算定ス

- 四、船主及他ノ雇主ハ組合ヲ設ケ救償金及維持費ヲ支出スヘキモノトス
- 五、救償金ノ割合ニ關シ一例ヲ示セハ外國航汽船又ハ帆船ノ船長不具若クハ痲疾ト爲リタルトキハ毎年五百圓、死亡シタルトキハ寡婦百五拾圓、孤兒アルトキハ一人ニ付百十圓ヲ給ス但シ總高四百五拾圓ヲ超ユルコトヲ得ヌ又一等水夫ハ百八拾圓、寡婦五拾圓、孤兒一人ニ付三拾圓但シ總高百三拾圓ヲ超ユルコトヲ得ヌ
- 六、近頃ノ風説ニ依レハ獨逸海員ハ此ノ救償金ニ満足セス各自平常相當ノ儲金ヲ爲スモ可ナルヲ以テ其額ヲ増加センコトヲ請願シツ、アット云フ

○英國海軍豫備員規定抄出

- 一、海軍豫備ニ屬スル商船士官ニシテ海軍服役中負傷シタルトキ受クル恩給又ハ死亡シタルトキ其ノ寡婦及孤兒ノ受クル恩給ハ總テ等級相當ノ海軍武官ニ準ス
- 二、海軍豫備ニ屬スル水夫ハ年齡六十歳ニ上レハ毎年十二磅ノ恩給ヲ受ク
- 三、其他一般海員ノ恩給ニ關シテハ目下公ノ規定ナシト雖モ一七四七年頃海員恩給協會ト稱スル組合アリ政府ヨリ相當ノ保護ヲ受ケタリシニ一八五一年解散シタリシガ目下英國ノ有志者ハ再ヒ政府ノ保護ニ依リスル協會ヲ設立セントテ主張スルモノ尠ナカラス

○日本郵船會社々員恩給規則抄出

- 一、恩給ハ勤績慰勞金、負傷手當金及祭葬料ノ三種アリ
- 二、勤績慰勞金ハ滿五年以上誠實ニ勤績シタル者ニシテ(イ)會社ノ都合ニ依リ解雇シタルトキ、(ロ)勤務中死亡シタルトキ、又ハ(ハ)疾病、傷疾等已ムテ得サル事由ノ爲メ辭職シタルトキニ給ス
- 三、負傷手當金ハ職務ノ爲メ負傷シタル者ニシテ會社ノ使用ニ堪ヘス解雇シタルトキニ給ス
- 四、祭葬料ハ職務ノ爲メ死亡シタル者ニ給ス

第九 船長ト傭船者又ハ船舶賃借人

貨物運送ノ爲メ傭船契約 (Charter-Party) ヲ結フ場合ニハ、船主自カラ船長以下ノ船員ヲ乗組マセ、其ノ給料、食料等ヲ支辨スルノ慣例ニシテ、此ノ場合ニ於ケル船長ノ傭船者 (Charter) ニ對スル關係如何ヲ考フルニ(傭船契約ニハ船舶ノ全部ヲ目的トスルモノト一部ヲ目的トスルモノトノ二様アレモ茲ニハ全部傭船ノ場合ニ付テ述フ)通常船長カ船主ニ對シテ有スル所ノ權限ト全ク其ノ性質ヲ異ニシ、傭船者ハ個々ノ物品ニ付キ運送契約ヲ結フ所ノ荷送人 (Shipper) ト同様ノ位置ニ在ルモノナリ、即チ此ノ場合ニ船長ハ傭船者ノ被傭者ニ非ス、又船舶ハ傭船者ノ所有ニ非スシテ、唯、貨物運送ノ目的ヲ以テ之ヲ傭ヒタルマテナレハ、固ヨリ其ノ使用權ヲ有セス、故ニ船長ハ單ニ傭船者ノ船積シタル貨物ニ對シ至當ノ注意ヲ加フレハ可ナリ、而シテ船主ニ對スル關係ニ至テハ毫モ變更スル所ナキナリ(尙ホ船長、傭船者ノ權限義務等ニ付、テハ第三章第二節參看スヘシ)右ニ事換ヘ一定ノ期間ヲ以テ船舶ノ賃借借ヲ約シ、賃借人 (Hire of Ship) ヨリ船員ヲ雇入乗船ヒシムルコトアリ、此ノ場合ニハ船長ハ賃借人ノ被傭者ニシテ船主ノ被傭者ニ非ス、即チ船主ハ其ノ船舶ノ使用權ヲ全ク賃借人ニ引渡シタルモノナルヲ以テ、船舶

ノ利用ニ關シ賃借人ハ船主ト同一ノ權利義務ヲ有シ、從テ船長ト賃借人トノ關係ハ船主ニ對スル關係ト異ナルコトナシ (商法第五五七條參看)。

第十五章 船長、船主ト海員トノ關係

第一 海員ノ雇入及雇止

凡ソ船舶ハ其ノ構造又ハ航路ノ狀況ニ依リ乗組員ヲ定ムルモノニシテ、一船ノ主宰タル船長ハ船舶職員法及船主ノ定ムル乗組定員表ニ依リ、常ニ部下ノ海員ヲ充備スルノ義務アリ、茲ニ海員トハ一人ノ船長ヲ除クノ外、運轉士、機關長、機關士、事務長、事務員、船醫等ノ各部役員ヲ始メ水火夫、大工、荷物方、司厨、料理人、給仕等ニ至ルマテ、荷モ船務ニ従事スル一切ノ乗組員ヲ謂フモノニシテ、船長ハ法令ノ定ムル所ニ依リ是等海員ノ雇入及雇止ニ關スル公ケノ手續ヲ爲スヘキモノトス、然レトモ重ナル船主ニ於テハ多クハ水火夫以下ノ屬員ニ限リ其ノ進退ヲ船長ニ委任スレトモ、各部役員ニ至テハ急ニ補缺ヲ要スル等ノ場合ノ外、船長ニ對スルト均ク船主自ラ之ヲ撰任シ且之カ進退ヲ行フノ慣例ナルカ如シ、

(一) 海員雇入契約及記載事項

現今我國ニ於テ海員ヲ雇入ル、ニハ、通例日本海員救濟會又ハ信用アル個人ノ媒介保證ニ依ル例ニシテ、雇者、被雇者間ニ結フヘキ雇入契約ハ左ノ海員名簿第(三)表ヲ以テ正式トス、即チ雇者タル船長ハ海員雇入ノ際表中ノ事項ヲ夫々記入スヘキモノトス、

海員名簿抄出

(三)

飲食物又ハ其代料ニ關スル記事	雇者署名捺印	雇入期間	航路	特別契約條項	雇入ノ場所	年	月	日		
					明治	年	月	日		
番號	被雇者署名捺印	船員手帳ノ番號	住所	職務	給料	公認	第	號		
							第	號		
							明治	年	月	日

	第 號				明治 年 月 日
	第 號				明治 年 月 日
	第 號				明治 年 月 日

(參照)

英國海員雇入契約記載事項ハ左ノ如シ

- 一、航海又ハ業務ノ性質及期間
- 二、海員ノ員數及名稱
- 三、各海員ノ乗船スヘキ又ハ業務ヲ始ムヘキ時刻
- 四、船内ニ於ケル海員ノ職務
- 五、各海員ノ給料額
- 六、各海員ノ食料
- 七、船内ノ紀律及處分ニ關スル規則

(二) 海員ノ雇止

海員ノ雇入期間滿了スルトキハ雇止又ハ更新ノ手續ヲ爲スヘキモノニシテ、海員若シ船主又ハ船長ノ意ニ滿タサルトキハ、假令雇入期間内ト雖モ任意雇止ヲ爲スコトヲ

得ヘシ、然レトモ法律上正當ニ雇止メ得ヘキ場合ヲ示セハ左ノ如シ(商法第五八一條)、

- 一、發航前海員カ其ノ職務ニ不適任ナルコトヲ認メタルトキ
- 二、海員カ著ク其ノ職務ヲ怠リ又ハ職務上重大ナル過失アリタルトキ
- 三、海員カ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 四、海員カ疾病又ハ傷疾ノ爲メ職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ
- 五、不可抗力ニ依リ船舶カ航海ニ上ルコト能ハサルカ若クハ一旦出帆スレモ不可抗力ノ爲メ航海ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキ

但シ前示第五號及職務ニ原因スル第四號ノ場合ニハ海員ハ其ノ雇入港マテ無賃送還セラルトノ權アリ

(三) 雇入契約ノ終了

又左ニ示スカ如キ場合ニハ、海員ノ雇入契約ハ自然終了スルモノニシテ海員ハ其日ヲ以テ雇止メラレタルモノト認ムヘシ(商法第五八七條)、

- 一、船舶カ難破沈没シタルトキ
- 二、船舶カ大破損ヲ受ケ到底修繕ノ見込ナキニ至リタルトキ
- 三、船舶カ捕獲セラレタルトキ

(四) 海員雇止ノ請求

其他左ノ場合ニ於テハ海員自ラ雇主ニ向テ雇止ヲ請求スルコトヲ得ヘシ(商法第五

八三條、

- 一、船舶カ日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキ
- 二、自己ノ過失ニ原因セサル疾病又ハ傷痍ノ爲メ職務ニ堪ヘサルニ至リタルトキ
- 三、船長ノ虐待ヲ受ケタルトキ

(五)海員雇入期間

總テ海員ノ雇入期間ハ法律上一ケ年ヲ超ユルコトヲ得サル規定ニシテ、若シ引續キ雇入レント欲セハ、更ニ一年以内ノ期限ヲ以テ幾度ニテモ之ヲ更新スルコトヲ得ヘシ
(商法第五八五條)、

(六)海員職務證明書

海員雇止メラレタルトキハ、船長ニ向ヒ職務ノ執行又ハ品行ニ關スル證明書ノ交付ヲ請求シ得ヘキモノニシテ、船長若シ之ヲ交付セサルカ又ハ不正ノ記載ヲ爲セル證明書ヲ交付セルカ爲メ海員ニ損害ヲ與ヘタルトキハ、其ノ告訴ニ依リ罰金ニ處セラルヘキナリ(船員法第三三及五九條)、

第二 海員ノ權利及義務

甲)權利

古代ノ法律ニハ「運送賃ハ海員給料之母なり」(Freight was the mother of wage)ト稱スル諺アリ、海員ノ給料ハ全ク其ノ乗組ム船舶ノ得タル運送賃ノ金高ニ依リ左右セラレ、慣例ナリシモ、今日ハ何レノ國ニ於テモ斯ル規定ナク、海員一タヒ乗船シテ職務ニ服スレハ其ノ雇止メラル、時マテ、一定ノ給料ヲ得又一定ノ食料ヲ與ヘラレ、若シ服役中疾病又ハ傷痍ヲ招クトキハ、一定ノ期間治療費及看護費ヲ支給セラル、ノ權利ヲ有スヘシ、而シテ海員ハ船長ト均ク給料其他ノ債權ニ付テ、對人的ノ請求權ヲ有スルハ勿論、尙ホ對物的ノ請求權(英語ノ謂ユル「マリタイム、リエン」)、即チ船舶、屬具及未收運送賃ノ上ニ先取特權ヲ有スルモノナリ(商法第六八〇條)、之ヲ要スルニ各國政府ハ何レモ海員保護ノ精神ヲ以テ、普通被傭者ノ有スヘキ權利ヨリモ一層寬汎ナル特權ヲ海員ニ附與スルノ常ニシテ、今本邦海員カ法律上特ニ有スヘキ權利ノ大要ヲ列示セハ左ノ如シ、

(一)食料ヲ受クル事

海員ノ給料中ニハ食料ヲ包含セス、其ノ食料ハ船主之ヲ負擔スルハ一般ノ慣習ニシテ、其ノ職務ノ重要且ツ危険ナルヲ以テ普通陸上ノ被傭者ト異ナリ、一定ノ給料ノ外ニ比較的美味ナル食料ヲ船主ヨリ供給スルノ例ナリ、而シテ海員食事ノ等級ヲ定ムルニハ其ノ職務ノ高下ニ從ヒ、旅客ノ如ク一二三ノ三等ニ區別スルヲ常トス（商法第五七七條）。

(二) 治療費及看護費ヲ受クル事

海員カ服役中疾病ニ罹ルカ又ハ傷痍ヲ受クルニ方リ、其ノ原因ニシテ苟モ自己ノ不行跡其他重大ナル過失ニ在ラサル以上ハ、之ニ要スル治療及看護ノ費用ハ三ヶ月以内（此ノ期間中ニ雇入期間満了スルモ若クハ船主ヨリ雇止メラルルモ關係ナシ）船主ニ於テ之ヲ負擔スルノ義務アルモノトス、蓋シ普通ノ被傭者ハ其ノ雇入期間中ニ病ニ罹リ又ハ負傷スルコトアルモ、之カ雇主タルモノハ自己ノ過失又ハ故意ニ依リ是等ノ疾病、傷痍ヲ醸サシメタルニ非サル以上ハ、敢テ之ヲ治療シ看護スルノ義務ナキヲ通則トスルモ、海員ハ船主ノ爲メ常ニ寒暑風雨ニ曝露シ危険ノ境ニ出入スルモノナレハ、普通ノ被傭者ト異ナリ其ノ保護優待ヲカムヘキ

コト理ノ當然ニシテ、若シ職務ノ爲メ或ハ不慮ノ過失ノ爲メ疾病、負傷ノ難ニ罹リタルトキハ、船主ノ費用ヲ以テ相當ノ手當ヲ施スヘキコト亦自然ノ義務ト謂フテ可ナリ（商法第五七八條）。

(三) 葬式費ヲ受クル事

海員若シ職務ノ爲メ死亡シタルトキハ、其ノ海上ニ水葬セラル、ト内外國ニ於テ陸葬セラル、トヲ問ハス、葬式ノ費用ハ船主ヨリ之ヲ支辨スヘキモノトス、是レ亦海員ヲ保護獎勵スル所以ナリ（商法第五八〇條二項）。

(四) 給料及無賃送還請求權

イ海員カ服役中不行跡其他重大ノ過失ニ依ラヌシテ疾病又ハ傷痍ヲ招キタルトキハ、前述ノ如ク三ヶ月以内ノ治療費及看護費ヲ船主ヨリ支辨セラルヘキ權アルト共ニ、其ノ服役シタル時日ニ對スル給料ヲ請求スルコトヲ得ヘシ、尤モ職務ノ爲メ疾病又ハ傷痍ヲ招キタルモノナルトキハ、其ノ給料ノ全額ヲ請求スルヲ得ヘシ（商法第五七八條）。